

演劇会議

VOL.116 2004年11月

関の咲く花

全編総て再社物語

劇団からついで五十年記念公演

2004年11月20日(土) 18時30分開演
11月21日(日) 14時30分開演
11月22日(月) 18時30分開演

2004年11月20日(土) 18時30分開演
2004年11月21日(日) 14時30分開演
会場 演劇会議交流センター

巻頭言
日韓文化交流の新たな時代をつくるために
第9回全日本演劇フェスティバルのくわな
全国から47集団 307人集う
劇団を結んで(中津川・劇団「夜明け」)
劇団 月は同船や西国別

中野 健
寺島 研
よしだはじめ
安宅 哲雄

西日本劇作家の会編・編集出版

戯曲集『ドラマの森④』

新刊好評発売中!

定価 2200円 2冊以上申し込むと送料が無料になります。

申し込みは東京まで

TEL 0729-41-0554 FAX 0729-41-4401

〈掲載作品〉

楠本幸男・作「海王」

明治初め、紀州太地の圧倒的な自然を背景に、身分や差別の壁に立ち向かう若者を描く。

新田登子・作「香れてなお観音黄葉の…」

日本の気配を作品の流れに取り入れた、人情あふれる喜劇作。

東川宗彦・作「日本の牛」

時代からずれた主人公が、牛と一緒に大暴れ。農業、環境問題などを作者特有のユーモラスな口調で笑い飛ばす痛快喜劇。

井上満寿夫・作「奇蹟の銀行」

ベテランが描く銀行の裏面史。骨格のしっかりした構成がぐいぐいと物語に引き込む。

清水章代・作「風にのれ、ブッピー」

期待の新人が大胆な発想で描く、カッコウの子、ブッピーの物語。見る者、読む者の想像が広がる。



劇団からっかぜ
 『闇に咲く花』～愛嬌稲荷神社物語～
 作 / 井上ひさし 演出 / 布施佑一郎
 美術 / 布施佑一郎 照明 / 茶畑 30 郎
 2004 年 9 月 18 日・19 日、11 月 20 日

今年創立50周年の記念公演のチラシである。50年と歴史を積み重ねてきたが、創立当時のメンバーが残っていない小さな劇団。そんな私たちが「今やらなきゃ」と井上戯曲を取り組むことになった。お願いする方もいないので、制作が中心になり坂田が案を出していった。予算などの関係でフルカラーを諦め、シンプルでありながら強烈に作品のイメージが出せないかと苦心した。お面は女たちの仕事として舞台上で作られている。このお面が夜店に並ぶイメージと作品に描かれている庶民のバイタリティーとやさしさをお面に重ねられないだろうか。お面の一つ一つは庶民の代表。題字に黄色を入れたことで、戦後の混乱の中で庶民の生きていこうとする希望が見えないだろうか。こじつけのようだが、闇の中から浮き上がってくるお面に生への執着、そんなものを表わすことができたらと思ったが…。



◇群馬中芸
 『すすめ! どらねこ団』
 5月3日
 中村欽一 / 作
 せらだひとし / 演出



◇劇団ドラマシアターども
 『月は何処ぞ雨如何に』
 6月27日
 安念智康 / 作 ども / 演出



◇劇団海鳴り
 『真夏の夜の夢』
 7月3日
 シエイクスピア / 原作
 五十嵐陽子 / 翻案 神山昭 / 演出

舞 台

◇劇団やませ
「アチャラカ再誕生」

7月9・10日

「空飛ぶ雲の上五郎一座」文芸部／作
佐々木功／演出



◇劇団あしがえ
「彦市ばなし」

7月11・18・19日・8月1日

木下順二／作 園山土筆／演出



◇劇団上野市民劇場
「男と女と男」

7月11日

横光利一／作 西出 実／演出



公 演

舞 台

◇劇団はぐるま

「アジアものがたり 消えたオアシス」

7月17・18日

いずみ凜／作 汲田正子／演出



◇劇団やまなみ

「ふたりのイーダ」

7月24日

松谷みよ子／原作
宋 英徳／脚本 久保 勝／演出



◇関西芸術座

「満月の夜は、なぞだらけ」

7月30日～8月8日

澤田徳子／原作 勇来佳加／脚色
松本昇三／演出



公 演

◇神戸ドラマ館ボレロ

「見果てぬ夢」
8月7・8日
堤 泰之／作 三村省三／演出



◇劇団四紀会

「雪やこんこん湯の花劇場物語」
8月11・13日
井上ひさし／作 岸本敏朗／演出



◇劇団未来半島

「反古になる蒼い」
8月1日
いとうせいこう／作
仁木 宏／演出



◇京浜協同劇団

「収容所(ラーゲリ)から来た遺書」
8月22日
辺見じゅん／原作
藤田 傳／脚本 内田 勉／演出



◇劇団静芸

「淡墨色の桜たち」
8月28日
小島真木／作 伊藤幸夫／演出



◇東京芸術座

「LOI」
8月25・29日
金城一紀／原作 いずみ凜／脚本
杉本孝司／演出
撮影／蔵原輝人



◆ もくじ ◆

グラビア (舞台)	1
巻頭言	中野 健 8
記念公演 日韓文化交流の新たな時代をつくるために	寺脇 研 10
第9回全日本演劇フェスティバル in くわな	14
上演作品 観劇記	18
劇団馬山 (韓国) 『不器用な恋どろぼう』	境野 修次 18
劇団大阪 『スナーを探して』	山崎 三郎 19
劇団すがお企画 『60歳のラブレター』	栗原 省 22
劇団はぐるま 『ビー玉いろいろ』	植田 令 23
劇団息吹 喜劇 『日本の牛』	中野 健 24
劇団上野市民劇場 『芭蕉翁桃青』	栗原 省 26
京浜協同劇団 『収容所から来た遺書』	猿渡 公一 28
事務局から	21
「感動と驚異のフェスティバル」	李 相 龍 30
北から南から (劇団通信)	31
劇団を訪ねて (中津川・劇団「夜明け」)	よしだはじめ 46
劇評 劇団コーロ 『剛&剛』	神澤 和明 54
劇団潮流 『tayata 一月の森にカミよ眠れー』	〃 56
劇団未来 『山茶花さいた』	今泉おさむ 58
関西芸術座 『満月の夜は、なぞだらけ』	〃 59
神戸ドラマ館ボレロ 『見果てぬ夢』	〃 60
劇団四紀会 『怪談・江島屋騒動』	〃 61
劇団支木 『煙が目にしみる』	田辺 典忠 62
演集和歌山 『月の砂漠』	栗原 省 64
劇団ひの 『ブンナよ、木からおりてこい』	鈴木 太郎 66
劇団蒼生樹 『明日——九四五年八月八日・長崎』	〃 67
青年劇場 『夜の笑い—第二部「接触」』	〃 68
東京芸術座 『GO』	〃 70
戯曲 月は何処ぞ 雨如何に	安念 智康 71
情報BOX	106
全り演・東西合同総会リポート	106
役員は全員再選	107
2004年11月中旬以降の公演	108



舞 台

◆劇団名芸
「十二の月のおくりもの」
8月28日・9月4日
長田芳枝／脚本・演出

◆劇団生活舞台
「ゆかいなどろぼうたち」
9月17・18日
T・エグネール／作
高尾 豊／演出

◆演劇集団和歌山
「月の砂漠」
9月25日
楠本幸男／作 山入桂吾／演出

公 演

巻頭言

中野 健

私が湯田町の銀河ホールを知るきっかけとなったのは、「岩手ぶどう座」川村光夫さんの「がんとり」を劇団支木が上演したことによる。上演台本作り―台詞を津軽の言葉に置きかえる作業―のため、数回にわたって川村さんに添削していただいた。舞台は、私の意図していた以上にアンサンブルもよくまとまっていたが、なんと評価かされるか冷や汗をかきながら待った。「こういう切り口だとカニバリズムの場面もひとつのエピソード的处理となり、残酷さが薄められています。全体にさわやかで良い舞台でした」おおむねこのような評価だったと記憶している。平成5年春のことであった。

この年の秋、国民文化祭が岩手で開催され新築の銀河ホールでは、「民話と語りの芸能」が開催された。これにフロアー発言者として参加してほしいとの連絡が川村光夫さんからあったのは「がんとり」がおわってしばらくしてからであった。

くしてからであった。この「民話と語りの芸能」には群馬中芸・あしおえ・いこら・四日市・未来半島の全リ演関係5劇団が出演するということが、ぶどう座の舞台も観られるという魅力に引かれて、はじめて湯田町に出かけたのである。

人口4000人あまりの山間の町に、本格的な演劇専用劇場が建てられたという。がしかし、銀河ホールのなかに入るまでは、多目的ホールの小型版箱物だろうと予想していた。ところが、舞台機構はもちろんのこと、ゆるやかなスロープの客席、その客席の上下には棧敷席があるなど、舞台との一体感が演出された設計なのである。文字どおり演劇専用劇場であった。これが縁となつて、平成6年の第2回銀河ホール地域演劇祭に劇団支木が「恋歌（ラブソング）がきこえる」で参加した。このときにまさか私が湯田町銀河ホールの演劇事業に長年に

わたって深く関わるとは夢にも想わなかった。それは、以下に述べる3つの事業である。

銀河ホールの「演劇講座」の講師を依頼されたのは平成8年である。演劇のワークシヨップは、青森市で2回の経験しかなくというプログラムを組んでいくか悩んだ。救われたのは基礎としての「演劇講座（4日間）」とあわせて芝居を一本つくり（約2ヵ月間の稽古）上演する実践コースがあり、講座の課題を稽古のなかでさうすることが可能だったことである。

岩手・秋田両県にまたがる複数の市町村社協（北上市・湯田町・沢内村・山内村・横手市）が共同で取り組む高齢者・障害者演劇製作事業がスタートしたのは平成11年であった。「高齢者や障害者（原則65歳以上）が自ら舞台演劇の役者となることで、表現することの喜びや仲間づくりを通して、生きがいのある充実した生活を送る契機とすることを目的とする（略）」事業である。すなわち、地域（広域）を基盤として様々な支援機関が関わって高齢者・障害者による劇団を組織し、本格的な公演の試みをしてゆこうとするユニークな企画である。今年度で6年目である。詳述できないのが残念だが、この事業のポイントは、高齢者・障害者は創造活動の主体者でありたんなる余暇活動の受け手ではないということにある。

平成15年からは新たに湯田町の小中学生を対象とした総合教育事業「演劇塾」が始まった。昨年は、川尻小学校の生徒28人による音楽劇「よだかの星」若林一郎脚色を制作した。今年は湯田中学校4クラスそれぞれが違う作品を製作することになっている。「演劇講座」から「演劇塾」までの仕事をホールのスタッフの皆さんと続けてきて今年で9年目となる。私の湯田町滞在期間は、年間100日を超えるようになった。

これらの他にも地域文化の拠点として銀河ホールは数々の独自事業をすすめ成功させている。ホールができて12年、そのすべてではないにしても、ホールの事業現場に立ち会って感じるのには、一つひとつの事業を成り立たせるために、演劇関係者・関係機関の支援を貪欲に求めることはもちろんのこと、何よりも企画をデザインし展開してゆくホールスタッフの献身と町民の支持を絶えず掘り起こす努力がなされているということである。すなわち「自分たちの町をどうしたらすみよい町にできるか、そのために銀河ホールに何ができるか」という主体的な問題意識に裏打ちされた行動力があるということである。地域をどうとらえるか、そこでの創造・普及はどうあるべきか。銀河ホールでの仕事を通して私たちの創造運動のこれからの意識せすにはいられない。

日韓文化交流の新たな時代をつくるために

寺脇 研

(文化庁文化部長)

(前口上) 桑名でのフェスティバルの冒頭、寺脇研さんの記念講演がありました。寺脇さんは「文化庁文化部長」といういかめしい肩書きとうらはらな大変気さくな方で、お話しされるときなどまず原稿を見ません。マイクを持ってステージを歩きまわりながら直接聴衆に語りかけます。歯切れがよく、映画の話になると一きわテンションが高くなります。根っからの文化人です。

(編集部)

一極集中は文化を貧しくする

私は最近よく韓国へ行きます。ご存じのように、首都で比べるとソウルが1300万人、東京(1200万人)より大きい。韓国の人口の30%近くがソウルに一極集中しています。しかしこれが文化の話になるとそうではありません。例えば私の専門の映画でいえば、今は「釜山国際映画祭」「全州国際映画祭」「光州ビエンナーレ」など、みんな地方都市が元氣です。今日おおいでの「劇団馬山」の場合もプサンのすぐ隣の都市ですね。ソウルに集中していない。一極集中ではない。文化の一極集中は文化を貧しくします。

私の見るところ韓国地方都市の人たちは「自分が世界で勝負しているんだ」という意識をもっている、そこが大事ではないかと思っています。

日本でも例えば九州の「湯布院映画祭」など今は3年に1回ですが29回目です。私も必ず出かけますが、毎回会う人がいる。これは地元のみなさんが自分たちでやっている。赤字が出るとアルバイトをやって埋めてきました。これは大変なことですが。文化はお役所がやるのではなく、自分たちでやる—今はわずかながら文化庁で金を出していますが、「自分たちでつくる文化」の催しというところに意味がある。国や自治体が入れることも大事です。文化庁の予算も100億ばかりだったのが

1000億にふえた。が基本的には、自分たちの力でやる、そこから元氣が出てくる。

観客をふやし底辺を

ひろげなければ文化は育たない

次のステップは観客をどれだけふやしていくか、が問題です。

スポーツ界でも昔はひとにぎりのスポーツマンが黙々と頑張ってきた。水泳の古橋さんは、食うものもない状態で練習していたとき、みんながお米を送ってきてくれた涙ながらに食べたといっています。だが今日では、スポーツは国民的になっていく。サッカーをみてください。地域の各都市がサッカーチームを持ってください。地味なところも。多分アテネオリンピックでは2ヶタの金メダルをとれるでしょう。スポーツがトップだけでなく広がってきたからです。「体操日本」の復活も、子どもの頃から体操クラブなどでやってきたからです。これはスポーツの世界での構造改革です。

今は、文化の世界も、もつともつと裾野を拡げていく時期です。トップクラスの劇団だけ支援していてもダメだ。各地でいろいろなことをやっている劇団がある。今は平田オリザの文章が教科書になっている時代だ。演劇

をやる。劇団のワークショップをやる。演劇を学校の「総合的学習」にとり入れる。演劇をやったことのあるサラリーマンがどんどんふえてくる。演劇をやったことのある企業家、業者、演劇をやったことのある工事人夫：ほとんど裾野が広がるのが大事だ。連二無二トップだけ高める、援助するのでなく、文化の底辺を拡げていく、そうするとトップも高くなる。

国民の3分の1が演劇をみる、そういう状態をつくっていく。

日韓の文化交流、文化共有について

日韓がお互いの文化を共有し文化圏を拡げていくことが文化の底辺を拡げることにつながる。

そのためには、韓国語の学習が必要です。「冬のソナタ」のファンは韓国語を学ぼう。「冬のソナタ」ファンは韓国語の生活習慣を学ぼう。お互いの言葉を学び合い、お互いの生活習慣をよく理解することが必要です。

映画もいろいろな見方があるでしょうが、外国映画をみると、大抵、もつともつその国の文化を知りたいと思うようになる。もつともアメリカ映画は見たいと思わな

い。そうしてその次に、よい映画をみると、その国の

人たちと価値観、意識が共有できるようになる。例えば、家庭のあり方、男女関係、生活習慣など……です。

もちろん日本と韓国との間には歴史的な問題もあります。1906年以来、朝鮮を植民地支配した。以来100年の不幸な歴史があった。それだけにこれからの100年を考えると、日本にとって、まず隣の国韓国と新たな、文化での交流が第一だと思う。

ヨーロッパのEUをみても、それぞれの加盟国の文化をお互いに認め合うことが基盤になかったら、一つになれなかった。まず文化から始まった。将来的には世界が一つになるためにも私たちはまず隣の国と仲良くすることだ。

今の時代は情報化時代だ。戦争のやり方も変わってきた。ということは仲良くやっていたりやり方も変わってきたということだ。過去100年の不幸な歴史を越えた、新しい100年の歴史をつくる。残念ながら北朝鮮の場合、お互いに文化の交流が全くない。だからわかり合えない面が多い。韓国も、ついこの間までは日本の文化はシャットアウトされていた。

拉致問題にしても、戦前に日本がやってきたことにしても、それはそれで大事な問題だ。しかし、今やられていることも大事だ。もちろん悪いことは悪いが、お互い

にやってきたことばかりにこだわっていたらダメだ。

今村昌平さんのやっている日本映画学校に留学している28歳の女性の方が成田空港に降りたら瞬間的に身構えたといっていた。それは子どもの頃から親からきいていた日本軍によるひどい仕打ちが瞬間的にひらめいたからだという。しかし、逆に考えてみると、今、自分は日本が憎いと思っていない。私の知っている日本人、日本の音楽、日本の映画、演劇；それは母からきいたそんな人たちではない、と彼女はいうのだね。

教育も大事です。しかし、文化は教育をこえます。歴史的にみても、古くは朝鮮の文化が日本の文化を育てた。自由な文化交流がつづいた。秀吉の出兵があったが、秀吉は敗れ、江戸時代は韓国を尊敬していた。

その後、明治になって最悪の100年間があった。そのことをどう越えていくかが私たちの課題でもあ。文化は過去を語るが、その目的は未来をどうつづけていくかにある。

今は競争から共存の時代である。1945年以来、断絶の時代があった。1990年以後競争の時代だった。2000年からは共存の時代だ。これからは「共に創造する競争」の時代というのが韓国の文化庁の考え方だ。

2005年は日韓友情年

1905年、日韓保護条約による植民地支配の時代があった。1965年以後も、断絶と競争の時代があった。そしてようやく、日韓友情の時代になった。

これからの100年、未来をどう創造するのか、そのため、今、どういうステップをつくれるか。みなさん、民間レベルで何ができるか、検討してください。

文化は民間がつくってきた。日本が誇る手塚治虫マンガに政府は何も援助しなかった。

日韓文化交流も、官と官のつながりが必要です。しかし民と民とのつながりももっと必要です。そして民と官との間にも、あらゆるチャンスでつながりが必要です。



寺脇 研 氏

文化庁文化部長。1975年東京大学法学部卒業後、文部省入省。職業教育課長、広島県教育長、生涯学習政策担当審議官を経て、2002年から現職。高校時代から「キネ

来年2005年からさらに新しい日韓関係が構築されるでしょう。

過去の歴史を知り、お互いの文化を知り、お互いの違いを認め合い、お互いの良い点を認め合っていきたい。最近知ったのですが環境保護など韓国に学ぶことが多い。買物しても、日本みたいにやたらにポリ袋に入れたり、二重、三重に包んだりしない。もちろん日本の方が良いところもある。ハンカチ一つでも、韓国の人は日本人は男のくせにハンカチを持っているという。彼らにはハンカチをもつ習慣がないから。そういう「勝ち」「負け」ではなく、笑いながら話し合い学び合える新しい関係が大切だ。

時間になりました。フェスティバルのご成功を期待します。(大きな拍手)

マ旬報」に投稿。映画評論家としても著名。

「映画を追いかけて」「映画に恋して」(以上弘文社)、「なぜ学校に行かせるの」(日本経済新聞社)、「動き始めた教育改革」(主婦の友社) など著書多数。

現在、「文化力」により日本の社会を活性化する「関西元氣文化圏」を推進。



日韓ミニシンポジウム

本当によかった。山梨へ帰って仲間
にこの2日間のことを伝え、もつと
もつと団員も増やし、皆に楽しんで
もらえる芝居を作っていきたい。ま
た平和の世の中、一人ひとりが大切
にされる世の中、仲間で支え合う世
の中を作っていきたい／創造意欲を
かきたてられた／全体的におもしろ
かった。劇団の特徴が出て良かった
／エネルギーをいっぱいもらった／
刺激になった。行って良かった／先
の見えない時代だからこそもっと人
を信じたいし、人との共同作業、コ
ミュニティアクトが大切、重要に
なっているのだと痛感した。たくさ
んの舞台を見ることができて学ぶこ
とが多かった。運営にかかわった中
部プロックの皆さんありがとうございました。
また、もう少しレベルアップを／
盛り上がり欠ける気がしました／
三重県では3回目のフェス、大変お

- (21日土) 劇団はぐるま(岐阜市)「ピー玉いろいろ」ー劇団はぐるま きらめく命のためのエチュードー 構成・演出・汲田正子(21日土)
- 劇団息吹(東大阪市)「日本の牛」 作・東川宗彦 演出・木田昌秀(21日土)
- 劇団上野市民劇場(上野市)「芭蕉翁桃青ーその内なる枯野から」 作・島田九輔 演出・杉森正美(21日土)
- 京浜協同劇団(川崎市)「収容所(ラィグリー)から来た遺書」 作・辺見じゅん 脚本・藤田傳 演出・内田勉(22日日)
- 記念講演 文化庁文化部長・寺脇 研 日本文化行政についてー日韓文化交流にふれてー(20日金)
- 日韓ミニシンポジウム(21日土) 出席 李相龍(劇団馬山代表、馬山市文化協会会長)



全日本リアリズム演劇会議・主催

第9回全日本演劇フェスティバル in くわな

(奨桑名市文化・スポーツ振興公社設立10周年記念事業)

全国から47集団 307人集う!!

桑名市民230余人が観劇

04年8月20日(金)~22日(日)
桑名市民会館 総合福祉会館

今回のフェスティバルは目標の250をはるかに超えて、300人を突破した(8回、岩手・湯田は400人)。

日頃から苦勞を重ね、活動している全国の仲間が集い、交流し、元氣をもらった。3年に1回、3日間の開催だが、全国の仲間が、このフェスティバルに寄せる期待は大きい。リアリズム演劇運動の一環として、さらに発展させ、新たな課題と目標

を生み出していこう。

また、劇団馬山との交流は、前回に続き演劇国際交流の大切さをおおいに実感させてくれた。演劇には個性・地域性が大切だが、広い視野も必要だ。

〈参加者の感想・アンケートから〉

- (1) 全体を通して 4時間かけて山梨から来ました。

●上演作品

- 劇団馬山(韓国)「不器用な恋どろぼう」 作・張珍 演出・全民基(20日金)
- 劇団大阪(大阪市)「スナァーを探して」 作・広島友好 演出・熊本一(21日土)
- 桑名市民による朗読(劇団すがお企画)「60歳のラブレター」 作・NHK出版「60歳のラブレター」より 構成・若葉正則／加藤武夫



世話になりました。これまでの大安町、東真町のフェスの頃より熱気が薄くなった感あり、しかし、舞台創造の幅は広がり、上演劇団に敬意を表します。

―受入れ団体なので大変、でもいつも新鮮な気持ちになれるのでいいな、総会ではいつも初心に帰れるのが良さだなあとと思う。自分たちの地域だけでやっていけると知らず知らず視野が狭くなる、来年60歳になるので演劇を通じて記憶と行動、表現に出るといい。全体に高齢化したなあ

―30代後半から40代が抜けている。「スナー…」の役者もそう、上野の功績大きい、印象に残った。

(夜明け 鈴木弘文)

―音響効果がよくない、電話のベルも、奥のドアの音も、GMも、同一のスピーカーから聞こえてくる、強

弱もよわい、全体として。

(蒼生樹 河住)

―市民会館、会場が広すぎて出演団体に気の毒な感じ、福祉会館はまともっていてよかったと思う。全体の老齢化が進んだフェスティバル…：年をとってもがんばっている姿に勇気をもらった。

(土くれ 石塚幹雄)

―全リ演フェスに参加するのは初めて、楽しかった、いろんな舞台を観て、いかに自分たちの世界が小さいか、演劇人としてこれからどうやっていくのか考えさせられた。はぐるまの「ビー玉いろいろ」が良かった、取り入れたいこともあるし、上野市民劇場すごかった、1人で1時間惹きつけるのはすごい芸だと思っし羨やましい、いつか自分もと思っす。

(関西芸術座 梶山文哉)

―全国から、これだけ集って交流して、未来に向っていける、馬山も加わり、文化の交流、平和の交流を強く感じた。上野市民劇場、枯野を歩きながら家族の問題にもっていったのがドラマ性があった良かった。南御堂でのたれ死にするが人間模様がよく浮び、山や起承転結が無くて現代ドラマは成り立。

(個人加盟、劇作家 東川宗彦)

(2)馬山との交流、評価は高い
海外からの参加は視点を広げる。今回のフェスは、国際化へ向かう新しいスタート/馬山を加えたことで厚みというりをもたらした。

―来て良かった、全国で厳しい状況の中でみんなが死にものぐるいで芝居を創っている、それは感動も、300人集ってすごいし準備してくれた人たちの力に感謝。馬山の

フェスティバル in くわな



馬山代表の
あいさつ

参加によって海外に目を向けあった初めてのスタートでうれしい。朝のシンポジウムにたくさん集まったのもすごい、通訳も良かった、これからの時間であれだけ深い内容を伝えてくれたのはすごい、通訳がいらないくらい感じた。これからはもっと海外に目を向けてほしい、本当の日本が見えてくると思う。

(あしおえ 園山土筆)

ちの劇団の若い人も連れてきたいが費用がやはり、無理なので…。
企画としてうまくいかなあと心配していたが、なかなか良い/中味がありました/韓国の人たちの気さくな感じがすごくわかりました/充実した内容/芝居を見るだけではなく、こうした言葉のやり取りは大切、必要である/馬山の劇団についての基本的資料がほしかった/もう少し芝居に則した話があっても良いのでは/韓国の代表の方が答えをはぐらかしてばかり、これでは信用できません。等。

(3)日韓ミニシンポジウム

―フェスティバルニュースから―

Q 韓国政府の文化政策の中で、財政的、人的支援はあるのか?
A 政府からの支援はない。民間人

同士での交流を深めていこうという方針。

Q 演劇人への一般市民の観客としての参加数ほどの程度か?

A 先進国、後進国、発展途上国と比例している。韓国の演劇は日本の歴史より短く20年ぐらいいしかなく、観客は20-30代が多い。日本は中年より上は演劇、若者は酒場…。総体として観客動員は少ない。増やす方法を教えてほしい(笑い)。

Q 昨夜の作品(不器用な恋どろばう)のキャストは専門家か。年間何本の作品をつくるのか。

A 専門家で、給料やギャラが少なく、生活は苦しい。年間4本くらいの新作を作る。公演は2日から1週間程度。

Q 南北統一の問題などテーマにすることはないか。
A ないとは言えない。



上演作品

観劇記 (上演順)

劇団馬山 (韓国) 『不器用な恋どろぼう』

張 珍 / 作 金民基 / 演出

境野 修次

(劇団石るつ)

3年前の岩手・湯田の第8回演劇フェスティバルに続いての上演参加である。

前回は、民族伝統音楽・舞踊を楽しませてくれた舞台だったが、今回は、現代コメディ的芝居であった。

独身アパートに住む、新任の中学教師・ユ・ファイが、寝る前に読書をしている幕開きである。そこへ、教頭の紹介だという男からいきなり求婚の電話。それも2度もあり、苛立つユ・ファイ。

やがて、泥棒 (チャン・ドクベ)

が侵入してくる。ナイフを突きつけられたり、手を縛ったりするが、間が抜けた男のようで、恐ろしくはない。

ユ・ファイとチャン・ドクベのコツケイなやりとりで進行する、そこへ種々な事件が起きる。やがて、階下の自殺願望者の騒ぎが起こり、パトカーや消防車の出動でアパートの外は、騒々しい。警察官が自殺男を説得するために、室を間違えたり、自殺男が壁をよじ登ってくるのを助けたり、等々である。チャン・ドクベ

は盗んだものを持って早く退散したいが、外には多数の警官がいるので外に出られない。
そこへ、教頭の紹介だという男が酔ってくる。チャン・ドクベは、この酔い男を追い出す。
2人きりになると気持は落ちつき、次第に友達同士のような感覚になる。

チャン・ドクベは己れの泥棒体験を話す。いつも平凡な家に入るが、ある家では、大人がいない、子どもだけが泣いている。そこでミルクを飲まし、おむつを替えてやる。ある家では、危篤の老婆が一人、慌てて病院に担ぎ込んだ、など。お人好しの泥棒である。
ユ・ファイは、鍵づくりのような

仕事をみつけて、泥棒はやめたらと

いう。そこへ、ユ・ファイの父親がくる。10年前に妻を失くし、親子2人なのに、娘と離れての生活は寂しいと訴える。それを聞くチャン・ドクベは感激している。

ユ・ファイも父の元に、父は、また、チャン・ドクベも家に来いという。父は娘が来てくれることを喜んで

去っていく。

さて、夜も明けてくる。チャン・ドクベは、手ぶらで、ありがとうと言って去る。

ユ・ファイは、次に会う約束もなく去るチャン・ドクベを見送り、力無くドアを閉め、虚脱状態になる。
やがて、頭に雪のチャン・ドクベがビールを3本持つて入ってくる。

2人抱きあう。

軽快な音楽で幕。
ほのほとした温みを感じさせる話で他愛ないが、リズム感、テンポの良さはすがすがしい。ギャグつばい、笑わせようとする科白があるだろうが嫌味がない、俳優の身体的柔軟さを感じた。

☆ フェスティバル in くわな ☆

劇団大阪 『スナーを探して』

広島友好 / 作 熊木 一 / 演出

山崎 三郎

(劇団静基)

西会議の舞台を観る機会の少ない私であるが、劇団大阪にはなぜか親近感をもっていた。今から35年ほど前、劇団大阪の前身、大阪の金融、損保の演劇サークルの方々が2回にわたって、小島真木の創作「陸橋」

上演のため現地調査を含めて来静したことがある。そのなかに今回演出の若き熊本一さんがいらっしやっ

た。
舞台では、全日本演劇フェスティバル88年サッポロでの「アトリエ」

ついで00年湯田での「そしてあなたに逢えた」の2本を観ている。(余談だが、サッポロでの「アトリエ」公演の見事さに、感銘と刺激をうけ、静芸でも90年に上演している)。

札幌、湯田の2本の舞台は、ディテールにいたるまで誠実に作品に向きあい、それぞれの内面を大切に、外連味の無いすつきりとした舞台であった。そういった舞台づくりの真摯な体質が、劇団大阪には脈々



と流れているのではないだろうか。

今回の「スナーを探して」も心まことに観劇させてもらった。幕があくと、舞台奥のスクリーンに父とスナーの鯨の絵が踊り、幕あきから、童話作家倉内龍一の童話の世界に導き入れてくれる。また幕切れでは、スクリーン一杯の今度は母親を加えた両親がスナー（鯨の子ども）を囲み、たわむれる姿を映し出す。龍一、

都輪子夫婦が交通事故で失った一粒だねの子ども（守）のことをはじめさまざまな屈曲を経ながらも、最後には夫婦が新しい希望への一歩を歩みはじめ、未来への明るさに広がっていくことが、静かに伝わってくる舞台で、ほっとした気持ちになった。

私は舞台の向うに、劇団大阪の創造的歴史のようなものを感じていた。長いあいだ30人以上の劇団員を維持し、何回もフェスティバルに積極的に参加上演し、次々と創作劇に

挑戦し、創造的にも一定の成果をあげ続けてきていることは並大抵の努力ではできないことである。おそらく民主的劇団運営や、組織的アンサンブルがたえず確立され、一人ひとりの能力や意欲が発揮できる体制があるのだろう、こういうきっちり組織を立てていこうとする舞台を観ると気持ちのいいものである。

それにしても、あらずじとして、絵本作家龍一と自分の事故で最愛の子ども（守）を失い、自分も障害を負う妻、都輪子の夫婦がズレを生じ、↓最後にスナーの作品を通じて、2人は生き直すを探し当てる。となるのだが、「生きるすべを探し当てる」にいたるまでの過程でさまざまな要素が投げ込まれてくる作品であるためか、懸命に理解しようと努力している私があった。大変疲れた舞台であった。（私の席の近くで昨日の疲れが寝込んでしまっ

た。観ていて疲れることになり。観客にとって言葉が届けるのか、まず俳優の重要な課題ではないだろうか。

残念だったのは、①効果音が劇場のスピーカーだけのためか、ドアが開閉音がわざとらしく集中がたち切られてしまうのは残念であった。ステージスピーカーはなかったのかしら。②暗転で白のパジャマの都輪子がソファから立ちあがり、スタスタと退場するのが丸みえなのも残念

いる人が数人いた）。

登場する人物がすべて悩みを抱え、苦悩し、生きる方向が見定められず苛立ち、疑心暗鬼に落ち込み、不信をつのらせる。苛立った人々の集い、でもある。それが今の社会の圧倒的多数をしめる小市民的階層の反映というのかしら——夫婦の亀裂、行き違い、孤独、不信、心の傷、ストレス、違和感、そしてお定まりの不倫・競馬・ギャンブル・サラ金・借金・自殺・衝動買い、とあげればきりが無い。これらが次々に投げ込まれた作品では俳優は大変である。論理と一貫性を求め、心の奥底の話せない苦悩やいらだちを表現しようとして苦闘する。思い入れの多い重い会話の連続になる。舞台が弾けてこない。観ていてなんとも、もどかしい、いらいらしくくる舞台になる。これは作品の問題か上演の問題か？他人のことは言えないが、しか

り。観ていて疲れることになり。観客にとって言葉が届けるのか、まず俳優の重要な課題ではないだろうか。

残念だったのは、①効果音が劇場のスピーカーだけのためか、ドアが開閉音がわざとらしく集中がたち切られてしまうのは残念であった。ステージスピーカーはなかったのかしら。②暗転で白のパジャマの都輪子がソファから立ちあがり、スタスタと退場するのが丸みえなのも残念

事務局から

1. まずルーズ / 2. ジコチュウ (?) 3. 無神経 / ……とグチを書き出せば、いずれも我が身に振りかかってくるし、ともあれ延べ500人も人が集まる全国フェスが無事終わったのは、いろいろ不十分さを感じつつも協力してくれた仲間の力であることは事実。酒を呑んでのイザコザも含めて、丸ごと人間を受けとめる演劇の包容力と、それを支える実務雑務の大切さを再確認して、次へむかっていきたい…。

私も含めて今や定年世代、どこでも若返りが求められるが、今回大ホールの司会進行役の内田（はぐるま）、小川（名芸）、舞台責任の石垣（すがお）とスタッフグループ、福祉会館では大東（上野）、佐藤（名芸）、パソコンを駆使して新しいスタイルの広報の中心となった交告（夜明け）、ポルトガル公演前なのに受付で奮闘した（たけぶえ）の若手や、その他諸々の雑務をこなした中部ブロックのメンバー、また「西会議」とのつなぎ役の清原（大阪）のリードにより、大交流会の司会も「あしぶえ」の若者たち（小岩崎、門脇）がつとめてくれた。

桑名市民会館の職員のみなさんが、印刷物制作や広告取り、一般受付など、広範な実務を担当してくださったこと、ホテル宿泊からあぶれざるを得なかった事務局メンバーの突然の宿泊を受け入れてもらった石垣氏のご家族、そして何より上演を引き受け、立派に公演された仲間劇団のみなさんへ心より御礼申し上げます。（栗木）

し一言 // 桑名市民会館は台詞の通りが悪い劇場かと疑いたくなるほど「言葉」が届いてこない。聞こえていても明晰に届かないのはどうしてか。そのあとの劇団息吹や、京浜の公演はよく届いたのに。前述のように作品の特徴にあるのか？

今までのフェスティバル公演の札幌、湯田では感じなかったもの。抑制を心がけ内面の密度を大切にしたい。たためか？ 無声音でつぶやくところや、後ろ向きで話す場面は特に分

かった。車椅子生活で歩けないはずなのにと思ってしまう。「かくし幕」でもと思った。生の芝居は厄介なものである。

桑名市民による朗読

劇団すがお企画「60歳のラブレター」

栗原 省

若葉正則・加藤武夫／構成

(あ・ん塾「主宰」)

今回の「全日本フェス」を一手に引きうけてくれた「劇団すがお」が企画、指導して、一般市民参加でつくりあげた朗読公演である。

「60歳のラブレター」は周知のよう
うに、住友信託銀行が「11月22日」
を語呂合わせで「イイ夫婦ノ日」と
名づけ、夫から妻への、妻から夫
への「素直な気持ち」「感謝の思い」
をキーワードにハガキによる短文を
募集し、その応募作品を「NHK出
版」から出版したもの。2000年
から始まり、現在第3集まで出た。

「すがお」の若葉さん・加藤さん
は、まず出演者(6人)にそれぞれ
数篇ずつ選ばせ、その中から1人3
篇ずつ、計18篇を構成して朗読した。

音楽は在りもの(ピアノ・フルート
曲)使用。なお稽古は若葉正則さん
を中心に2ヵ月、6回。「フェス受
け入れ」の超多忙の中での稽古はさ
ぞきつかつたろう。出演者のうち、

男性3人は「すがお」の現役(若葉
とOB、女性3人は一般主婦である。
「すがお」はすでにこの作品を持っ
て老健施設を訪問したり、イベン
トで読んだりして、何回か公演を重ね
てきているから、全体として安定し
た舞台になっていた。

ハガキ1枚という制約の中にこめ
られたそれぞれの人生のドラマが胸
を打った。特に若葉さんの朗読は技
巧をこえてて真実が伝わった。

朗読は、読み手が書かれた文章か

らうけた感動を、自分の肉体(声)
を通して聴く者に伝え、感動を共感
し合う芸術である。聴者はその朗読
術に魅了されながら、自由な想像の
世界に飛翔する。

「すがお」のみなさんは、一列に
並んだ6人の1人が前へ出て読んで
いる間、自分の出番がまわってくる
のを待ちながら、じつと必死に脚本
をにらんでいた。みている聴衆の方
が切なくなる。

劇団はぐるま「ビー玉いろいろ」

汲田正子／構成・演出

ワークショップなどでよく見られ
る手法を高めた作品と思われます。

「外郎売り」

動きと台詞に関係性はなく、ど
んな遊びをしようとも決して「外郎

いくら朗読といっても舞台であ
る。ゆとりをつくるため、必ず80%
から90%は自分が読む文章は覚えて
ほしい。(他の人の読む文章もでき
るだけ...)客席から言えば、読み手
は1人でも、舞台上に立っている6人
全員が演者である。出演者全員で、
観客聴衆の自由豊かな想像力を助け
てほしい。これがただ一つの注文で
す。お疲れさまでした。

いくらか朗読といっても舞台であ
る。ゆとりをつくるため、必ず80%
から90%は自分が読む文章は覚えて
ほしい。(他の人の読む文章もでき
るだけ...)客席から言えば、読み手
は1人でも、舞台上に立っている6人
全員が演者である。出演者全員で、
観客聴衆の自由豊かな想像力を助け
てほしい。これがただ一つの注文で
す。お疲れさまでした。

植田 令

(劇団こころ)

売り」から外れることはない。それ
故に、見る者には変化が楽しく、演
じる者には難しい作品だとおもいま
す。

懐かしい遊びが舞台の上で演じら
れ、少々ノスタルジックな雰囲気

感じたのは、作品の季節が晩秋だか
らでしょうか？

「猫はしる」

よく知られた児童文学作品です。
「朗読」と銘打ってはいるものの、
実際に朗読が行われた感は少ない。
動きが制限されるからか、場の登
場人物は本をもたず、待機中の役者
が本を読んでいる。

動きや踊りに関しては「流石^{さすが}」の
一言。自ら振り付けを行う人々が居
るからか、乱れもなく個々の技量も
よかったと思います。

ただ、朗読というからにはあの動
きは少し大きかったのではないかと
思ったのですが...

全体的にはあの会場に見合ったシ
ンプルな素敵な作品だなぁと思いま
した。派手に飾りすぎることもなく、
地味すぎることもなく、若々しく実
に生き生きと演じていたことです。



レートに関係者へ怒りをぶつけていく広次。妻の智江（佐藤栄子）は結婚当初から、家庭を顧みず日夜労働運動に駆けずり回る広次に代わって農業と家庭を切り盛りしてきた。長男の照夫（青野充裕）と長女の幸江（秦野智子）は、2人とも思春期の頃、荒れてすさんだ生活をおくったが、現在、照夫は私鉄運転手となり雪江とともに農業の手伝いをしている。

ある日、広次の友人で畜産農家の畑中（大坊晴彦）の牛が狂牛病に罹った疑いで、村中大騒ぎになる。広次は、農水省はもちろんのこと農協にも責任があると猛烈に農協支部組合長（植田恒夫）に抗議し、畑中の救済を申し込めるが埒があかない。一方、追い詰められた畑中は首を吊って借金などの後始末をつけようとす

るが間一髪で広次に救われる。広次一家の年忌法要の日、畑中が家を出したという報せが入り、法要を抜け出して牛の世話をしに飛び出して行く広次だが……。

という具合に粗筋をまとめてしまうと、アクチュアルな農業の実態を描くドラマという印象になるのだが、作者の東川宗彦と演出の木田昌秀は、呪詛に満ちた日本の、とりわけ農村の現実を、喜劇として描いた。人の痛みを我がことのように受け止め行動する広次とこれを支える妻の智江が活きている。随所に観念的な台詞が飛び交うものの、2人の身体感覚と表現力で日常的なリアリティある演技として見せ、漫才を連想させる掛け合いのおもしろさが入り混じって舞台を引っ張ってゆく。

牛たちの不運と自身の不遇を嘆きながら自殺を図ろうとする畑中の場面では、死を選択しようとする人間の内心に光をあてて、その行為を否定する作者のあたたかい眼がいきっている。これを大坊晴彦は達者な演技

で見せてくれた。

状況に抗して頑固に真っ向から突き進む広次は牛になぞらえることができるのだろう。牛が「意思を持つて理不尽な対象に角を突き立てて挑む姿」は、確かに戯画的でありおかしさと痛快さがある。

さてその牛である。銀河ホールの合評会で湯田町の農協幹部が「農協支部組合長の尻を牛がどついたところで何が変わるのか。農の抱えている本質を考えるならば、どつく相手が違うのではないか」と発言し、また畜産を営む湯田の観客の声として「BSE問題はあんなことでは片付かない」と漏らしていたと聞く。自分の生き方にこだわって生きる人は少ない。挫折や妥協はつきものなのである。広次の生き方に共感し、痛快さを味わうものの、ことはそれほど単純ではないということ、これらの批評はしめしている。



「猫はしる」での後半のダンスはあの会場だからこそ、印象に残っているのだろうかと思えます。あまり見慣れない創り方で、とても新鮮で楽しませていただきました。

劇団息吹 喜劇「日本の牛」

東川宗彦／作 木田昌秀／演出

中野 健

(劇団支木)

痛快さの影にあるもの

フェスティバル（桑名）と湯田町「銀河ホール」地域演劇祭の2会場で観劇した。

「日本の牛」の背景にある日本の農業の状況とは一体どうなっているのだろうか。

「日本の農業はこれまで豊かな風土に育てられ、日本の各地できめ細やかに展開されてきた。にもかかわらず、国の農政は画一的な営農のスタイルを、全国一律に及ぼそうと画策してきた。すなわち、さまざま「規制(悪制)」を農民に求める一方で、補助金・助成金の類をふるまい、事態をつくらせてきたのが農政の現実

である」「こうしてジワリジワリ培われてきた「お上頼り」ともいえる長年の習性、農政の現場仲介者でもある農協の自発性・主体性を削ぎ落とし、農民の個性的で積極的な営農の心を傷つけてきたとはいえないか。これは農業の「擬似体制化」である（原剛著・日本の農業）。

すなわち、農基法農政40数年がもたらした日本の農業の危機が舞台の背景となっている。そして、狂牛病である。「関西電鉄」を定年退職し農業に戻った宏次（岩崎徹）とその一家を軸に物語が展開する。

昔ながらの農作業のやりかたにこだわりのながら、国の農政やまわりの農業を見下げる風潮に憤り、スト



ふくきたわかつのライフワークに

栗原 省

—劇団上野市民劇場「芭蕉翁桃青」—

(あ・ん塾「主宰」)

島田九輔／作 杉森正美／演出

2日目の夜(19時から)「上野市民劇場」の「芭蕉翁桃青」その内なる枯野から」を観た。ふくきたわかつさんの「一人語り——芝居」である。

の子守りをしていた芭蕉少年は、遊びに夢中になり妹ひさを川に溺れさせてしまう。冷たい骸となったおひさの口許から白い蝶がとび立つ。

静かな舞台である。正面に笹の葉と雲が淡墨で描かれ、霧が一面にただよっている。風が流れ、琴と尺八の音が蕭条としてきこえる。枯野である。下手に腰を下ろすのにちようにどよい岩が一つあるだけ。たそがれの薄暗い空に蝶が1羽舞う。墨染の衣をつけた芭蕉。蝶はまた1羽、そしてまた2羽。芭蕉は4匹の蝶を追

の俳諧師気取り。欲情のおもむくまま小作人の娘「お考」を身ごもらせる。芭蕉青年17歳、お考16歳。お考は身重の身体で一心不乱に畑仕事に励むが芭蕉は俳諧三昧である。そのお考が畑で男の子を生み落として死んでいた。動揺する芭蕉の前から白い蝶が飛び立った。お考が生んだ子

棲する。お貞の子次郎兵衛も引きとる。そのうち、養子に出した息子友之助が俳諧師になりたいと江戸に出てくる。芭蕉は「宗匠」となって忙しくパトロンたちの気嫌をとりつくりう毎日、息子に俳諧の手ほどきする暇もない。友之助(俳号桃印)がその不満をぶつけると芭蕉はいらだって「お前には素質がない」と怒鳴りつける。その翌日、桃印はお貞と次郎兵衛と3人で行方をくらます。16歳になっていた桃印はすでにお貞となさぬ仲であった。

いながら3人の女と1人の男(息子桃印)の追憶を語る。1人は妹の「おひさ」。芭蕉が13歳の秋。河原で妹

友之助は姉が養子に引きとる。長じて江戸へ出た芭蕉は29歳。俳諧で少しは人に知られるようになり、杉山杉風の世話で「お貞」と同

芭蕉39歳。江戸の大火で家を焼かれ翌年母に死別した芭蕉は野ざらしの旅に出る。それから50歳に至る10年間、芭蕉の漂泊の旅は続き、後に「蕉風俳諧」と呼ばれる境地を切り拓くのだが、島田九輔脚本ではこの芸術的大転機については深く触れていない。



☆ フェスティバル in くわな ☆

戸に戻った頃、もう33歳になっていた息子桃印は浅草寺の裏長屋でお貞、次郎兵衛、2人の娘とひっそり暮らしていた。しかしすでに労咳(結核)で余命いくばもなかった。それを知った芭蕉はムリヤリ桃印をお貞と引き離して芭蕉庵に引きとり、桃印は父のもとで無数の蝶につつまれる夢を見ながら息を引きとる。そしてお貞も後を追うように世を去った。

芭蕉は「おくの細道」をまとめ、大阪への最後の旅に旅立つ。おひさ、お考、お貞、そしてわが薄幸の息子桃印の霊が蝶となって芭蕉によりそって舞う。一体自分が妄執の如く探究し旅しつづけた俳諧とは何だったのか? 芭蕉は蝶を追って消える…。

長い紹介で恐縮だが、これが「劇団上野市民劇場」とふくきたわかつさんの一人芝居のあらすじである。

ふくきたさんの芝居は無駄なものはずべて削り落とした見事な造型だった。しかし、伊賀上野は周知の如く芭蕉の故郷である。私は地元上野市でのこの作品の上演は、さぞ不満が出たでしょう? ときくと、特に芭蕉顕彰会のみなさんから苦情が出たという。当然だろう。島田氏の脚本は、もともと年代記風の、芭蕉の句作品もていねいに織り込んだ長いものだった。それを削りこんでもらったらこうなったのだという。芸術家の私生活だけをとりあげるの

は良いとしても、この作品は他ならぬ「芭蕉翁桃青」とタイトルを付け、俳聖といわれた芭蕉の反面を描いた作品である。私は日本三大漂泊詩人の一人といわれる宗祇の少年時代をミュージカル風に描いて上演したが、宗祇における「連歌」は短詩型文学としての生命もすでに過去形

である。しかし、俳諧は短歌とともに今日も生きた文学でありむしろ新しい生命力を保ち、芭蕉の芸術は今日も国民的文化として光茫を放っている。やはり芭蕉の芸術との関わりで描かなければ、その辺の助平じじいの回顧譚と異ならなくなる。

「:それではわしの夢とは一体何であつたかのう」あの自問自答。一体この「一人語り」はだれに向かつての語りかけであるのか—全篇これ自責の詠嘆であつたとしたら、作者の一人よがりという他ない。そんなことを演出の杉森さんともくどくど話し合ったが、脚本を練り重ねながら公演をつづければ、この作品はふくきたさんの持ちレバとしてライフワークになることは間違いないだろう。

「感動と驚異のフェスティバル」

李相龍

(劇団「馬山」代表 馬山国際演劇祭振興会長)

第9回全日本演劇フェスティバルにわなに参加していろいろお世話になりました。心より御礼申し上げます。驚異の感想を記します。

私たちが日本の演劇関係の人々につき合い始めたのは91年からです。当時、韓国では外国との交流など思いもよらない時期、劇団がおと上野市民劇場を馬山に招待し、韓国の観客に初めて観てもらいました。以降、毎年、日本の劇団を招待したり、私どもの劇団が桑名、湯田、仙台、名古屋、福井、島根(八雲村)などを訪れ公演してきました。この息長い交流が継続できた大きな要因に、今度のフェスティバルでも実行委員

長の重責を果たされた加藤武夫氏(すがお代表)の尽力があります。

出発直前に台風が襲来してとても心配しましたが、無事予定通り来日でき、多くの友人に暖かく迎えてもらい、喜びがこみあげてきました。以前より親しく思い、交流のあった桑名でこういう大きなフェスティバルが開催されたことは、我がことのようにうれしいです。さまざまな気遣いと進行をみて、中部の人たちはじめ並大低のご苦労ではなかったと推察します。

寺脇文化部長の講演も時宜にかなったもので、直接話し合えた時に、私の立場からも「芸術活性化への日本政府の支援」をお願いしました。そ

して2日目の朝、ミニ・シンボと銘うって、卒直な討論の場を設けてくれたことは意義深いことだと思えます。旧知の仲間や、今年の馬山国際演劇祭に参加されたこばやし議長はじめ仙台小劇場や名芸の人たちとも再会できて忘れ難い場となりました。

熱のこもった舞台も、翌日の京浜協同劇団を残すのみとなった2日目の夜、大交流会＝韓国式で言えば送別パーティ＝は、今回の出合いを大切に、またお会いすることを約束するとも楽しい集いでした。今は小さな集まりに過ぎないかも知れないけれど、今後の韓日間の文化交流に大きな橋渡しとなることを確信できました。

だが日本を「近くて遠い国」と言ったのでしよう。私には日本人はみんな親切でやさしく、また過去の過ちを忘れない人々。特に演劇関係者



馬山「不器用な恋どろぼう」

はそうだと思っています。

財政的には厳しいかも知れませんが、こういう草の根の文化交流が、国同士の友好を促し、実を結ぶことを信じています。

今回のフェスティバルに関わった多くの方々に、あらためて御礼と連帯のメッセージをお伝えして、とりあえずのお別れとします。
(要約文責/栗木英章)

北から南へ

劇団通信

〔劇団さつばろ〕

猛暑の夏を乗り越えて、夏休み明けから、本格的に学校公演がスタート。しかし、8月末、9月初めと、2度の台風で、毎週公演延期が出て、その上、18号台風では、札幌で記録的な強風。風速50メートル以上。劇団の看板は吹っ飛び、近所の家は屋根が無くなり、樹木は折れ、倒れ。財政難に追い討ちをかけられているようで、本当に悲しい。でも、悪い話ばかりではありません。劇団道化の了解をいただき、「ピアニヤン」を市民参加のミュージカル(舞台を札幌にうつして)に改稿させていただき、9月はじめより稽古がスタートしました。劇団員は公演を終えて、夜の稽古に参加ですから、体

力・気力が勝負。オーディションで集まった4歳から40歳まで、総勢40人の出演者で、毎週稽古場は熱気ムンムンです。劇団員にとつてはミュージカル初体験。劇団OBで、地元で活躍している俳優の金田一仁志の演出で、年末の公演をめざします。

2年に一度開催の北海道演劇集団の演劇祭は、10月8日から11日、隣り街の小樽で開催の準備が進んでいます。全リ演からは中野健氏を招いています。

アトリエ公演で取り組んだ楠本幸男氏の「結婚申し込み」の再演が実現できそうです。来年は戦後60年・被爆60年。財政的には、「どん底」ですが、演劇人として、時代とどう向きあうかの視点は失

いたくないと思っています。
(長谷川京子)

〔劇団海鳴り〕

今夏はオホーツク地方も猛暑と台風の影響をもろに受けています。

まず7月3日に行つた紋別初、市民参加・5団体合同野外劇公演の報告です。シェイクスピア原作「真夏の夜の夢」を、海鳴りの五十嵐がオホーツク版に翻案し、音楽部分は吹奏楽団とジャズバンドが生演奏、芝居は海鳴りが担当し、客演で現市長や助役さん他6人が参加。森の妖精や海の精霊はバレエ教室、よさこいソーランのメンバーが踊る、出演者総勢130人という大がかりなものとなった。この日の日中の最高気温は

24℃、しかし夕方からぐんと冷えこみ、海辺近くの特設ステージに集まった約9百人の観客は、ふるえながらの観劇。しかし演る側も観る側も野外という開放的な空間を楽しんだようだ。

さて、今年、海鳴りの定期公演は、脚本選定に時間がかかり、小作品に取り組むことにした。小作品といっても中味の濃いやりこたえのある井上ひさし/作「父と暮らせば」を11月21日の上演を決定した。役者も決まり本読みに入ったところである。
(五十嵐陽子)

〔劇団ドラマシアターども〕

結成24年になりました。稽古場兼小劇場でもある「どもⅢ」が今年の11月30日で営

祭を行いました。地元の高校演劇部2校と青森市、八戸市の演劇チーム、そして我々未半島。さらに特別出演として、地元吹奏楽部総勢50人。むつ市中心街のショッピングビルの空き店舗となつている3階に、特設舞台を作り、そこで出演者合計100人ほどが入れ替わり立ち替わり、音楽とお芝居を交互に演じたのです。

5時間ぶつ続けの舞台は冷房も効かないほどの熱気に包まれ(もともと冷房はあまり効かないのだ)、入り口で売ったかき氷は200杯近くで、静かなお芝居の最中にもガリガリと氷をかく音が聞こえ、うーん、これには考え及ばずでした。初めての場所、企画であったので今後の課題点も多々ありましたが、とりあえずは無事終了。

さあ、12月の20周年大会演だうわ!もう10月。(仁木宏)

〔黒石演劇研究会〕

こんにちは! 黒石劇研です。私たちは11月13日、14日に「わりかん」津々見俊文/作・中津鉄雄/演出の上演に向けて稽古の真っ最中です。特にセリフが「大阪弁」ということで、津軽人にはまったく無縁の方言なので、みんな力が入っています。

「わりかん」の内容は、葬式後の一軒家であり、そこで練り広げられる、ある兄妹が痴呆になつていく母の面倒をだれがみるか、施設に入れるか入れないかという話です。稽古をしてるうちに、この「わりかん」のストーリーが、もし現実自分の身にふりかかったら、自分はどうするかなど考えてしまいます。まっ、公演まで津軽人の「じよつぱり魂」で稽古に励み、良い芝居を創りたいと思います。

〔劇団仙台小劇場〕

今夏の全日本演劇フェスティバル、事務局の方々には大変なご尽力をいただきました。今回参加した5人の劇団員ともども大変感謝しています。ありがとうございます。

劇団仙台小劇場は、来年1月と2月に上演(3回公演予定)される「手づくり演劇」の制作に取りかかっています。すでに参加者のオーディションも終わり、9月18日から稽古を開始しています。

今年、私たち劇団の支援のあり方を検討し、公演参加者が自主公演を行えるように先導していくということになりました。

私たち劇団は、自らの公演も果たしながら、地域に密着した活動を展開していこうと考えています。(半澤和彦)

〔劇団だいこん座〕

やっとなり涼しくなりました。

桑名のフェスティバルは友にも会えたり、芝居も観たり、楽しく参加できました。

現在、秋の公演の稽古がすすんでいます。楠本幸男/作・高橋寛/演出「月の砂漠」で10月30日6時30分開演、鶴岡市中央公民館ホールで行います。

この戯曲は西日本劇作家の会「ドラマの森」(2000年度版)に掲載されたもので今まで上演されたことがないということ。ところが作者、楠本幸男氏の所属する劇団和歌山が9月25日に、そして、だいこん座が10月30日に上演することになりました。

内容は「家庭崩壊、そして再生へ」で、父のリストラさうらに浮気、母は老人介護、娘は妻子ある男性との交際、息子はひきこもりと、バラバラになつた家族。そして1年3ヵ月後、再会した4人に希望への道はあるのだろうか

問う内容です。(高橋寛)

〔劇団埼玉〕

埼玉は今、10月16・17・23・24日、11月6・7日、いずれも午後2時30分開演、劇団埼玉稽古場での「かあちゃん」2幕、(山本周五郎/原作、佐藤逸平/脚色、川村武夫/演出)の稽古の終盤に入っています。

代役が多く、真正フルキャストでの稽古はほんの数回しかとれませんでしたが、残された日々、遅れを挽回すべく、全員で少ない稽古に集中力を高めています。(中山浩充)

〔劇団群馬中芸〕

秋風の季節となりました。総会・フェスに参加できず申しわけなく思っています。

先日、県内のある集会以京浜協同劇団の城谷氏の腹話術を見る機会がありました。始

めの観客のつかみという運びといい、その芸に驚きました。

さて、私たちは、今春新作「第42回こと劇場」一すすめ/どらねこ団」一を作りました。中村欽一/作・せらだひとし/演出。中村欽一書き下ろしの創作劇。3匹の野良猫と一匹の犬が繰り広げる笑い涙の物語。「絶望の壁」に隔てられた貧しい街の片隅で「自由のとりで」を築き、

見えない敵に立ち向かう。疎外された者たちが力を合わせてひたむきに生きる姿を、歌と踊りを混じえてエネルギーとシュに描く。初めてのストリートダンスに若い女性の舞踊家を招いて振付けを依頼、汗だくで挑戦中です。

5月3日にあかぎ未来スタジオで初演後、現在学校公演を展開中です。

学校公演は他に「豆コ五人斬」中村欽一/作・せらだひとし/演出、「イーハトーヴォ

ものがたり パート4」一やまなし・雪渡り一宮沢賢治/原作・中村欽一/構成・潤色・幸見彦/演出の2作品を小学校だけでなく、保育園幼稚園や地域での巡演を繰り広げています。(秋山としひと)

〔劇団ひの〕

6月20日・27日に第71回公演、「ブンナよ木からおりてこい」を好評のうちに終え、観客数は745人でした。命のつながり、尊さをテーマにしたこの作品に対し、観ていただいた方から心のもった感想がたくさん寄せられました。自分の生き方に迫った感想が多く、そこからまた多くのことを考えさせられました。

現在、12月公演「泰山木の木の下で」小山祐士/作に取り組んでいます。憲法を変えて「戦争をする国」にしようという動きがある中、原爆

について、戦争と平和についての学習をし、作品理解をすすめています。先日、みんな「HIBAKUSH A」というドキュメンタリー映画を観にいきました。原爆は過去の出来事ではない、まさに現在進行形の課題なのだということ深く認識しました。10月17日には、被爆者の方を招いて勉強会を開催します。40年以上前にかかれた作品ですが、現代に生きるドラマに創造したいと思っています。<http://www.gekidanho.org/>

(佐藤伸枝)

〔劇団蒼生樹〕

7月17日から3日間、劇団蒼生樹創立20周年記念公演第1弾として、「明日」1945年8月8日・長崎」小松幹夫/原作・小松幹夫/脚色を上演しました。記念公演の演目として、何がふさわしいか?こんな時代だから

こそ戦争に対して警鐘を鳴らすべきとの座員の共通した認識から、「明日」を選びました。公演中は、猛暑の3連休であったにもかかわらず、観客は1000人を超えました。原爆が投下される前日の人々の生活を、ただ淡々と描いた作品であるため、観客の反応が心配されました。しかし、公演後のお客様の感想から、観客のみならず「何か」を感じ取っていたと、座員一同、実感しました。芝居で世の中を直接的に変えることはできないが、世の中を変える「何か」を気付かせることができると感じました。

〔東京芸術座〕
劇団創立45周年記念公演の掉尾を飾る「GO」金城一紀／原作・いずみ薫／脚本・杉本孝司／演出、公演は、新宿・紀伊國屋サザンシアターで8月25日から29日まで7回公演。28日の夜公演は当初予定になかったが、劇中歌を担当した〈在日〉コリアンデュオ「KP」とのコラボレーションを企画。
開演前のミニライブと劇中生出演。劇団としては初めての試み。「ラップデュオ」の劇中生出演ということで、多少の不安はあったものの、彼らの秀でた資質と感性から心地よいアンサンブルが紡ぎ出され芸術性を高めることができました。直木賞受賞作で映画化でも話題になった原作なので多少、観客動員を楽観したきらいがあり、集客では失敗でした。観てもらったお客さんには、〈在日〉が身近に

感じられるようになった。と感想が寄せられています。恒例の全国ツアーは今期で終幕する「12人の怒れる男たち」と徐々に評価が高まってきた「夏の庭」で、少しハードなロードが続きます。年が明けると「ウメコがあたり」が加わります。〔郡司〕

全日本演劇フェスティバル、本当におつかれさまでした。特に受け入れの中心になった中部ブロックのみならず、ありがとうございました。やっぱりフェスティバルはいいな…というのが実感です。韓国の馬山から川崎の京浜協同劇団まで、きちんとつくられた舞台が堪能でき、私たちも負けていられないぞと気持が引き締まりました。大交流会のあとそれぞれ街にくり出し、たくさん飲み屋で

全り演の輪が広がっていました。さて、青年劇場は創立40周年記念公演「夜の笑い」第2部「接触」を打ち上げたあと、秋の巡演に入っています。「ケブラーあこがれの星海航路」篠原久美子／作・高瀬久男／演出、10月12日・12月19日、徳島・沖縄・九州・大阪。「17才のオルゴール」森脇京子／脚本・堀口始／演出、10月20日・12月20日、北陸・東海・関東。
お近くでの公演がありましたらぜひおこしください。11月には築地小劇場創立80周年記念公演、12月には「17才のオルゴール」のさよなら公演、そして来春にも3つの作品の東京での公演が予定されています。〔中谷源〕

〔劇団銅鑼〕
☆記録的な猛暑の夏。寝不足気味なこの暑い夏中稽古をし

て「ビッグブラザー」の旅公演がスタートしました。劇団活動の新たな可能性を求め、学校公演の他に、各地で実行委員会を組織しての上演。公演成功に向けて劇団が一丸となつて取り組む。切符販売に駆けまわる女優たち。膨大な仕事量に力強く挑む制作部。人で埋まった客席はもちろん、終演後の熱い拍手、興奮に満ちたロビーの様子が、頑張った人たちへの何よりの祝福になりました。劇団員制作。小関直人のこの作品は、劇団の新たな柱となったようです。大切にしたいと思えます。☆「黒い服の未亡人」を12月1〜5日まで、大塚のスタジオパリオで平成16年度文化庁新進芸術家公演事業として上演。これは第1回北区内田廉夫ミステリー文学賞、大賞受賞作品。4人の新人劇団員たちを中心に、沙見薫／原作・平石耕一／脚色・演出のミス

テリー作品にチャレンジ。後味爽やかな短編作品です。ご来場をお待ちしています。☆「センポ・スギハラ」を10月17日から2週間、大統領選挙に沸く米国のN・YとワシントンD・Cで上演。イラク戦争、パレスチナ、民族紛争これらすべてに深く関わっている現在の米国で「センポ」のメッセージはいかに伝わるのか？ 気を引き締めての上演。今年で打ち上げです。☆「らぶそんぐ」7年近く上演し続けたこの作品も今年で打上げ。観劇後、生徒たちの目が優しく光っているといく人もの先生が感想をくださったほど、元氣と優しさに溢れた作品でした。最後まで精いっぱい上演してまいります。〔黒田志保〕

〔京浜協同劇団〕
桑名のフェスティバルでは大変お世話になりました。実行委員の方々のお力添えをいただき無事に幕を下ろすことができました。誌面をお借りして改めてお礼申しあげます。このフェスティバル参加の前に45周年記念・第2弾として萩坂一／作・和田庸子／脚本・室野定子／演出「いのちの砦」を上演。川崎市幸市民館での公演（6月26日・昼・夜／27日・昼）3ステージを約2200人の観客に観てもらったことができました。3年前から準備を進めて来た念願の創作劇の上演は取材の段階から萩坂氏にお願いし、改稿を繰り返し第4稿の検討を経て、さらに川崎医療生協の当事者の方々の意見を参考に取材を重ね劇団員の和田庸子の台本が完成したのは公演1ヵ月前。出演者も延べ70人を超える大舞台となりました。今回は、演劇集団「土くれ」からは7人（石塚代表も出演）劇団「蒼生樹」の2人の女優

さん。一般市民、医療生協関係者などのご協力で成功、感謝申し上げます。この日、この地で、この人々とを合言葉に45年間地域に根ざした活動を続けてきた実績が実を結んだ公演として多くの観客から高い評価をいただきました。さて、今秋の公演はウイリアム・シェイクスピア／作・城谷創一／脚本・演出・音楽「間違いの喜劇」を12月4日・5日に川崎市幸市民館で上演することにしました。桑名から戻ってすぐに稽古が始まりましたが、シェイクスピア？ 喜劇？ 2組の双子が織りなすコメディ作品に身も心も硬くなってしまったベテラン陣の戸惑いと試行錯誤。テンポと間とアクションに冷や汗と脂汗、2ヵ月半後にどんな舞台になるのやら。間違いだらけの今の世の中で上演する「間違いの喜劇」

間違った悲劇にならないとは限りません(笑)。真実は何かをしつかり見据えていたければと若い演出の弁。

(護柔)

【劇団川崎演劇塾】

劇団川崎演劇塾(代表・小川雅功)では、昨年10月の本公演の頃より半年ほどの間に新人が5人も入団しました。新人教育の成果を披露する劇団内発表会を6月に無事終了。新たな戦力を得て、11月の本公演に臨みます。

今年の本公演は劇団員の藤田るみ/作・演出によるオリジナル作を上演します。舞台はインターネット上のゲームの世界。人と人との関係が希薄になる一方で、ネット上の仮想世界の中で普段の自分とは異なる姿を演じ、他の人とのコミュニケーションを求めている、そんな現代の我々の姿を見つめ直し、普通に平凡

だけでも現実に生きている自身の自分たちの方がはるかに豊かであるということを表します。ネットワークゲーム上のバーチャル(仮想)な世界を、舞台というリアル(現実)な世界で表現しているところも必見です。

(村田)

【劇団静芸】

◇8月28日「第4回しずおか平和のための文化の集い」が市内各種文化団体の参加のもとに開かれ、大成功のうちに終わることができた。総合構成、演出を静芸の伊藤幸夫が担当し、劇団は、詩、短歌、俳句を、ピースリーディングの会の中心に立ち朗読、好評であった。

また今年はじめ、この集いに演劇をと、「淡墨色の桜たち」(小島夏木/作・伊藤幸夫/演出)を上演。18年前の作品だが、今日の状況に充分こたえうる今日的な上演で

あった。観客の笑い涙の中、「戦時下、国防婦人会での、銃後の婦人の務めにだけ人生のよりどころを持っていた老女つるが、最後にその矛盾に気づかされる、その姿が胸にしみた」といったような感想が寄せられた。ぜひ、再演も視野に考えていこうと思ってる。

◇今年度は静岡市ファミリア劇場の企画の中で、各地に小劇場で移動公演の予定。座付作家小島真木が長い間暖めていた創作子ども劇が9月に脱稿。子どもたちに、とことん楽しんでもらえる作品にしようとするも劇団員もこれからの稽古を楽しみにしています。題名は、しずおか民話シリーズ「きつねっ子と波こぞう」(遠州むかし話より)―仮題―。(山崎三郎)

【劇団やまなみ】

◇7月24日、第190回公演

「父と暮せば」に次ぐ感動で時間のたつのも忘れませんでした。丸茂さんの二世の誕生おめでどう。母娘の息の合った演技、やまなみの重い歴史を受け継ぎ新しいヒロインに心から拍手を送りました。ペテランキャストを含めた好演を通して平和への思いを新たにすることができました。

●10月16日、南アルプス市教育委員会の招きで「芝居はこうして創られる」をテーマに講演を依頼され、若手劇団員を中心に準備しています。

●来年1月30日、第4回やまなし県民文化祭総合舞台「甲斐湖水伝説」に劇団あげて参加します。(河野通方)

【劇団名古屋】

●春。公演「あした天気になあれ」のチケット売上枚数は694枚。入金総額167万7100円。総支出約180万円。公演当日の

弁当代も打ち上げの費用もすべて劇団員からは徴集しても赤字。でもみんなよく頑張ったから赤字がこの程度で済んだ。公費助成が銀行利息などに減らされていく。いい仕事ができたと報告(演劇会議前号)した後の作業はつらい。

●夏。谷川伸彦、渡辺和江、河村陽子は「反核名古屋舞台人の集い」の演劇公演「あの日十四歳だった友よ」に出演。ごとうてるよは、指導する「シルバー劇団かがやき」の10周年記念公演に「かがやいて10年/シルバーハウス物語」(100枚)を書き下ろして

演出。さらに「朗読グループひなたほっこ」には「子どもたちの声聞こえる……」を構成・演出する。いずれも、戦争と戦後、そして今日を問う力作。岩田史郎と久保田明は全り演フェスティバルの実行委員の任に当たった。劇団には新人2人入団。

●秋。再び稽古場に結集し、秋の公演の稽古に入る。高橋正園/作の「銀色の狂騒曲」11月13・14日、名古屋市熱田文化小劇場。演出は久保田明。むろん劇団員は総出演。いい舞台を創り、客席をいっぱいにするため、また疾走だ。

【名古屋演劇集団】

演劇フェスティバルの参加ご苦労さまでした。当初、秋の公演を11月に予定していましたが、8月7日8日に核兵器廃絶・平和を守る舞台人の集いの公演「あの日14歳だった友よ」へ劇団としても全面的に参加したこともあり、来年の4月に公演を延期しました。

劇団の年齢構成あるいは劇団員の生活条件を考慮し、稽古期間をたっぷり取り、ジツクリ取り組んでいくことになりました。稽古の合間に、学習時間も設けて日頃課題にし

「ふたりのイーダ」を県立文学館で上演。実働劇団員14人がフル回転して4ヵ月間の稽古で公演にこぎつけた。観客は500席の会場に300人と近年になく少なかった。若者層と新人がチケット普及にがんばった反面、中堅層の実績は最悪だった。このチケット普及の度合いがどのように舞台上に反映するか、お客さんから次のような感想が寄せられました。

「原作の思いや願いを若い出演者たちがきちんと受け止めていてすばらしい舞台だったと思います。椅子も違和感がなく大人の観客にも受け入れられていたと感じました。若い人の熱演にベテランの方たち負けそうですね。原作を読んだこともなく、やまなみの舞台を観るのは初めてという義妹が感動して涙ぐんでいました。ただ灯籠流しの場面に物足りなさを感じました」

ている問題も議論できたらと思っています。ただ、中だるみを感じないようにと気を配っています。

【劇団名芝】

名芝は夏恒例の子ども劇場を終え、来年1月の本公演の稽古をスタートさせたところ。子ども劇場は「十二の月のおくりもの」(原作「森は生きている」脚本・演出/長田芳枝)を上演し、割合好評を得たのですが、制作的には苦戦し、天白・南合わせて約9百人で初めて千人を切ってしまいました。

今後のあり方を再検討する時期にきているようです。次の本公演(1月)は2つの賞の受賞記念公演で、自衛隊のイラク派兵を一家族を通して正面から描いた栗木の新作です。(片野耕治/演出)ぜひご覧ください。その他、名芝も所属する名古屋演劇協議会

の俳優教室、12月には第3回南文化フェスティバルで若手主体の小品を発表、相変わらず多忙な活動ですが、新人も入団。引き続きがんばっていきなさいと思います。(栗木)

〔劇団はぐるま〕

はぐるまは今年、劇団創立50周年を迎えています。記念公演の第1弾として、昨年暮れに「郡上の立百姓」を上演し、夏のミュージカル劇場「アラビアものがたり 消えたオアシス」が第2弾となります。劇団内にレバ選定委員会をつくり、題材さがしから始まった作品で、オリジナル台本はいずみ瀧、演出は汲田正子です。

戦火のたえない現代のアラブと、魔物グルルにおびえる昔話の世界を行き来しながら、平和の大切さと戦いの無意味さ、そして未来への希望を訴えることができましたと思っ

ています。残念なのは、4ステージ、3千人弱のお客さん。自信をもってつくった舞台なのに、観客動員の減少は、悩みのタネです。

さて第3弾としては、こばやしひろし/翻案・演出で、「岐阜わが街」を上演します。明治から昭和にかけての岐阜を舞台に、ふるさとの意味、生きることの意味を問いかける作品です。30周年、40周年にも上演され、今回が再々演となります。

10月29日から31日まで、岐阜市文化センターで4回公演です。(内田薫)

〔劇団すがお〕

「全日本演劇フェスティバルINくわな」お疲れさまでした。市民会館はじめ、中部ブロックやスタッフ、参加者のみなさんなど、多くの方々のご協力のおかげで滞りなく終了しました。上演いただいた

た各劇団のみなさんには大変な苦勞をおかけしました。心配しました財政の方も無事決算を迎えられそうです。いろいろと不行き届きもあったと思いますが、概ね成功との評価をいただけると思います。

韓国・劇団馬山からも感謝の札状が届けられました。

●日韓演劇交流

11月27・28日桑名市コミュニティプラザ2回公演
劇団すがお・成井豊/作 坂下和代/演出「サンタクロースが歌ってくれた」

韓国・劇団クンレ「そばの花咲くころ」現代劇

●「冬のソナタ」の国、韓国・春川市の劇団を招いて演劇交流をします。

2月11・13日柏崎市民会館の日本アマチュア演劇協会全国大会に参加、先日、劇団馬山が上演した「不器用な恋どろぼう」を一部手直しして上演の予定。

また、その後、稽古場公演を予定しています。

●桑名演劇塾

市民と創る演劇づくりの次回公演「17年度公演」の準備に入ります。「桑名日記」「柏崎日記」でテレビでも放映されちよつと有名になりましたが、江戸時代の桑名藩の飛領地「柏崎」と桑名を結ぶ親子の日記。これを戯曲化します。作家は栗木英章氏に依頼。

●第68回公演 成井豊/作 坂下和代/演出「銀河旋律」

5月22・23日、30日4回公演。劇団稽古場250人

●第2回ホテルシアター「60歳のラブレター」公募の市民とともに16月5日2回公演。桑名シティホテル160人

〔劇団たけぶえ〕

桑名でのフェスティバルではありがとうございました。なじみの顔、久方ぶりの顔、顔・顔・顔で本当に楽しい

ひとときでした。韓国馬山の方々にもお会いできて旧交を暖めることができました。

武生に帰って翌23日には、6人がポルトガルへ出発しました。友好劇団「フアティ アス・デ・カ」との「種子島」合同公演です。100メートルばかりの川を挟んで両側の河川敷で種子島、九州、リスボン港それぞれの芝居を同時に、しかも行き交う船と音楽、花火を媒介に相互に関連づけて演じます。

この作品は今まで4回ほど、時と場所によっていろんな形態で演じてきました。今回はトマール郊外の小さな村での試みです。稽古の時間も少なく、充分な打ち合わせもできず日本の所作や風俗などの扱いは不満は残りましたが、大変貴重な経験でした。25日から29日まで、31日には会場をトマール市内のキリスト修道院(世界文化遺産)に

移しての公演でした。これからもいろんな表現形態を模索し、国際公演を続けていきたいと思っています。

来年は国民文化祭演劇祭の本番です。地元の合同公演には菊池寛によって暴君説が定着している松平忠直の遅れてきた青年の苦悩を「忠直卿行状記異聞」として代表柴野が執筆しています。演出は元民芸の米倉斉加年さんです。

〔劇団上野市民劇場〕

先の「全日本演劇フェスティバル」ではみなさま本当におつかれさまでした。我々の劇団では初参加の若者もあり、大変勉強になったようです。良い意味での刺激を受け自ずからの活動に生かすことができれば幸いと願うばかりです。

また、フェス期間中に福祉会館で上演させていただきました。「芭蕉翁桃育」その内

なる枯野から」には、後日、感想をまとめた文書を送っていただき、今度の移動公演に向けての励みとなるような厳しくも暖かい劇評に劇団員一同、心より感謝申しあげることです。

さて、去る、7月11日に劇団の特別公演として上演されました「男と女と男」は無事に終えることができ、現在は、次回公演「花のき村と盗人たち」12月18日、伊賀市文化会館に向けての活動に入ったところです。

ところで、かの市町村合併により、11月1日より上野市は伊賀市になります。てことは、伊賀市民劇場に? いえいえ、劇団名は変わりません。そのかわり、住所が変わります。(大東)

〔劇団夜明け〕

5月の定期公演「車のいろは空のいろ ぱーと3」では

大赤字を出したものの、新メンバーが2人加わって、新しい創造活動が始まっています。7月には次の作品が決まり、読み合わせが進んでいた矢先、「全国フェス、inkくわな」で大きな衝撃を受けたのです。キャストの実年齢と設定年齢のギャップの大きさが、舞台を創造する上で大きな障害になることを実感し、急遽、脚本と公演日の変更を「全フェス」翌週の合宿総会で決定しました(2005年2月、「レンタルファミリ」)。

また9月29日には、地元中津高校定時制の文化祭に「車の...3」の再演が決定しています。6本のオムニバスから4本を抜き出して上演します。5月の舞台よりもっと深いものを追求しながら稽古に励んでいます。(てっちゃん)

〔劇団未来〕

稽古場には「未来演劇塾 (mirai performance work (pop))」の看板が下がり、この看板が下がり下がついていきます。これは例年にはないことです。いつもの年であれば8月は休みとなっていて、今年には希望のクーラーが設置され、若手中心に熱気あふれた演劇塾(7月3日から毎週土曜日、12回9月25日終了)が開講されています。

①第61回公演ふたくちつよし / 作、森本景文・波田久夫 / 共同演出「山茶花さいた」6月11日から13日4ステージ観客599人、好評のうちに終えました。この公演で大阪春の演劇祭り新人男優賞に安田悟役の島芳道が選ばれた。

「なにわ人情アラカルト(3部作)」「光るさざ波」よもやみのる / 演出、「嫁がくれたチョコレート」森本景文 / 演出、「カキケケコケケコケコ」牧達郎 / 演出、3人の演出競演、さて? さて? 11月13日、14日、11月19日、21日、10ステージ、劇団未来ワークスタジオ。(藤岡)

それに続く作品「少年日」も現在巡演に入っており、大きく展開していくことを期待しています。

きな遅れが目立ちます。

社会的引きこもり、を真正面から描いたこの芝居は、不登校、や、引きこもり、に苦しむ、多くの教育関係者からも期待され、実行委員会も組織されてきました。なんとか成功させ、この公演に携わった多くの人たちと、おいしい祝杯をあげたいものです(そんなわけで、8月末の、全リ演フェス、には、2人の参加しかできませんでした。ごめんなさい。)(山田)

〔劇団大阪〕

全リ演フェスティバルでは実行委員会、中部ブロック各劇団のスタッフの方々、並びに劇場スタッフのみなさまには大変お世話になりました。小劇場から大劇場への新しい装置の建て込みとキャストの一部変更で、再演とはいえず、新たな取り組みとなった「スナ」を探して」では課題と反

省も残る結果となりました。

劇団は休む間もなく同時並行で稽古をしていた、10月公演「日暮町風土記」の稽古に追われる毎日です。今回は劇団初めての文化庁主催の「芸術祭」参加も決定し、熱が入ってまいりました。例えば装置は、家を一軒つくる勢い? のあるしつかりした舞台創りで、他のスタッフも力が入ります。最近の劇団は休団者が増え、個人の事情で足が遠のいている者も多いですが、来年は明るい話題もお伝えできるようにしたいと思います。(伊藤節子)

〔劇団四記念〕

演フェスお疲れさま。特に受け入れ劇団のみなさま、ご苦勞さま! さて、梶武史追悼公演「雪やこんこん」、みなさまのお陰を持ちまして、無事幕を降ろすことができました。本当

にありがとうございました。

7月に演劇教室35期生卒業公演「ガラスの動物園」を上演。9月20日現在の稽古場では、第4回新開地小劇場公演、初の落語の舞台化「江島屋騒動」追い込みの真最中です。10月31日、臨時総会を開催、50周年を迎える再来年に向けた方針とスケジュールを議論していく予定です。そして、教室35周年記念公演の演出・レバがようやく決まり、稽古もスタート。11月末の本番に向け邁進中です。(里中)

〔劇団かすがい〕

演フェスでは大変お世話になりました。観劇三昧に交流会、楽しく過ごすごうございます。ありがとうございます。さて、劇団かすがい35周年記念公演第2弾は、「イヌの仇討」井上ひさし / 作、橋崎英三 / 演出です。12月4

〔劇団きつがわ〕

劇団創立40周年記念公演「稲の旋律」(旭爪あかね / 原作・佐伯洋・西村康悦・松本喜久夫 / 脚色・林田時夫 / 演出、10月15、16、17日。本番まで、あとわずか / ケイコ場は、殺気だつてきました。台本の完成が遅れ、芝居の仕上がりも常とくらべると、大

日5日に計3回、尼崎のピッコロシアターで上演します。12月にふさわしい、忠臣蔵の話です。...といっても、赤穂四十七士、大石内蔵助は出てきません。主役は吉良上野介などキャストは10人ほど。その他に黒子が多数。犬を操り、背景を入れ替え、効果音を出し...とにかく舞台上にはいたい何人出てくるのかわからない(戸)にぎやかな芝居になりそうです。

芝居初挑戦の人も何人かいますが、みんな、楽しんで稽古に通っているようです。稽古前の基礎訓練も欠かさず、取りくむ姿は真剣そのもの。この公演後もずっと一緒に活動してくれたら、さらにうれしい!! と思っています。

前回の5月公演の時にたち上げた実行委員会のメンバーも引き続き、盛りたててくれています。にぎやかに楽しく盛大に、35周年記念公演第二

弾も大成功!! と次回、報告
できるようながんばってます!!
(松下秀美)

〔演劇集団和歌山〕

9月25日、和歌浦アートキ
ュープで楠本幸男/作・山入
桂吾/演出による「月の砂漠」
を上演しました。約300
人と、観客の方はいつもより
少なかったのですが、山入演
出は手堅く戯曲構造を舞台に
組み立てました。現代の家族
の問題を扱った大変深刻なテ
ーマの作品ですが、客席から
は笑いもでるなど、大変好評
でした。このところ楠本演出
が続いていましたが、山入演
出の今後の活躍が期待されま
す。

アートキユープは稽古場
のすぐ近くに昨年開館した
200人くらい入れるホール
で地元のアートキユープを育てるとい
うコンセプトを持ったホール
です。初めて使用するホール

でもあり、いろいろととまど
いもありましたが、この公演
の成功で、なんとか今後もこ
こを一つの拠点としていける
見通しがつきました。

公演間近に朗報が入りまし
た。本年度、劇団が和歌山県
から文化奨励賞を受賞するこ
とになりました。34年間の地
域に密着した演劇活動が認め
られたものです。(楠本)

〔劇団あしづえ〕

久々の新作「彦市ばなし」
のシアター公演と旅公演も、
途中、キャストに怪我人が出
るといふアクシデントがあり
ながら、大好評のうちに無事
千秋禮を迎えることができました。

さて、しいの実シアターで
は、あと2ヵ月と迫った「第
2回八雲国際演劇祭」の準備
の真つ最中です。今回は、小
さい子どもたちにも、演劇に
触れて親しんでもらえるよう

に、「子どもの広場」を開催
します。ここでは、20代の若
いボランティアスタッフが中
心となって、子ども向けのパ
フォーマンスや「フェイスペ
イント」、ベルギーのプロの
ピエロ(クラウン)が特別公
演をしたりと、充実したスベ
ースにする予定です。

事務本部では、海外の劇団
との交渉や、さまざまな変更
事項の対応に大忙し。劇団で
は、特別公演で上演する「彦
市ばなし」に英語のセリフを
加え、海外の人たちにより深
く作品を理解してもらおうと
工夫を重ねています。

演劇祭、その他のお問い合わせは、しいの実シアターま
で(0852)54-2400
/ www.yitd.org (原)

〔劇団演劇街〕

ニヤゴ/ おれは手袋を
はめたネコ/ 今度の芝居の
主役だニヤ。ニヤに? 長靴

をはいたネコのまぢがいじや
ないのかって? そりゃ昔々
の古くさいお話だろ。おれは
手袋。出来立てホヤホヤのお
芝居だ。あらずじが聞きたい
って? いいだろ。

あらずじはだな……「ある
日ある時、粉屋の娘ハンナが
人喰い魔女メフィーサに襲わ
れそうになる。そこを粉屋の
親父がハンナの身代わりに食
べられる。落ち込むハンナ。
トその前に現れたのがおれ、
手袋をはめたネコ。ハンナを
励まし、一緒に魔女退治の旅
へ。旅の途中でおかしな男メ
ロンパン伯爵と出会い、3人
一緒に魔女退治の珍道中。そ
こに待ち受けていたのは魔女
メフィーサの欲望という名の
罠! ……てなとこだな。

でもな、まだまだ稽古中だ。
ミザンシーンってやつをやっ
てる。おいおい、間に合うの
かよ。てなわけで、11月には
おれに会いに来てくれ。演劇

街の公演だけ。待ってるニヤ
/ (広島友好)

〔福岡現代劇場〕

みなさんこんにちは、お
元気で活躍のことと思いま
す。

福岡現代劇場は、アトリエ
公演として10月19・20日に、
「日本むかしばなし二題」と
題して、早良市民センターで
木下順二/作「彦市ばなし」、
かたおかしろう/作「信太
妻」演出/猿渡公一を公演
します。

今回は若手の出番です。彦
市ばなし」では劇団員の小
名田依子の子ども、春葉が子
天狗役で参加。本人よりも親
が心配顔で稽古を見守ってい
ます。時には、猿渡演出より
も親の演出の方が厳しく、場
外乱闘の親子喧嘩をしていま
す。彦市役の中川好仁は、全
身に神経を張り巡らせての体
当たり中。「信太妻」は、筑

前琵琶の大御所、中村旭園さ
んの弾き語りを向こうにまわ
し、今泉亜希子が子どももの頃
から親しんでいる日本舞踊で
対決しています。スタッフも
それぞれ時代考証、小道具、
音響、衣裳、制作など、悩み
が尽きぬようです。
今、劇団が熱く燃えています。
新しい力が劇団を支えて
います。(新平)

〔劇団生活舞台〕

生活舞台創立50周年記念公
演「ゆかいなどろほうたち」
は、9月16・17日好評のなか
に終了することができました。
今回児童養護施設の子どもた
ちを招待しましたが、子ども
たちの舞台を真剣にみつめて
いる眼差しと心から楽しんで
いる笑顔が印象的でした。

山あり谷ありの50年です
が、暖かくもきびしい観客
の支えがあつて歩んできました。
これからも「生活舞台

らしさ」を恐れないで一歩一
歩着実に歩んでいきたい、そ
して「自分にとって芝居を続
けるとは」をあらためて劇団
員1人1人と語り合いたいと
思っています。(平原)

〔テアトルハカタ〕

町おこし文化事業として、
ふくおか、県民文化祭「川崎
町子ども文化事業」「プレー
メンの音楽隊」が大好評のう
ちに終りまして、ホットする
間もなく、養護学校7校、10
月、11月、1月にわけてお世
話になります。

毎年のファミリーのための
九州エネルギー館ホール公演
「悟空の大冒険」徳演亮/作
寿ジョー/演出 10月17日

厳しい経済状況にもかかわらず、
毎年3回、来年以降は
厳しくなるだろうなと思いつ
つも「毎年楽しみにしていま
す」と会場で言われれば来年
もやりたいな、と会話も生ま

れますが……。

大野城親子文庫のファミ
リー公演12回目、今年はお親子
文庫の長年の功績に対して、
文部大臣賞をいただいたそう
で、お母さん方もハリキッテ
おられます。今年の演題「仮
一休さん」の台本創りにむけ
て汗しています。

子どもたちの毎年の夢を裏
切らないように頑張ります。
(中村)

〔劇団石るる〕

9月7・12日、アイビッド
目白で、EMI/作「空より
高い場所へ」SHIMIN劇
場IIプロデュース公演に女3
人石るるつより出演しました。
他劇団の芝居に参加すると石
るるの芝居が懐かし、来年
は石るるの創作劇をぜひやり
たいとの要望があり、4月頃
「青い空そしてプギウギ」を
上演します。

(NAOMI)

劇団を
訪ねて

〈中津川・劇団「夜明け」〉

「平和」の街の文化を支えて

よしだはじめ

中津川の街のうしろ、南の空に恵那山がそびえ立っている。北から延々とつらなってきた木曾山脈（中央アルプス）が美濃の地につき出す、なだらかだが大きな山容だ。去年9月、劇団「夜明け」をはじめて訪ねた日は、快晴、山の上には雲ひとつなかった。

中津川の北には木曾川が流れている。山中を駆けおりてきた川は、ここでゆったりと淀み、いくつかの「峡」の名所をつくって、平野を海に向かう。さらに川の北には、遠山家が江戸時代一貫して支配した「苗木」の城跡が山上に遺されている。今年5月、時間をかけて歩いてみたが、丹念に手入れをされていながら

も人工的な様相をまったくみせない廃城、天守閣跡地から見おろす木曾川、その向こうに中津川の街、正面の恵那山の風姿は、絶景といつてよい。

中津川は、何百年のあいだ、東濃・木曾地域における中山道最大の宿場として、文化・経済の中心地であった。鳥崎藤村の「夜明け前」の舞台は、木曾街道最後（初）の宿場馬籠であるが、小説の主人公たちだけでなく、峠に暮らす現実の人々の生活はいつも中津川に結びつき、絶えずこの街と恵那山とに視線が注がれていたことを思う。馬籠の属する長野県山口村が県の壁をこえて中津川との合併を望んでいるのは、歴史の問題

題だけでなく、「今」の実態でもあ
るのだろうか。

駅前の観光案内所でもらったパンフによれば、中津川では「恵那文案」が毎年公演を行っており、また近隣ほとんどの町村にあわせて15の「歌舞伎保存会」があつてそれぞれに活動している。五毛座（恵那市）、明治座（加子母村）、常磐座（福岡町）、蛭子座（蛭川村）などの芝居小屋があり、地元村落の歌舞伎がそこで演じられるとのことだ。平成12年に完成した「東美濃ふれあいセンター」に「歌舞伎ホール」の名称をもつ立派な劇場がつけられ、劇団「夜明け」もそこで上演しているのだが、どうして「歌舞伎」の名が冠してあるのかの疑問がこの記述で了解できた。12月には地域歌舞伎の合同公演がこのホールで催されるそうだ。

その地その地に腰をすえて生き

る人びとの暮らしには心の支えとなる「場」が必ずある。それは山、川、野といった自然の存在であり、街道に連なる家並みであり、特産物の発散する匂いと色であり、それらすべてを包みこむ生活「文化」である。個人にとつても当然だが、集団の営みで創る劇団にとつて、そのつながりはなおさらいえることだと思う。その地を通り過ぎるだけの旅人としてでなく、わたしが「劇団訪問」と

いう仕事に気持を向けるようになっての昨今、とりわけそのことを感じる。できるかぎり訪問先の街を歩きまわることになっているのだが、青森八戸、劇団「やませ」の巨大な漁港、海鮮市場の情景はいうに及ばず、川崎の「京浜協同劇団」や劇団「ひの」の日野市についても、工場群や続く家々の立ちずまいが、活動するメンバーのふるさとであり創造のみなもとであるとの印象を抱いた。「夜明

け」にとつての中津川宿にはその感がとくに強い。

劇団「夜明け」を理解する

03年9月28日、中津川駅に「夜明け」の代表鈴木弘文さんと中心メンバー田口初男さんが迎えに出てくれている。

さっそく劇団稽古場に案内してもらう。街のはずれ、中央線の線路を横切った、小高い丘にそれはあつた。創立10年のうち、1966（昭和41）年に建設された一戸建の稽古場は、とりこわされる古い学校校舎の材木を使ってほぼ同じ教室の形に組み立てたものだ。がっしりした太いハリの交錯した天井は高く、広い床面、窓・脇板などが昔どおりの姿をそのまま示し、稽古場となった以前何10年かの重さとなつかしさをあわせもっており、部屋に入ってきた人間をまるでこの学校の生徒であるか



1966年に建設された稽古場

のように受けられる。いままで訪ねてきたいくつかの全リ演劇団の稽古場とはかなり異った、独自の印象をわたしに与えた。

1956(昭31)年に誕生した演劇サークル「夜明けの会」は劇団「夜明けの会」の約10年の時を経て、69年劇団「夜明け」として再出発、現在に至っている。そのとき、劇団のありかたや創る「リアリズム」のなにかみなどについてきびしい討論が行われ、対立状態も鋭く生じたようだが、(中津川の地で、創るねらいをハッキリさせた劇団になっていきま

かった)と鈴木さんは語るのだ。

劇団「夜明け」としての最初の舞台は、こぼやしひろし/作「ベトナムの炎は消えない」であり、第2回公演は早船ちよ/作「キューボラのある街」、翌年の第3回が土屋清/作の「河」である。全リ演の人たち

には想うところあるレパトリーであろう。

その後30余年の上演作品を記録にしたがってみてみると、かなりの幅を示している。初期には木下順二の「民話劇」や宮本研、山田民雄などの作家・作品があがっているが、マ



左が鈴木さん(稽古場で)

リオ・フラッティの「橋」や金芝河の「銅の李舜臣」もあり、「若者たち」が76年第9回公演にすえられている。

芳地隆介、勝山俊介、岡安伸治、北村想といった作品にとりくんでいるなかに、リリアヌ・アトラン「闇に光を吼う子ら」があげられていることに注目した(知る人も多いだろうが、「ムッシュ・フェューグ(蒸発おじさん)と陸酔い」として日本に紹介され、劇団「銅鑼」が「禁じられた遊戯」のタイトルで上演した作品。ナチスによって焼き殺されるためのトラックにのせられた子供たちとそこに自発的にのりこんだ一人のドイツ兵によつて演じられるドラマは、読んだわたしに身震いするようなショックを与えた)。いったい、どういう舞台が「夜明け」で創られたのであろうか。

90年代にはいつて、井上ひさしや

永井愛の名が何度か出てくるが、鐘下辰男、北野茨のドラマも小劇場公演として舞台化されている。近年では、中津川の歴史にかかわった創作劇「はだか武兵衛」「雨ニモ負ケズ野ざらし紀行」「中山道中津川宿1868―曙光は見えたか」などの上演を市民参加も得て企画、具体化がとりくまれた。

劇団「夜明け」の上演形態は多様である。小公演や稽古場公演の数々が生まれ、さまざまな文化集会参加や移動上演、恵那市での舞台もかなりはやくから定例化されている。学校に出かけていくことも回を重ねているが、84年から「親と子の劇場」の企画をほぼ毎年実らせている。第1回が「大どろぼうホットテンプロッツ」そして「陽気なハンス」「11ぴきのねこ」「ゆきと鬼んべ」とつな

とつて実質的な一つの転機になった、楽しい芝居を広く市民に観てもらえる仕事は地域に対して果たす重要な役割だ、と鈴木さん、田口さんは口をそろえる。市の文化団体とのつながりを大切にし、さまざまな行事を表裏ともに支えることも当然の任務だとする「夜明け」の基本姿勢である。

「平和」を求めること

稽古場の壁に、4カ条の「劇団員心得」が、達筆な書額で掲げられている。それは、こう読める。

- 一 挑戦する気持を忘れない
 - 一 心を開き自分をさらけだして取組む
 - 一 舞台の人間を客観視する如くに自分を客観視する
 - 一 舞台の人間の生き方を自分の実生活に生かす
- いくつもの劇団を訪れて「劇団規

約」などをみせてもらうのだが、ことばの表現もさることながら、その内容が劇団活動とくに個々の劇団員のなかに具体的にどう生きていくかが、いつでも気になる。

劇団代表の鈴木弘文さんを通して「夜明け」と触れあう機会が多かったのだが、彼の言動からわたしの記憶にのこったことをいくつか書いておきたい。

去年の9月、はじめてあったとき、鈴木さんはわたしをまず、中津川駅前広場にある小さな彫像「平和の誓」に導き、中津川市が「核兵器廃絶都市」として「平和宣言」を行っていることを一言語った。また、稽古場での話し合いのなかで、8月末の劇団総会では「広島市長平和宣言」「長崎平和宣言」をみんなで読んでいくことを話してくれた。気張ったことばづかいは何もなかったけれど、

フツとところに沁みるものがあった。

今年5月、公演を観に再訪したとき、歌舞伎ホールなどのある中津川公園を案内してくれた鈴木さんが最初にわたしを連れていったのが、平和の礎としての大きな彫刻「約束」とヒロシマの焼け跡から再び芽を出したアオギリの種子を育てた「被爆アオギリ二世」のある場所だった。あ、この人は本気に平和のことを思っている」と、わたしは感じた。



中津川公園「約束」

鈴木さんはあまり多弁な人ではない印象がある。わたしの主観かも知れない(?)が、桑名のフェスティバルの実行委員として仕事している彼の姿にも同じような雰囲気があった。だが(だからというべきか)、彼が話しかけてくることばのいくつかが何回かの手紙文面の一端に示される、繊細だが鋭い精神のはたらしを感じることができるよう思うのだ。8月下旬にきた便りにはこうあった。

8月1日、生命を守る月間「平和を守る日」の舞台を済ませ(今年には2つの詩を書き、劇団の音響、効果をいつもやってもらっている田口(信三)君が作曲、合唱曲に編曲、平和の日合唱団で発表しました。毎年大切にしている取り組みです。劇団から合唱団に今年3人参加しました。私は詩の朗読を毎年担当していま

す)、5日、名古屋電気文化会館ホールでの「命きらめいて」、7日、名東文化小劇場で名芸・演集・名古屋の仲間の劇団の合同公演「あの日14歳だった友よ」、8日、大垣朗読サークル。この子たちの夏、15日岐阜、朗読劇「月光の夏」と4つの平和、生命、戦争、原爆に関する舞台を鑑賞しました。来年8月9日までを記憶と行動の1年にと6日ヒロシマ平和記念式典での秋葉市長の平和宣言が心を打ちました。来年8月にはなく、何らかの形で表現していくことを考え、相談しなければと思います。と書いている彼の行動と想いとは、わたしたちにとって貴重なものだと思います。

鈴木さんの願いは「平和」の課題だけでなく、おのれの「創る」と

なみのなかみに対しても向けられて

いる。5月「車のいろは空のいろ」の上演を観にいったとき、彼がポツポツと話してくれたことに、「自分は、ことば、日本語を大切にしたいと思っているのです。少ないことばでどれだけ豊かなところをあらわせるかを考え続けていきたいのです」ということばがあった。このことと実際のドラマとのかかわりはあとで述べたいのだが、そうだ、この人はそのテーマを静かに追おうとしているのだな、と感じる話しかただった。

そして、それらの思いは、鈴木弘文個人だけのものでなく、「夜明け」のメンバーの芝居づくりにも共通して流れるものではないかとの思いがある。一回だけだったが、その舞台の人物から感じられる役者たちの人間的な味わい、終演後ロビーで観客と談笑する彼らには、創造テーマへの気負いはなく、観客と同質の立

場にある生活人として創る雰囲気があった。その姿は、謙虚でありつつもある意味での強さを示している印象を与えた。

「夜明け」の舞台を観た

「車のいろは空のいろ・ぱーと3」は、はじめて観た「夜明け」の舞台なのだが、それは、5月21日、3日間の上演初日のことだった。

あまんきみこ/作の童話の世界を6つの場面に脚色し3場ずつの2幕に構成してある。以前上演した「ぱーと1」「ぱーと2」は児童を主な観客対象にしたそうだが、今回は大人の鑑賞をも意図した芝居づくりになっているようだ。

「松井さん」の運転するタクシーを軸にして、

1 「ほたるの夢」——一匹のほたるの入った虫籠をもったお客、かれの歌とともにほたるが

増えて光りだす。

2 「きりの村」——ダムに沈んだ村、取材に訪れた新聞記者の前にかつての盆踊りの舞がまわっていく。

3 「ふうたの星祭り」——きつねのふうたが森の中で迷い子になった兄弟を救うための大活躍。

4 「知らないどうし」——タクシーに乗った紳士と妻と子ども、明るく話し合う母子と無言の紳士、実は……。

5 「くま紳士」——車内に忘れたいいふを届けると、そこはくまの夫婦の家、夢か現実か。

6 「ふうたの雪まつり」——ふうたは人間になって雪まつりのかまくらを見たい、松井さんの力を借りて。

と並んで続き、2と5はふじたあさや脚色、その他は鈴木弘文さんの脚

色創作である。

会場や費用の問題で、舞台稽古が充分なされていないブツつけの本番というところがあり、正直なところ、表現の未熟なところがあつた。2日・3日と大きく改善されたようである、お客の好評を得たことが、その後の鈴木さんの手紙に報告されていたが、専門家が構築する照明・効果（霧）の情景はとくによかったと演技とのアンバランス、語りと場面とがしつくりかみあわない場があり、回り舞台をふくめ大きな空間を使いこなしたとはいえない展開、せりふがしつかり客席にとどかないところがある発声の弱さなどがところどころにみられた、といえる。

しかしなのだが、わたしがいいたいのは、全体から受けた好印象についてなのだ。観ながらわたしは、何

て守り育ててほしいと心から願う。

「夜明け」の未来を拓け！

現実には、劇団「夜明け」はたいへん厳しい状況におかれているようだ。演劇サークル「夜明けの会」としてスタートし、まもなく50周年を迎える劇団は、全リ演の多くの劇団と同じように活動するメンバーの不足に悩んでいる。そして劇団運営は鈴木さんの肩に重くのしかかっている実態があるようだ。彼は、わたしへの便りでこんなふうにも書いてくる。

現在の劇団は、ここ何年かそうであつたように、劇団運営、舞台創造、制作、すべてにおいて私が中心にならざるを得ない現状が続いています。私以外の劇団員（経験年数のある5・6人）は仕事にかかる時間が多く、劇団を続けることが精一杯な状態

か快い情感に浸されていたのだ。ひとが、生きていくことへの切なさ、生きていくことへの想いといったものが、それぞれの場面からにじみ出てくる感があつた。舞台の上には「ひと」が存在し、語り、行動している姿があつた。いかにも「上手」に「巧み」に演じられたのでは大切なそれが消えてしまうのかもしれない。実に見事に表現されているのが客のところにほとんどひびかず、腹立たしさだけがあとにのこる舞台もけっこう多いのだ。との気持も動いた。いや、そういきまてしまつてはいけないのだろう。それは正しくない。舞台の質がもっと高まり豊かになれば、「快さ」はさらに強く「感動」としてつくりだされた、と信じたいのだが。

きわめて感覚的にいうと、運転手の松井さんを演じた内木さんにはこのころの「柔かさ」、1・4の紳士をやつ

が続いていることです（考えること、勉強することなど時間をとる余裕がない）。私ができなくなつたら劇団はどうなるだろうとよく思います。

わたし（よしだ）自身そういう体験と思いを通過してきただけに、この鈴木さんの抱く不安の気持は痛いほどわかる。しかし、劇団「夜明け」が、その困難の克服を具体的に模索していることもまた確かだ。

・運営委員会、劇団員会議、劇団総会を全員のものにし（今までも果たされているが）、今までも以上にきちんととりくむこと
・8月末の総会討議の資料をみせてもらったが、その方向が今年さらにハッキリと見えてとれる。

多くの劇団が地域地域で実践している活動の「王道」といえる、その地の人々の参加、協力を

た田口さんの表現は少々硬かつたけれど「誠実さ」、頼頼、磯貝、古山さんたちのそれぞれの役と語りに入としての「信頼感」を感じとつた。制作でできばきと受付をしていた青木さんの姿にも同じような「暖かさ」があつた。芸術は「ひと」が創るものなのだ。

わたしのその印象に間違いがなければ、それは、鈴木さんの脚本自体に、あの（少ないことばで豊かなところ）が発想だけでなく実在し、「夜明け」のメンバーが保持し、観客の人たちにも共通する優しい気持ち、素直な生きかたと無関係ではない。そしてくりかえすが、舞台創りのレベルがこの程度でいいとは思わらん思わない。「夜明け」にはもつと力をつけてほしい、ふるさと中津川の文化を前進させるために。だが、あなたたちがもっている人間的感覚は芝居を創る不可欠で貴重な財産とし

求める上演のとりくみを充実させること―その結果、「車のいろは空のいろ」のあと実際に劇団員が何人か増えている。
・中津川市の演劇人口を増やす劇団外の文化活動にいっそう力を入れること―計画と準備を年間活動として位置付け、着実にすすめる。
などが意識されているだけでなく、劇団の方針として現実のものとなっている。

いまの社会状況、演劇状況からみて、そのとりくみの成果を楽観視することはできないだろう。しかし、東美濃中津川で粘り強く活動している劇団「夜明け」が、ふるさとのこの地においてさらに豊かな展開を示していつてくれることを、全国の仲間とともに見守っていきたい。ことばではなく、ほんとうにそう思う。

若い観客に何を見せるか？

演劇評論家 神澤 和明

中高生対象の学校公演を視野にいった舞台が2つ。1つは、無目的な日を送る少年が宮大工という規律の厳しい世界に触れて自分の生き方を見つけてゆく、現実の中での精神的成長を描く。今ひとつは、古代英雄ファンタジーの世界を背景に、文明が自然を破壊してゆく危険への警鐘を響かせる作品である。

劇団コーロ「剛&剛」

内海隆一郎／原作 土勝弘之／脚色 村上嘉利／演出

古典芸能の若手が人気者になり、イチローやヒデがヒーローとなる。厳しい修練を経て抜きん出た力を身につけた人たちに憧れはするけれど、自分自身が努力してその憧れに近づこうとはしない若者たちが多くなった。辛い思いをしてやっと得ら

れるものの価値は、楽に過ごす時間のそれに及ばないらしい。今の若者を中心とする観客たちに働きかけるには、この「剛&剛」の主人公のような、一見無気力で平凡な少年が近道かもしれない。

無責任であてにならない母親と

2人暮らしの剛、15歳。何をやる気もなく、ともかく生きていく毎日。父親のことは何も知らない。母親がいきなり、住み込みで働きに出ると言う。あんなのことは、食べて寝て仕事の世話もしてくれるところへ頼んどいた。そう言われて訪れたのは宮大工の工務店だった。興味ないから帰るわ、と言う剛を、棟梁と呼ばれる男が、まあ、ぶらぶらしとき、と引き止めた。

剛はこの工務店で時間を過ごしてゆくうちに、次第に働くことの意味と自分の可能性に気づいて成長を上げてゆく。彼をその方向へ導くのは、理屈や損得でなく仕事そのものに必死で取り組んでゆく大人たちの姿で

あり、大人と交わすまじめな対話である。昔は大人と子どもは同じ世界にいた。子どもは仕事や社会に真剣に向き合う大人を見習って、そういう大人になっていった。大人は子どもたちを見守り、指導することを義務としていた。いつからか大人は子どもを敬遠し、子どもは大人を馬鹿にするようになった。目標がなくなれば夢もなくなる。今の若者に無気力が蔓延しているのなら、それは子どもにとつて目標たりえなくなつた大人にも大きな責任がある。まず大人たちが自分のなすべきことをしているか、自分がどう在るべきかを認識しているのか。この作品は生徒ばかりでなく、教師や父兄にも問題を突きつける。

働く気はないのに、気詰まりで何かさせてと言つて、掃き掃除を与えられて憮然とする剛。それでも毎日箒を動かしているうち、小さな用事

も大事なんだと気づく。それが自分の仕事、居場所を見付けてゆくきっかけになる。母親との場面は短い、それぞれに、あきれ、衝突する、思いやる、とポイントがあり、その間の剛の成長が見て取れる。上手下手から突き出される台舞台が部屋になり仕事場になり、奥が工務店になり建築現場になりと、転換を早める工夫がされている。

剛を演じる大村倬也がなかなか良い。無気力な若者のしまりのない体つきに見えたふわっとした大柄が、やる気に満ちた弾みのある体に変わってくる。個性の強い役者たちの中で素直に演じている。剛の世話係を任される先輩、次郎（浅難拓）は自分を語ることで剛から言葉を引き出す役割。浅難が兄貴分らしい親しみと厳しさを巧く混ぜ合わせる。気の弱い清（志賀史知）には、学校時代のいじめっ子たちに取り囲まれる

のを剛と次郎に助けられたり、あかり（大崎美幸）を意識して剛に張り合うなど、場面が作られている。しかし他の人物たちは、こんな人だと説明されるにとどまる。あかりが失敗して悩む場面も説明不足だ。宮大工を目指す少女という設定を生かしていない。もつとも職人というのは無口な存在だけに、表現しにくいのだろう。

この脚本の大きなポイントは、剛の内なる声としてGO（真下政美）を登場させていることだ。外に対して発言しない現代の若者の本音を語る存在を登場させることは、考え方としてはおもしろい。GOは登場人物の紹介をした後、自分ももう一人の剛だと観客に語りかける。だが剛の心の声だけでなく、外に現れる彼の行動まで説明してしまう。言いたいことがあっても黙っている剛に、しゃべれよと突っ込む。その時G

○の立場は、剛ではなく観客の側に
ある。剛の態度を批判するのは外か
ら見ている者であって、剛の内面で
はないはずだ。真下は台詞も動きも
軽妙に、舞台と客席の間をつなく役
割を頑張つてつとめているが、もつ
と徹底して剛の分身になるべきだろ
う。無気力な剛(観客の現在)と、
生き方を変えようとする剛(観客の
希望)とが向き合い対話する形にな
る。周りの大人はゴウを見、タケシ
が周りの大人を見る、タケシがゴウ

劇団潮流 『Fayata 一月の森にカミよ眠れ』

上橋菜穂子／原作
眞津 巴／脚色・演出

眞津巴は共同ペンネーム。劇団中堅
の5人(堂崎茂男、嶋まゆみ、長澤
邦恵、塩谷志津夫、辻登志夫)が協
働して脚色演出に当たったという。
奥に紗幕が張られただけの裸舞

とぶつかり、また励ます。ゴウは次
第に自分を変えようとする。転換の
きっかけは父の影。究極の大人であ
る「父」を意識したとき、子ども
が大人になるようにゴウがタケシに
なつてゆく。そのような展開はど
うだろうか。
作品のねらいは良く、演技者たち
もその人物らしく造形している。ま
だ磨きこめる。
(9月4日昼 ワツハ上方)

台。開演前から出演者が出てきて
ウォーミングアップを始め、若い観
客と言葉を交わして関係づくりを心
がけていた。
掟を守り森の沼のカミと共存して

いたクニノハテの村。だが強大なコ
メノクニの圧力により、彼らはカミ
を封じて米作りを始めようとする。
カミと人をつなぐカミンマのキシメ
は、カミの子・タヤタと結ばれ掟を
守つてゆく立場にあるが、米を作る
ことで村を生き延びさせようと目指
す兄たちを抑えることができない。
そしてタヤタと同じようにカミと人
の子として生まれたナガタチが、キ
シメを求めてタヤタに戦いを挑ん
だ。

複雑な物語を学校公演向きの長さ
によくまとめたと思う。掟によって
守られる森(自然)を、膨張してゆ
く人間社会が生活手段を確保するた
めに生産用地として開発(破壊)し
てよいのかという問題がしっかり描
かれている。国家の外圧によって自
分たちの生き方を変えざるを得ない
という、現代日本への皮肉もある(コ
メノクニはつまり「米国」アメリカ)。

作者は文化人類学者としてアポリ
ジニの研究をしているとか。流行の
ヨーロッパ的ファンタジーとは別の
視点が見える。本来カミとは優しい
ものではなく峻厳なもの、怒らせな
いように敬い懼れねばならない存在
だ。決め事を破れば人を罰する。

高い舞台と移動するサイドステー
ジを巧みに利用して起伏ある舞台
面を作り、舞台奥の紗幕を現世と黄
泉のつなぎ目に見せ、切り穴から引
き出されるロープが蛇となつてうね
る。止まった絵面ではなく動きその
ものを見せるべく、ダンス場面も盛
り込まれた早い展開の舞台は、演劇
に慣れていない観客の目をもひきつ
ける。だがその反動で、筋運びの裏
になる対話の部分になるとテンショ
ンが落ちて、観客は退屈し始めた。
難しいところである。

共同演出については功罪ともに
ある。多くの目があると、あれもこ

れもという気持ちになり、芝居のポ
イントは何かということが隠れてゆ
く。この芝居の中心とはカミと人の
間で悩むキシメでありナガタチであ
る。だが2人それぞれの葛藤が一番
押し出されていたとは思えない。本
の形なら読者は客観的に向き合える
し、読み返しもできる。だから複雑
な心理、矛盾する行動を描いてもよ
いが、舞台ではお互いが邪魔し合っ
てしまう。コメノクニの人々に仮面
をつけさせ、ロボットのようにな機
械的な動きとしやべりでおもしろく見
せるなど場面での工夫があるが、そ
うした戯画化の部分だけがたつてし
まうと、コメノクニのもつ権力の恐
ろしさまでが軽くなる。それではム
ラの長であるナガタチを、カミを封
じねばならないという苦悩に追い込
むことはできない。部分に凝つて全
体が弱くなった。

ナガタチの杉本泰之が、台詞術は

不器用だが、気迫がこもり動きもダ
イナミックだ。タカシロの辻は着実
だし、カミ封じの先頭にたつアツカ
ヤの仲里玲央が堂々として存在を示
す。前川比呂史、黒田恵らも安定し
ている。それだけに、タヤタ(大段
大)とキシメ(流郷美治子)が、芝
居の中心を担うには弱く見えた。大
段の品の良い姿と雰囲気は役に適つ
ているが、形で動くため自分の内部
と表現がつながらない。流郷は重責
を負うことへの不安と意思の強さを
示したが、最後になつてキシメが気
づいた、「人よりも掟、自然の命す
べてを守る方を選ばなければならな
い。それがカミンマの使命」という
峻烈で力強い命題を叫ぶためのエネ
ルギーまでは醸し出されなかった。
しかしこれからの人たちとして、見
ていつてやりたい。

(9月17日 一心シアター倶楽)

優しさを描く、その前の現実

演劇評論家 今泉 おさむ

どう取りつくろうとも、石油利権を我がものにするために侵略した「イラク戦争」。そして国内では昨今の殺伐とした事件の頻発。治安のいい国といわれていた日本のこれからはどうなることか。最近の若者たちは「優しい」、争いを好まないと言われる。だが、内実はホンネの不満を押し殺し、ふとしたことで一挙に爆発する、キレル。喜怒哀楽を豊かに表現することこそ「人間」としての成長ではなかったろうか。それは他者との接触から生まれる。そこから、真の「優しさ」が生まれてくるものだが。最近の戯曲には、優しさあふれる作品が多い。せめて舞台の上では「癒し」を、ということか。

劇団未来「山茶花さいた」

ふたくちつよし／作 波田久夫・森本景文／演出

「大阪・春の演劇まつり」参加作品。昨年に続いて同じ作者の作品を取り上げた。日本のどこにもでもありそう

な一家。大阪の郊外にある一戸建て。小さな庭の片隅には、なかなか咲いてくれない山茶花の樹が一本あ

る。まじめ一方なサラリーマンの加賀美忠男、妻朋子。長女陽子は適齢期、長男忠之は浪人中だが、勉強には身を入れてなく、音楽がやりたいらしい。妻はアザイナーの仕事を諦めて家庭に入った経緯があるため、現在の主婦業に屈託があり、当時の自分の価値観を子どもたちに押し付けがちで、1人やきもきして、少しくんキンしているが、夫はさして気にしていない。75歳になる一人暮らしの父・忠助がひょっこり訪ねてくる。その様子から、何か言いたいようだが言い出せないことが察しられる。こういった、平凡な家族の日常がゆったりと描かれている。

忠助は、実は俳句教室の仲間、70

歳のみつえとの再婚と、ここへの同居を言いに来たのだ。この新しい事態に揺れ動く加賀美家。昨今では、これもどこにもでもありそうな話。そして、老人問題がさり気なく提示される。忠助の西尾臣示がいい、あとから現れる、浮き立っているみつえの久能淑子との対称が生きている。

娘に友人が紹介した見合い相手は、若禿を鬘で隠した風采の上がらぬ動物園飼育係の安田。「親を養うことは人間らしい行為」とのコトバには仕事柄の素直で純粹さがある。娘も心動かす。だれしも持っている人生に対する価値観。これは、さまざまな人々と接する中で変化していく。だがそれを頑なに拒否する人間が増えている。「人間は見かけよりも中身だ」ということが自然に語られている。

ギクシャクしていた家族が、ほんのりとまとまろうとしたとき、突然

に忠男が発作で倒れ死ぬ。そして、幕切れに山茶花が初めて咲いた。これが人生、妙に納得できる。息子の描き方がやや地についでいない。原作は室内だけが、新人たちの舞台登場のため、玄関先までセットを拡

げたそうだが、家全体が見渡せていい。夫婦役の牧達郎、三原和枝が年齢的にも様になってきた。島芳道＝安田が「春の演劇まつり」男優新人賞を得た。

(6月13日昼 プラネットホール)

関西芸術座「満月の夜は、なぜだらけ」

澤田徳子／原作 勇来佳加／脚色 松本昇三／演出

2年に一度のファミリー劇場。親と子、家族が共に楽しめ、話し合える舞台をとことか。周囲の、そして庭の木々に囲まれた家。幼い兄妹、5年生のリョウと4年生のチャコを遺して、お母さんが死んだ。お父さんは仕事に忙しい。ヘルパーの岡田さんが来てくれるが、子どもたちの気持ちは何ひとつ分かってくれ

が仕事を放り出した後に、お母さんの昔からの知り合いというトキワさんが来てくれた。そして、ツナグ兄さんも。

ず、文句ばかり。兄妹は次第に元気を失くしてくる。そして、岡田さん

子どもたちの眼から見た父子家庭の現実。それをファンタジックに、さまざまな木々の精たちの踊りにまぶされて展開していく。2人の正体は推察される。お母さんの育てたもみの木と愛犬の化身である。気持ち閉じこもっていた幼い兄妹の心

は、次第に解きほぐされていく。兄妹を優しく見まもる、2人との交流の中から生み出されたものである。木の精たちが、コロスのように、兄妹の周辺で、さまざまな役を演じていく。それは同級生や先生であり、兄妹を取り巻く人々である。

神戸ドラマ館ボレロ「見果てぬ夢」

堤 泰之／作 三村省三／演出

「神劇まわり舞台」参加作品。ある総合病院の裏庭。ここは病気を抱えた患者たちが、ベッド生活から抜け出し、ふと自分を慰めに現れる場所。医師やナースたちも、仕事の疲

材する新聞記者の場面など、現代の感覚でという視点から見れば、未だ物足りないところもある。ダンスにも、いまま少し変化がほしい。「リズム」として、同じように聞こえる。ファンタジーとリアルをどう融合させるかに、もつと力点がほしい。劇団若手の演技者は明るい。それに加わり和泉敬子・トキワ、佐藤綾二お母さんには落ち着きがある。だが、舞台としてもつと芯がほしい。

(8月5日昼 劇団スタジオ)

い心優しい医師に、ベテランナースが叱咤激励のリハーサルをしている場面から舞台は始まる。癌の検査入院中の西岡。見舞いに来る妻は初産の3ヵ月。ラブホテルチェーン社長郷田は重い糖尿病で、ナースたちにエロオヤジと敬遠されながら気を紛らせている。劇団の主演男優としての気負いがある若い飯尾は、公演が迫りいついている。ただ、長期入院患者の自称画家杉は、モアル代を出して、若いナースを描くに余念がない。こういった人々の人生模様が描かれていく。

個人にとって、病状は厳しいものとなる場合も多い。だが、この裏庭では、その悲痛さは叫びとはならない。受け入れざるを得ない現実。それはどうしようもないものでもあり、人は他を見る中で、現実を受け入れていく。そして、日々毎日を通り過ぎていく。その見つけ方には優し

さがある。

だが、演出は(西岡)に焦点を絞ろうとした。我が子を抱けないかもしれない現実。妻にその不安を打ち明けられない苦悩。喜びの絶頂と絶望の狭間に揺れる心をポイントにしようとした。それは一見、劇的になるようであり、この戯曲ではそうはなりにくい。ここには点としての個々の描写はあるが、線としてはつながっていないからである。それを無理にまとめようとしたことに違和感がある。

劇団四紀会「怪談・江島屋騒動」

三遊亭円朝／原作 桜井敏／脚色 岸本敏朗／演出

「新開地劇場」と名付けた定員70人程度の会場での公演も今回で4回目。まずは、劇団員・上田成子がベース奏者・沖田守男を招いて、ピアノ

その延長線上として、毎日のように、みんなには花壇とは見えない「花壇」に水遣りにくる老女を黄泉の国からの使者のように扱い、「花壇」が一挙に咲き誇るラストを、老女を包み込む花輪として表現して見せた。だがどうしても、これは心にストンと落ち込んでこない。殺風景な裏庭に、咲き誇る「花壇」はやはり、希望ではなからうか。出演者たちには、個ではあるが裏庭に集っているという共有心がほしい。

(8月7日昼 KAVCホール)

でのジョイント・ジャズ。レパトリーの雰囲気舞台につなげる。原作は怪談断で一世を風靡した明治期の落語家(というよりも講談師と言

えるか)。それを古今亭志ん生の口演から掘り起こす。時は江戸時代末期、天保の頃。

江戸の町医者の家が、その死で零落し、下総の村に仮住まいをする母娘が、大庄屋の一人息子に見初められた。支度金50両を預かり、江戸に出て、芝日陰町の古着の店・江島屋で、45両も出して買い求めた花嫁衣裳。婚礼の日、馬に乗り輿入れするが、途中で大雨に遭う。グツシヨリ濡れた衣裳のまま、客をもてなしていた花嫁が裾をウツカリ踏まれた途端、衣裳の下半身がズルッと外れる。糊付けで繕った4両程度のまやかしものである。満座で大恥をかい花嫁はそのまま川に身を投げる。花嫁衣裳は一度着れば、ほとんどは終生軍筒の中。それが雨に遭ったための双方の不幸。

鳴物に笛・小太鼓・琴を使っての、語りによって舞台は進められ、



話を始める。北見と野々村と名乗りあうので初対面と知れる。まもなく茶毘に付されるらしい。同時刻に隣

り合って釜入りする予定になっていた。北見役の高木えいじと野々村役の伊藤一郎はまことにのびやかに、危機感のない亡霊を演じる。「サウナに入る気分だ」など、へたをする「と反発されそうな台詞であるが、狙い通りに笑いとって、釜に入るというあの瞬間の恐怖から観客を解放してくれる。

両家の遺族はそれぞれに事情をかかえている。野々村家では、死者の母、妻、子、縁者など普通の一族なのだがぎくしゃくしている。北見家からは、娘がたつた1人と怪しげな男だけが立会人である。どうもそれぞれに死者に対してよい感情を持っていないようなのだ。

亡霊が釜から飛び出してくる。後でわかるのであるが、野々村は卒中で、北見は若い愛人のもとで腹上死をしたのである。覚悟も何もなかった。言い残したいことが山ほどある。

家族への溢れる思いを知ってもらいたい。2人は、火傷を迫いながら走り出てくる。深刻になりそうな舞台の空気が和らぐ。

現世の者に亡霊の姿は見えないし声も届かない。では思いをどのように伝えるのか。橋渡し役は野々村のほけた母であった。野々村の母は、自分の息子が亡くなったことさえ理解していない。だが亡霊が見えるのである。このほけ老人が口寄せという媒介を用い遺族の誤解を解き、舞台の最後のまとめ役を務める。

「骨上げでございます」

2人は煙となって立ち上がる。終幕に遺族両家が記念写真を撮るが、その中にそつと亡霊たちが入ってくる。写真を見た時の遺族の驚きを想像してしまふ。

実に心にしみわたる舞台であった。

男女4人の黒子がさまざまな役に扮する。紅殻色様に染められた簾数枚を使い、舞台を転換し、多場面をうまく処理している。プロローグの仲人話のやりとり、怪異譚の中にも、ふと笑みが出る演技場面があり、原作が「落語」であることが窺える。

心にしみわたる舞台

青森県高校文化連盟演劇部前委員長

田辺 典忠

生き残った母親が、江島屋への怨念から、眼を焦し顔相が変容していくさまなど変化も多彩である。客演の菊地照一をはじめ、ベテランの出演者たちが舞台をじつくりと見せている。構成演出として、うまくまとめられている。

「小劇場」で、観客にとって親しみのある内容を気楽に見せていく。これも、地域に根ざした劇団としていい試みを生み出した。

(10月1日夜)

新開地まちづくりスクエア

劇団支木第52回定期公演

「煙が目にしみる」

堤 泰之/作 堅倉 憲/演出

火葬から骨上げまでの1時間半を舞台にあげた。着想劇とでも名付けたい。

通夜や葬儀の場は、劇や映像の中でよく取り上げられる。そこにはほ

とんどの縁者の者が集まるからである。死者の子供たち、兄弟姉妹、同僚、愛人などもやって来る。それぞれに係わりを語り、腹にたまっていたものを吐露する。死者側に立つ者

否定する者が対立する。死者の生前の背景が浮き上がってくる。あるいは死者への憶測によって、生きていく者が自分の価値観によりやく気づいたりする。物語を構成するには格好の場である。

だが、斎場を舞台にしてしまおうという発想にはなかなか思い至らない。

幕が開くと、白装束の男2人が

重く心に残る家庭崩壊の喜劇

「あ・ん壘」主宰 栗原 省

演集和歌山『月の砂漠』

楠本幸男／作 山入桂吾／演出

この公演はなぜか1日(2回)だけだ。それも従来の和歌浦小劇場(稽古場)ではなく、昨年オープンしたばかりの「和歌の浦アート・キューブA」での初めての公演であった。

この「和歌の浦アート・キューブ」は万葉集の「和歌の浦に潮満ち来れば濁を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」で知られる、和歌浦の不老橋のためとに、昨年、和歌山市が建てた施設である。演劇や音楽などの稽古場として大小4棟(A〜D)の建

物があり、各ジャンルの創造活動の拠点として今後期待されている。

近くに稽古場を持つ「演集和歌山」とっては、使いようによつては、専用の小屋として活用できそうだ。「キューブA」はキャバが150前後(固定席ではなく、自由な空間で客席・舞台はつくらなければならぬ)。それが欠点でもあり、長所でもある)でこの日の公演は昼夜とも満席(280)だった。

作品は楠本幸男が5年ほど前に

書いて西日本劇作家の会編「ドラマの森」(第3集)に掲載したものの、これまで演集和歌山も含めども取り上げなかった。私はかねがねこの作品を楠本作品の中の秀作の一つとして推していただけに、今回楠本君がようやく公演にふみ切ったことを心から歓迎した。

驚いたことに、主人公に作者が自ら出演し、それがまた結構はまっていて舞台を引き立てていた。彼の発声は妙なクセがあり、喉をつめて頬つべたをふくらませ、カン高い声を出すのだが、今回それに小津作品流のセリフまわしを意図的に使つて、それが暗いテーマの舞台を助けてくれ、随所に笑いを引き出して成

功だった。

楠本は、時代の特徴を風俗的に描くのがうまい作家である。今回の「月の砂漠」も、現在では「普遍化しつつある」家庭崩壊の問題を、直截に描いて成功した作品だが、重い内容を重苦しいものにしたため過剰すぎるほどいろいろなことがらを「風俗的に」もりこんだ。不倫、リストラ、派遣社員、住宅問題、アフリカの難民孤児、支援NGO、バツイチと若い娘の同棲、ボケ老人の介護など。

マンションも購入し、スーパーの店長として仕事に忙殺されながら、月々の借金返済もまますまずだし、大卒の後輩と適当に不倫も重ね、家へ戻るとサポテンの水やりが日課の夫である(楠本幸男)。妻は、夫の女性関係を知りながら、彼女は彼女でPTAの役員やらコーラスの練習などで家は放ったらかし。子どもたちの教育が終わったら、そのうち離婚

しようと考えている(城向博子、この看板女優はいつも「演集和歌山」の舞台を引き立ててきた。今回はその「安定感のある演技」がかえって作品を地味にしまった)。

そこへ、思いもかけず、中3の息子が突然、部屋に立てこもり学校へ行かなくなる。父親が怒って部屋に入ろうとすると、いきなり日本刀がドアからとび出し、物を投げつけるは、暴れるは、手をつけられない(土橋範之)客演。好演。ただし、あばれ方や反抗の仕方などワンパターンで演出に問題がある)。

子どものことで途方にくれている時、スーパー店長職を解職され、マンションの支払いもできなくなったところへ、長女(山下悠生。一生懸命だが脚本が求めるキャラクターが出しきれない)が10歳も年上の妻である男(水口広平)と結婚するといふ。不倫相手の女(吉井亜弥。客演、

おもしろい)も現われ、不倫関係は解消すると家族の前で宣告されるし、そのうえ妻から誕生日祝いと一緒に離婚届をつきつけられ、印を押される。そしてせっかくのマンションも売却して、一家バラバラ……。

約1時間50分の芝居だが、音楽の使い方がうまく(この劇団の特徴)、とくに舞台転換の美しさが際立った(舞台監督植田幸男。照明プランも)。演出を楠本幸男でなく山入桂吾が担当したことも成功の一因。山入演出にもうひとつ欲を言えば、登場人物のそれぞれがもっとエキセントリックなキャラクターとして、芝居を統一できればこの作品はさらに恐ろしい現代劇になったと思う。今後は植田、山入コンビによる舞台づくりが期待される。この戯曲はもっと各地で取り上げられてよい作品である。

劇

評

人生の深部で観客と同じ呼吸を——と関連して

演劇ライター 鈴木 太郎

「私たちの演劇行為が、単なる個人的趣味にとどまらず、人の心を揺さぶり、人と人とを結び付け、新しい共同社会の地域を創り出すことにつながっていくならいいなと思います。労働や生活を通して、人生の深部で観客と同じ呼吸をしながら、共に生きていくところにアマチュア主義の良さがあるのでないで

しょうか」——これは、「演劇会議」115に掲載された城谷護（京浜協同劇団）の実感のこもった一文（「創造の栄養は職場活動から」）のしめくくりの部分である。働きながら演劇にとりくむ人々の基本的な姿勢がうかがえて、興味深く読んだ。そして、舞台をみる視点にもそうしたことが必要なのだと思った。

劇団ひの「ブンナよ、木からおりてこい」

水上勉／原作 佐藤利勝／脚色・演出

ト鳥のように大空をとんで 広い世界をみてみたい……歌と踊りのなかで幕が開く。この舞台は、トノサ

マ蛙のブンナの冒険物語である。劇団で討論を重ねながら、オリジナルな台本を創りあげた、その熱意と努

力が公演に踏み切ったといえる。高い椎の木のてっぺんに登ったブンナ。そこは、トンビの餌場であり、雀や百舌、ネズミ、ヘビ、ウシガエルなどの生き物たちが放り込まれてくる。生と死のせめぎあいの中でもあった。ブンナがみたのは死の恐怖であり、生への喜びであった。原作はよく読まれている作品である。また、専門劇団である青年座でも1978年の初演（小松幹生／脚色、85年から水上勉／作）から上演をつづけ、1250ステージを数え、財産演目のひとつとなっている作品である。当初のミュージカル仕立てからせりふ劇へと変化してきたものの、感動的な舞台をつくりつけて

きている。

それだけに、「ひの」特有のオリジナリティーへの期待は高いものがあった。脚色はミュージカル風にして、それなりの工夫はされてはいたが、舞台から受けた印象は物足りなさが残った。それは、俳優たちの「アマチュア主義」の甘さからきているものであったと思う。市民参加でより幅広く楽しい芝居づくりを志向す

る集団であり、厳しさを求めすぎではないけないという思いはある。しかし、舞台に立っている人たちが、歌をうたい、踊りをこなし、せりふを覚えた、という程度で、精一杯演じたといっても、「観客と同じ呼吸」をしているとは限らないということである。

ブンナの田中聡にはもっと生気がほしかったし、1人で何役もこなす

という関係もあつてのことであろうが、立ち位置の問題やリアリティーのある動きやセリフなど克服しての再演を期待したい。そのことは演出の佐藤利勝も十分に承知していることと思う。

（6月20日

東京・日野市民会館小ホール）

……。という巧みな設定である。

プロログでの妊婦のツル子の大きなお腹をした姿がおかしい。そのお腹にさわる妹で花嫁になるヤエ。物語の世界へと「観客」を舞台上に引き込む効果が十分にあつた。ツル子の野口由美子、ヤエの小西和子、それに母親ツイの渡辺孝子、助産婦の勝崎若子らの俳優陣も自然体の演技で、長崎地方のことばを駆使したせりふにも違和感がなかったのはさす

評

劇

創立20周年記念公演の第1弾。この作品は92年6月に上演しているが、それ以来の再演である。タイトルが示すように長崎を舞台に、戦争中のごく普遍的な人びとの暮らしを描いた作品である。物語は、太平洋

劇団蒼生樹「明日——一九四五年八月八日・長崎」
井上光晴／原作 小松幹生／脚色 濱田重行／演出

戦争の末期の45年8月8日、長崎。この一日の朝から夜までの中で、結婚式をあげる新郎新婦、恋人の帰りを待つ看護婦、初産を控える妊婦たちのドラマが描かれている。そして、「明日」8月9日の夜明けを迎える



撮影 蔵原輝人

本の尋常小学校。授業中にアンパンを食べた5人の生徒が、校則違反の罪で死刑を宣告され、自決を決意したところから始まる。当時、アンパ

ンはまだ庶民の食べ物でなかった時代である。一見して不条理な世界が事実としてまかりとおるおかしさがある。
副校長・兵頭武子の士族意識、漱石の「坊ちゃん」をなぞらえた教師たちの言動をとおして、飯沢喜劇の真髄ともいえる日本人の精神構造を鋭く風刺している。熊本地方独特のことばづかいを生かしたせりふは、人間の深部にこめられたおかしみをも表現していた。ものものしい副校長の権威主義に抵抗する生徒の妻が登場、攻守が一変、意表をつく結末。「観客」の心をつかまえて離さない巧みさがある。
兵頭武子の小竹伊津子は初演でもこの役に。「飯沢さんが私にはめて書いてくださった」というだけに思い入れも強く、毅然たる姿には威厳があった。教頭の田貫に青木力弥、野田に西沢由郎、山荒に後藤陽吉、

がであった。具象化された原爆投下のシーンも、人びとがどのようになったのかを暗示する手法は成功して



いた。

問題があったとすれば、テンションの高い俳優が何人かいて、浮わつた印象を与えたことと、暗転の多さか。それに、「長崎の証言」や「忘れな草」などからの手記の引用の部分であろう。本を手にとつて読むという設定はされているものの、唐突な感じを与えていたからである。舞台はいたってシンプル。背景に

青年劇場

「夜の笑い―第二部「接触」・島尾敏雄「接触」より」

飯沢 匡／作 松波喬介／演出

劇団の代表作の再演。作家・飯沢匡の没後10年記念の公演でもある。初演は1978年、飯沢が劇団のために書き下ろした作品。第一部「春の軍隊」、第二部「接触」の構成。紀伊国屋演劇賞団体賞、毎日芸術賞を受賞、80年にはイタリアのフィレ

ンツェの国際演劇祭で上演され「墨絵のような作品」と賞賛された。飯沢作品のなかでも屈指の名作をいわれている。再演を心待ちにしていたファンも多かったに違いない。
今回は第二部「接触」のみ上演。舞台は1986年（明治19年）、熊

置かれた夾竹桃の花が印象深い。とりわけラストシーンでの照明は特によかった。場面ごとに、針箱など多くの生活道具がセットされていくのも自然な展開で、登場人物に深みを持たせるのに効果的であった。小道具の横山さとみらの奮闘によるものである。
(7月18日 横浜教育文化ホール)

浦成に森三平太と、ベテラン陣が初演のままの配役につき、新しく加わった明石の板倉哲もふくめて、それぞれに役をこなし安定した力量をみせていた。生徒側の5人も清新さがあつてよかつたものの、うわついた発声などがみられ、せりふのこなし方に、もう少し工夫がほしかった。

(9月22日 東京・新宿
・紀伊国屋サザンシアター)

*先号で誤りがあった。東演は創立45周年に、リトリアはリトニアに、バトルはバルトに、河崎浩は照明、車川知寿子は音楽に、それぞれ訂正を。深謝。



東京芸術座「GO」

金城一紀／原作　いずみ凜／脚本　杉本孝司／演出

原作は直木賞受賞作品であり、窪塚洋介主演で映画化もされて話題になった。しかし、原作は未読だし、映画もみていない。作家・金城一紀は埼玉県生まれの韓国籍、いわゆる「在日」とよばれる作家である。なんの予備知識もなしに舞台と対峙することができたことは幸運だったかも知れない。めざましい活躍をみせる、いずみ凜のオリジナル脚本、理論派の杉本孝司の演出である。大きな期待をもって臨むことになったが、満足感をもって、劇場を出ることができた。

主人公は、生まれも育ちも日本という在日コリアン三世の高校生・杉原。中学までは民族学校で、今は日

本の高校に通っている。なぜ在日とよばれるのか、国籍なんてクソクラエ！ という血気盛んである。舞台は、スポットに浮かんだ杉原が「はじまって早々なんだけど、これは僕の恋愛に関する物語だ」というところからはじまる。この冒頭で、杉原の若さと行動が見えてくる仕掛けである。鈴木健一朗のさりげない演技も注目を集める。彼を中心にした高校生や先輩仲間たちとの日々の暮らしの中で、差別の実感などが浮き彫りにされてくる。

杉原のせりふの中で、「おまえらどうして何の疑問もなくおれのことを（在日）だなんて呼びやがるんだ。おれはこの国で生まれてこの国

で育ってるんだぞ。在日米軍みたいで、外から来てる連中と同じ呼び方をするんじゃないよ」という部分が、強烈な響きをもって記憶に残っている。説得力をもっていたからである。

杉原の父と母の笹岡洋介と荒木かずほが役に溶け込んでいた。笹岡はボクシングをしていたという無骨さも表現していた。タワケという先輩役に井上鉄夫が年の差を克服した若さを発揮していた。これはサーピス精神か。明確な演技で処理がほしかったのは、恋する娘にうまく告白できない佐々木が仲に入った正一をナイフで刺し殺すシーンである。緊迫感のなかで、もたもたとした印象を与えていたからである。幡野寛の美術、加納豊美の衣装も的確な配慮がされていた。

（8月27日）

東京・新宿・紀伊国屋サザンシアター

劇評

曲 日は何処ぞ雨如何に

安念 智康

登場人物

教授 ヤッチャン
須磨子 ヤッチャンの母
ホツケ 寅さん
健 花田竜子
エリカ 花田太郎
春子 宮田刑事
モク

第一場

道央の中小都市。バブル期にマンションを建てようとしていて、バブルのはじけとともに工事中止になった工場現場。むき出しの鉄骨が赤錆びていて、木のパレット、古タイヤ、作業用ビデオが無造作に積んである。その周りに、赤や青のテント、ダンボールやビニールシート、ホームレスの家が見える。街の雑

踏が聞こえる。季節は晩秋。昼から夕方にかけて物語は進行する。

開幕。

暗闇の中から静かに曲が流れてくる。舞台両袖から地底からわいてくるような、ホームレスたちの唄う声が聞こえてくる。

ホームレスたちの声　心を誘う雲水の

雲水の

行方やいづくなるならん
流れるる雲に身をなして

浄土は西と行くほどに
笠もかたむき杖やせて

涙にくるる旅なれや

浮世をよそに振りすてて

如何になりゆく空けしきと

舞台明るくなり上手よりに、元役者の老婆、須磨子、手作りの三味線をもって椅子に座って一人唄っている。（雲水の唄の最後の歌詞）

須磨子さん　♪曇る心に問ふらくは

月はいづくぞ雨如何に♪

須磨子はカセットコンロの上のうどんが煮えるのを待っている所だ。その傍ではホツケがうちわで火を起こし、七輪で魚を焼いている。油ののったホツケは炭に落ちてあたりを煙らせ、いい匂いがただよっている。教授と呼ばれている初老の男がビニールシートの自宅の前で一人将棋をしている。ここはホームレスたちの生活の場である。

エリカ (正面奥の赤テントの窓からエリカ、顔をのぞかせて) ちよつと、くさいじゃない。こつちに煙をよこさないでよね。何回いったらわかるのよ!

どなられたホツケ、意に返さず楽しそうに。

ホツケさん ……もうちよつとで焼けるからよ…。何といつても今頃のホツケは油がのつてさ、それが炭火に落ちて煙が上がるだろう。そこで本物のホツケの旨みをかもし出すんだよな。

と、自慢めいているが、テントの方には行かないように煙の流れを察するべく気は使っている。

エリカ 私ね、あんたと違つて魚きらいなの。だいたいね、テントの中、煙だらけで蒸製になるじゃない。

ホツケさん エッ。そんなにすいのか? とら。

たらよ。「当店のお客様でしようか?」とかぬかしやがつてな。「そうだよ。一階の食品売り場にちよいちよいとご利用させていただいておりますよ」って言ったんだよ。

春子 そうそう、試食コーナーはよくご利用させていただいておりますよね。

健さん うんうん、それでよ、ポリタンク出したらよ。「ここは駐車場で飲み水はありません!」とぬかしやがんだよ。なあ、お前今時の日本だよ。水道が飲み水と洗車用にと分かれてるはずねえーじゃないかよ。けつたくそ悪いからよ。「ポリタンクの水一杯いくらだ」とタンカを切つたのよ。そしたらな「水道は売ってありません」とぬかしやがんのよ。それもよ、きつぱりとな。あんまり癪にさわつたんで、足をぶんづけて逃げてきたのよ。…春子よう。なんで青年にくれて俺はだめなんだべ。

春子 (説教調に) そりゃあ、やつぱり背広とネクタイの御威光ですよ。健さん (くやしそうに腹を立て) じゃ何か、おれが青年の背広とネクタイを借りてつたら呉れるつていうのか? 世

きに行く。

エリカ ちよつと (ネクリジエ姿でテントの中から出てくる) レディの家に不法侵入しないでよね。いやらしいんだから。ほんともう!

ホツケをにらみつけて、エリカ、またテントの中に。

ホツケさん チェッ。ホームレスのくせして、なにがレディだ。(つぶやく)

エリカ ちよつと何か言った? (テントの窓からにらむ)

にらまれてホツケ、言い訳を考える。

ホツケさん ……いえ、何も。あつそうだが。このホツケな、アツケーなあ、レディーでな。…うまそうだなあつて…。ハイハイ、そちらの方に煙行かないように充分気をつけます。

エリカは、テントを閉め、ホツケさんはまた、ホツケ焼きに没頭する。下手

間つてのはこんな首ヒモつけてるかどうかで人の価値を判断するつてのか? 古いね。本当に泣けてくるぐらいこの日本は古いね。

須磨子、煮上がったどんを食べていたが突然話に割り込んでくる。

須磨子 この間の戦争が終わつて民主国家なんていつているけど、この日本の差別親つていうのは少しも変わつちやいないよ。なあ教授。

教授 そうですね。めくらは視覚障害者つんぼはろう腫者、ちんぼが身体障害者でらい病がハンセン病。浮浪者がホームレスと呼び方のみみざわりは良くなりましたが実際の差別は無くなっていませんね。

モクさん (オズオズと自信なさそうに) ……あの…何か、私のこのネクタイと背広が悪いのでしょうか。私も早く皆さんのような、こゝろ、自由なスタイルになれたらなあ、努力はしているんですけど…。私はやつぱり優柔不断なんですよね。…だから、家にも帰れず、

から水の入ったポリタンクを二つ下げて背広姿のモクさんあらわれる。

モクさん 水の配給です。(皆に声をかける)

その声でこの住人たち、寝起きの健、まだ若い春子、ノソノソと青のピニールシート、ダンボールの家から水を入れるバケツ、鍋などを持ちはい出してくる。ホツケ、七輪を持って自分の場所を下がる。

健さん よつ青年。精がでるな。…モクさん、…モクさん。

春子 今日はどこからもらつてきたあ?

モクさん (礼儀たたく) 丸富スーパーの駐車場のところからです。

健さん おいっ! 警備員に何もいわれなかつたのか?

モクさん ええ。

健さん ハゲて、目のギョロツとしたおやじだらう?

モクさん (すこし考えて思ひ出す) ……そうです。

健さん あの野郎な、3日前によ、俺が行つ

ここにもいれてもらえず…。

春子、モクに近づき元気づけようとする。

春子 気にすることないよ。そのカッコウがあつたからこゝろやつて皆の水もらつて来たんだしさ。モクさん。あんたはワチたちの仲間だよ。

水を貰いにきていたホツケ、それを聞いてモクをなぐさめよう。

ホツケさん そうです。「人の生きていくということ、だれかの役に立っているということ。無駄な存在は、この世には無い!」だつたよな。教授。

教授 そのとおりです。健さん ホツケ。お前よくそんな難しいことと二口で言えたなあ。

ホツケ、七輪の火を起こすのに使っているうちわを持ってきて。

ホツケさん ここに書いてあるんだよ。(カタカナを読むがどうも字を読むのは苦

手らしい)

ヒトノ イキテイルトイウコトハ ダレ
カノヤクニタツテイルトイウコトデス
ムダナソンザイハ コノヨニハ ナ
イ。ナンマイダーも、ナムダイシヘン
シヨウコンゴウも、ホウレンゲキヨウも、
飽きちゃってさ。何か新しいありがた
そうな題目ないかいつていつたら、書
いてくれたんだ。(教授の方を見る。念
仏のような、はやし言葉のような節を
つけて読む)

ホツケ、念仏代わりに唱えてモク、教授、
須磨子、春子と舞台を走り回りうちわ
をあおぐ。

健さんもいつしよになつて唱えながら、
こつそりと七厘の上のホツケをつまむ。
だが炭火の残っている七輪の上のホッ
ケは手でつまむと熱い。

健さん アツチチチ…。

ホツケ、その声に気づき

ホツケさん あつ！ドロボウ！

うちわでたたいて追うホツケ、健逃げ
ながら、

健さん ありがたいお題目だなあ。ほら俺
の役に立ったじゃないか。

ホツケさん (追うのをあきらめ) ウー
モー。腹の一番いいところつまみやがつ
て。

くやしそうだかホツケを食べだし夢中
になる。

エリカ、ガウンを羽織つて水をもらい
にテントから出てくる。

健さん ホツケをつまんだらよ、何か熱燗
で一杯やりたくなつたなあ。

その声を聞いて皆また始まつたと少し
距離を置いて知らんぷりする。

健さん …チエツ。

これ身よがしと服のポケットを真剣に
探し、お金を手の平にのせて数える。

健さん 一円玉3枚、5円玉3枚。うんう
ん。消費税分はあるが…本体の分が無
い…。

健、水をくんでいるエリカに近寄り声
を出さずに。

健さん (エリカに礼儀正しく、ごあいさ
つの身振り)

エリカ (それを見て) はい。今晚は。

健、チャップリンよろしく以下はマイ
ムで表現、エリカはそれに答えて会話
する。

健さん (お嬢さま、夕焼けが綺麗ですか
ら良い十五夜の晩になりますわね)

エリカ 夕焼けが綺麗だから、良い月見の
晩になりそうです。

健さん (こんな晩には、酒でも飲んで、

過ぎ去つた日、ありし日の思い出にひ

たつてみとうございますわねえ

エリカ ナボレオンかロマネコンティのよ
うな上等な酒でも飲んで、昔のことを
思い返したい。いいことが無かつたか
ら私は思い出したくないんだよ。

健、がつくり、それでもめげずに続ける。

健さん (まあ、なんておいたわしいお嬢
さま。なんて可哀なお嬢さま) (泣く
しぐさ)

エリカ 私がかわいそう。良い思い出がな
いのは可哀想。(腹が立つて) あんたに
だけは同情されたくないね。

健さん (それじゃ、お嬢さま。こういう
のはどうですか)

エリカ 話題を変えて。

健さん (私がお酒を飲んでお嬢さまの代

わりに思い出にひたつてあげますわ)

エリカ 私の代わりに酒を飲んで思い出に

ひたつてくれるというの。

健さん (ウン、ウン)

エリカ 早い話が、私に酒のお金を出させ

たいというわけ。

健、うれしくて思わず声が出る。

健さん イエス、ベリーグッド。あんたは、
頭がいい。ベリーグッドでOKね。

エリカ (強い口調で) ジャスト、モーメ
ント。私、酒ある。お金もある。あん
たにあげる気持ち、情け、全然まつた
くグレートで無い。

(モク、2人の奇妙な会話に遠慮しなが
ら)

モクさん あのう…。お2人の会話のやり
とりというのは、やはりホームレスの
方の、その道のプロの暗号のようなも
のなのでしょうか。(教授に)

エリカ そんな上等な物じゃないよ。働
きもしないでいつも金をせびるからさ。
このあいだも、あんまりうるさく言っ
てやっただよ。仕方ないから1000円貸し
てやっただよ。かえすまでしゃべる
なつていつてね。(健に向かって) まだ
できないの?'

教授 (それを聞いて) 言葉を担保に入れ

ちやつたわけだ。

うどんを食べていた須磨子、教授の言
葉に反応して立ち上がり舞台中央にで
てきて、昔話を語り始める。一人芝居
のようだ。

須磨子 むかしむかし、あるところに、酒
の好きなおじいさんがいました。隣に
は金持ちのおばあさんがいました。鍋、
鎌を質草にしてその都度、お金を借り
て飲んでいたので、最後には、何
も入れるものが無くなつてしまいまし
た。おじいさんは「何かないかなあ」と
必死に考えました。「あつ、言葉がな
くなつても、身振り手振りがある」と
気づきました。「おばあさん。言葉を担
保にしますので、どうかお金を貸して
ください」と頼みました。おばあさん
は、品のない上等でない言葉なので嫌
だと思いましたが、怒涛の寄り身のよ
うな、おじいさんのペラペラ喋りに「こ
の男のうるさい言葉が無くなるのなら
どんなに安眠できるか」と思つてお金
を貸すことにしました。さつそくおじ

いさんはお酒を買いに行きました。あんまり帰りが遅いので、おばあさんは探しに行きました。するとどうでしょう。おじいさんの姿は無くなつて、そこには酔つ払いのおおつわばみがいました。

健の方を向きながら意味ありげに終わる。

教授 ハッハッハ。須磨子さんの新しい芝居が一本できましたね。

春子 (健に向かつて) おおつわばみというより、よっぱらいのかわうそ。

健さん (少しひねくれて) 春子、おまえかわうそつて見たことあるのかよ。北海道では絶滅したんだぞ。

春子 ある。日本昔話を見た。

健さん ああ言えば、こう言う(春子を追いかける) このやそ。

春子 (笑いながら) ゴメン、メンゴ、メンゴ(と逃げる)

と2人上手に去る。ホッケを食べ終つたホッケさん舞台中央にでて。

急に弱弱しく足をいたそうにひきずる。いつの間にか戻つていた春子、ホッケに向かつて。

春子 ホッケの食いすぎの偏食じゃないの? この間わち拾つた新聞読んだらさ。旭川の動物園のペンギンね。痛風で死んでいるんだつて。

ホッケさん 本当? 痛風つて死なない病気だろ?

春子 ペンギンつていつも立っているだろう? 寝てる時だつて立っているんだよ...そこに足が痛風で痛かつたら立つてられないじゃーん。

(片足で立つて見せて倒れる。ホッケ倒れた春子の側に行き)

ホッケさん ペンギンさんかわいそう...(涙ぐむ) : ホッケさんも死んじゃうのかなあ...かわいそう。(泣く)

エリカ (春子とホッケさんをにらんで) どういつもこいつも「借りる時の地蔵顔、返す時の閻魔顔」つてよく言つたもんだ。なんでもいいから、早く返しなよ!

ホッケさん (かわうその真似をして) うまい、座ぶとん一枚。

それを見てエリカ、にっこりと笑顔になりホッケに声をかける

エリカ ホッケさん:

ホッケさん ギクツ。:ハイ。

エリカ 他人のこと笑つていいのかい...?

ホッケ、エリカに気を使いながらノーテンキに明るい。

ホッケさん :いいえ、他人のことをあざ笑つてはいけません。死んだおばあちゃんがよくいつてました。あざ笑つたら報いが帰つてくるつて...ハイ。

エリカ あんたに貸したのも、まだなんだけどね...

ホッケさん :ハッハッハ...そうでした:ね。ハイ。忘れてはいません。死んだおばあちゃんがよくいつてました。「借りるのは一時の恥。返さないのは末代の恥」つて。借りたものは返さなければなりません。(きつぱりと)

エリカ わかつているじゃない。(手を差し出す) ハイツ。

ホッケさん (小さくなつて弁解) :私も、毎日ハローワークに通つていのですが、:なにせ、この不況でしょ。:モクさんのような背広を着たりストラ組にですねえ、前にあつたホマチ仕事すらとられてしまふんですよ。(だんだん演説調になりえらそうになる) 働きたくないわけじゃないんです。働きたくても働く場所が無いんです。返す気持ちはやぶさかではないのですが、構造改革の痛みが、まず僕らのような最底辺の人間にしろよせらせるんですなあ。:これはもう政治の問題ですよ。

エリカ (イライラして) :あんたね。ホッケを我慢したらすすぐ払えてしまふんだよ。

ホッケさん そうですね。:いや...このホッケは、さしみ居酒屋のマスターが昔のよしみで、とつておいてくれるもので、タダなんです。:そしてこの頃、痛風でタツチヨウで体調があまりよくないんです...

歩く、一日50個くらいかな。

健さん :50円か。

ホッケさん 資源回収のごみステーションにあるのを拾つてくると半日で1000円。

健さん 1日2000円か!

ホッケさん でもこれには競争相手があつて、ちよつとコネがいるんだよ。酒屋さんなんかには、いつも挨拶しておくとね、ステーションに出す前にとつておいてくれるんだよ。

健さん 定時出勤のサラリーマンじゃねえか? (軽蔑して)

ホッケさん 仕方が無いよ、シヤバのギリをはたさないと日干しになってしまうもの...

ホッケ、七輪を片付けを始める。

健さん そうだよな。金がねえと泥棒でもしなければ酒にありつけねえもんな。:春子。この前よ、スナックの残りの酒もらつたのよ、それがスツカくて気抜けで飲めたもんじゃなかった。

春子 パブルの頃はさ、ボトルの3分の1

ぐらいになつたら、別のビンに入れて
ジャンジャンへらしていたんだけどね
…。最近じゃ、客のほうもマジックと
定規で印をつけていくもんね。

健さん セコいなあ…。気ままなホームレ
スをとるか、酒をやめるか…むずかし
い選択だなあ…。

本気で悩む健。ずっと皆の話をすみで
聞いていたモク、健に向かつて。

モクさん あの…。失礼ですが…。

健さん …どうした、青年。

モクさん あつ…青年なんて、私はもう
40を越えているんですよ。健さんだけ
ですよ。私のことを青年って呼ぶのは。

健さん いいんだよ。新入りは皆、青年つ
て呼ぶのが、このならわしなんだから。

春子 そして、女性はお嬢さん。

ホツケさん そうだよ。パパだつて「お嬢
さん」。寄る辺なく流れてきたパーサン
にだよ。「お嬢さん」って声かけられた
ら嬉しいじゃない。

モクさん …皆さん。そんな優しい心遣い
で生きているんですね…。

春子 というわけじゃないけど。でもここ

はけつこう長く皆任んでるね。(と須磨
子とホツケに合いづちを求め)

須磨子、ホツケ、うれしそうにうなずく。
モク、健を片すみにさそう。

モクさん 先輩！ どうかこれ使つてくれ
ませんか。(ティッシュに包んだものを
差し出す)

須磨子、春子、ホツケ、なにかありそ
うだとのぞきに行く。健、もらつたも
のを隠しながら中をチラッと見る。

健さん 傘か？…いいの…いや、青年。あ
りがたく使わせてもらうよ。(急に元
気に)…あつ、もう青年じゃないよな。
モク：モクさんって呼ぼう。

モクさん さんはいんです。呼び捨てに
してください。それから「健のアニイ」
と呼ばせてください。

健さん 健のアニイ…あの高倉のな。(急
に高倉健風の演技をします)…モク、
ありがたういただいておくれ。(もう一

ろうね…。

須磨子 今夜あたり、この辺の救急車が来
て、黄疸のでた苦しい顔の住所不定の
ホームレスを、ひとり病院にかつぎ込
んだら、それはきつと健だろうね。

ホツケさん (本気にして)…健さん死ん
じゃうのかい。かわいそうに…(泣き
声になり例の念仏を唱える)

モクさん …(おろおろする) 僕のせいだ。
僕があの人を殺したようなもんだ…
大変だ！ 大変だ！ 50000円を
10000円にすればいいんですね。

モク、うろたえて健さんを追いかけよ
うとする。

教授 (明るく) モクさん。探しに行くこ
とはないよ。好きな酒を存分に飲んで
死んでいけるのだから、健も本望だろ
うよ。

モクさん (全く心配していない住人たち
を見て)…皆さんどうしたのですか？
どうして急にそんな薄情になつて健
さんのことを心配しないのですか？

度金を見る)

と、「帰つてきたヨッパライ」を歌いな
がら、下手に陽気に去る。須磨子、モ
クに近寄る。

須磨子 あんた今、健になんぼわたした？

教授もいつのまにか将棋をやめてモク
のそばに立っている。

教授 50000円かい？

モクさん …ええ…どうしてわかるんです
か？

教授 やつぱり。

須磨子 健がお金をもらう時の歌には段階
があるんだよ。

春子 100円台のときは「昭和枯れすす
き」

ホツケさん 10000台のときは「陽気に
行こう、どんな時でも」(と唄う)

教授 50000円以上の時は「帰つてきた
ヨッパライ」

モクさん …なるほど。

教授 (心配顔で) 須磨子さん。これは大

須磨子 …またこの暮らしん慣れていな
いあなたにはわからんことだけどさ。こ
こに来るっていうことは、いつ死んで
もいつっていうことなんだよ。できれば、
だれにも知られずにこの世とおさらば
したいという覚悟がなければやつてら
れないんだよ。仲間になつて看取られ
たくないっていう気持ちだね。

教授 象が倒れたら、群れから離れてたつ
たひとり象の墓場に行くといひます。
残されたものはその後ろ姿をじつと見
送る以外にはない。ばお！

皆のやりとりの間に、「なにを願っている
のよ、うるさい」という気持ちでエリカ
テントから出てくる。春子がそばに行
きなりゆきを耳打ちする。

エリカ 馬鹿だね。本当に馬鹿だね、あい
つは。(説教調で皆を見直し) 私が憎ま
れ口をたたくのは、あんたたちみたい
な野良犬のような暮らし方を、少しでも
直したくて、小言を言っているんだよ…
考えて生きていないんだから。モクさん、
探しに行こう。あんたの50000円必
ずひつたかつてやつから。

モクさん …ひつたかつてやつからつて…

変なことになりますね…。

モクさん …大変なことになりますねつ
て…私、また何か失敗したのでしょ
うか…。

須磨子 あの健つて男はね、有り金全部飲
まない気がすまないんだよ。

モクさん 50000円くらいすぐ飲んでし
まいますよ。いきつけのスナックに行つ
たらポトルの一本も入れられませんかよ。

教授 それは今までのあんたの感覚です。
ここはちがいます。一番安い酒を浴び
るほど飲んで50000円じゃあおつ
りがきます。

須磨子 あいつはね、アル中でね、まあそ
れで何度もヘマをやらかしてここに來
たつて言つてたけど…ここに來るとね、
お金がないだろ、飲みたたくても身体を
こわすほど飲めないのさ。

モクさん 身体をこわす…大分悪いんです
か？

ホツケさん そういえば、酒を飲めなく
なつたのはシャクだけど、ここに來た
ら健康になつちやつたというのが口癖
だもんね。

春子 (明るく)…まあ…肝硬変の末期だ

あれ私があげたものですが。

エリカ 考えもなしにだろう。そういうのを「小さな親切、大きなお世話」っていうの。

モクさん (弱々しく) …はい…そうですね。会社でも家でも言われました。あなたのやる事は、間が抜けてるって…。

エリカ (命令調で) 泣き言いつてるひまがあつたら、さっさと行動しよう。

モクさん (反応して) はい。

2人、下手の健の方へ行こうとする。そこへ健、下手から猛スピードで上手に走り去る。すぐ戻ってきてシーと口にして隠れる。皆は風が吹いた後のようであつてとられて。

エリカ 健さんだ。

モクさん アニイ

ホッケさん 今のは健さんだった。

春子 …だったね。

須磨子 健だよ。

教授 たしかに…健さんだった。

のかな…あれほどコギヤルにだけは手を出さなつて言ったのによ…。

須磨子 (自信を持って) いやいや、健は年増好みだから、ガキには手を出さないよ。

上手、住人たちの会話の間に、ヤッチャンはエリカのテントの中をのぞこうとする。

気づいたエリカ、少女に向かつて走り出す。

エリカ 駄目だよ。そこは私の家なんだから！

ヤッチャン 家、これが…。ここは青空キャンプ場なの？

モリカ ハア…。あなたにはわからないけど、いろんな家があるの！

ヤッチャン あ、そうか。ここが噂のホームレスの住んでる所なんだ。くさくさないし、そんなに汚くないだね。

教授 お嬢さん。あなたの探しているその…パンダナのおじさん、どうかしたのかな？

ヤッチャン ひどい事を言っただよ。オイ

間、あつて、お互い顔を見合わせる。

エリカ 酒は？

モクさん 飲んでいません。

ホッケさん あんなには…

春子 早く走れないもんね。

須磨子 顔に黄痘出ていなかった。

教授 まったくの素面っぽかった。

モクさん (せめるように) …だれですか。象の墓場に健さんが行ったといったのは？

皆一斉に教授を指差す。

教授 …私…ですか…、例えばと言っただけなんです。私は須磨子さんの救急車の話から思いついたままで…

須磨子 …いや、わしだつて…ほら、隣の先月いた白いシャツボのじいさんのことが…頭にあつたもんで…

と健が去つた上手に集まりわいわい言っているうちに、下手からギターを抱えた少女が、あつちこつちの家(?)をものめずらしそうにのぞき、何かを

ラ、頭に来ちゃつてさ、追いかけて来たんだ。

住人、少女に聞こえないようにすみっこでヒソヒソと。

春子 たしかに、健さん口は悪いけど、子どもにひどいことを言うような人じゃないよね…。

ホッケさん (声が大きくなっている) 酒が切れて、ムラムラときたのかな？あんなガキによ。

ヤッチャン (ムツ…) 失礼だなガキだつて。頭に来るな、切れてしまひそうだな…。オイラ、これでも中学生だよ。

ホッケ、少女に見られないようにかくれる。

須磨子 女の子でも、オイラつて使うの、今の子は…。

エリカ そつなんだよね、今時の子どもは、まず乱れた日本語を直すことから、非行問題の解決にあたつてほしいもんだね。

探している。住人、少女に気づき顔を見合わせる。間

春子 (代表して) ちよつと何してるの。ここはね、あんたみたいな子ども来るどころじゃないよ。

ヤッチャン たしかに、こつちの方に来たんだけどなあ？ あのだ、目がちよつとつりあがつていて、頭にパンダナをしたおじさん、ここに来なかつた？

春子、すぐに健の合図を思い出し住人たちに向かつて、

春子 シーッ

ヤッチャン えっ！ シーッつて？

春子 …ううん。何でもない…来なかつたよ。

一同「うん」知りません」と空をほける。少女に聞こえないようにヒソヒソ声で。

モクさん アニイのこと探してるみたいですね。

ホッケさん 健さん、また何かやらかした

ヤッチャン オイラ非行児じゃないもん。

エリカ (怒つたエリカ少女に近づき) まあ、ああ言えはこう言う。口ばしの黄色いガキだね。めんこくないメンタ。

ヤッチャン (負けずに) あんたにめんこがられなくてもいいもん。

エリカ ハア…。(つかみあいでも始まりそうなけはい)

教授、エリカをなだめ、少女に向かいやさしい声で

教授 お嬢さんの探しているそのパンダナのおじさん。どうもこの住人で健さんつて呼ばれている人みたいなんだけど、その健さんは何で言ったのかな？

ヤッチャン …(もじもじと下を向く)

教授 口に出すのも恥ずかしい言葉なのかな？

ヤッチャン (ボンボンと)…

一同、固唾をのんで衝撃の告白を待っている。ヤッチャン、小さい声ではずかしそうに…。

ヤッチャン チューニングが狂ってるって

隠れていたホッケ、とびだして教授に
むかつて

ホッケさん チュー…チューイングがど
うしたって？

教授 チューイングがジャありません。
チューニング、つまり、ギターのコー
ドが狂っていたわけですね。

須磨子、少女のギターを上げ上げと見て。

須磨子 教授、このギターに電気のコード
なんてついてないよ。

教授 はあ、ま、コードと言ったら何って
言ったら説明がつくんでしょうかねえ
…。

春子 伴奏の音程のことだよ。須磨子さん
(音はずしてカチューシャの歌を歌い
はじめると) 神に願いをララかけましょ
うかりね、変でしょ。

須磨子、うんたしかに奏だ。それにしても
あんた音痴だね。

春子 ムッ。ムム…(何言ってケツかる。

須磨子 どうして今時の子どもは「不登
校」って堂々と言うんだろうね。わし
らの時代には通いたくても通えなかつ
たのにさ。わしだつて女学校に行つて
みたかつたんだ。勉強はできたんで、
先生が「ぜひ須磨子さんを上の学校へ」
と言ってくれたのに…家が貧乏でさあ
泣く泣くあん時は、父さまをうらん
だもんだ。昔、昔、あるところに、頭
のよくて美しい…(だんだん芝居がかつ
てくる)

モク、急にヤッチャンのそばに行き強
い口調でせまる。

モクさん どうして学校に行かないんだ？
いじめか？ 勉強がきらいなのか？
先生の差別か？ 落ちこぼれか？
ヤッチャン…なに？ このおじさん。う
ちのパパみたい！

教授、モクと少女の中に割ってはいり。

教授 まあ、子どもには子どものいろんな
事情があるんだろうから…本当の原因

大きなお世話よと顔では言つて、口に
は出さず)

ヤッチャン オイラね。路上で歌ってい
るんだよ。ストリートミュージシャン
さ。大道からメジャーデビューを目指
しているんだよ。コードを狂わせて歌つ
ていたなんて知つたら、恥ずかしくて
悔しくて…顔を真っ赤にして泣いてし
まった。

思い出して泣き始める。ホッケ、少女
に近づき興味しんしんと見ている。

エリカ (なぐさめるように) そりゃあ仕
方が無いよ。あの人、あれでも昔プロ
のフォーク歌手だったんだもの。
ヤッチャン えっ！ プロだったの。レ
コードも出した？

エリカ なんだかも、5枚出したつて言つ
てたね。売れたときもあつたんだつて。
飲んで言うんだから、あんまり信じら
れないけどね…。まあ、ここじゃ過去
のことを聞くのは御法度だね…。

ヤッチャン そうかプロだったのか…。オ
イラあの人に弟子入りする。

はよくわからないのかも知れないなあ。
ヤッチャン (モクにむかつて)…学校
に行かなかつたら人間のクズになるの
かい？ 学歴ばかりが人生のすべてか
い？ (強く抗議)

教授 (なだめるようにやさしく) そんな
ことはないと思うよ。学歴のある人が
人生の成功者とは言えない。現にその
見本がここに立っているんだから。

ホッケ、唐突に少女のそばに近寄る。

ホッケさん 家に帰ってないな？ (クンク
ン) 家出の匂いする、そうだよ。

ヤッチャン どうしてわかる？ 朝シャン
だつて、やつたんだよ。
ホッケさん 少女のいい匂いだよ。でも俺
にはわかるのさ、家出の匂いが。寂し
くて泣いた匂いがする。
ヤッチャン…泣かないもん。寂しくない
もん！ 寂しいつていつたら、人間は

一人で生まれて一人で寂しく死んでい
くんだろう？ 人間なんて死ぬために
生まれてくるようなもんじゃなにか！
須磨子 えらいこと言うね…。わしや永く

住人たち、少女の周りを囲みいっせいに
つめよる。

モクさん 弟子入り？

ホッケさん 学校はどうするんだよ？

エリカ 家には帰らないのかい？

春子 あんた、ここがどこなのか分かつて
るの？

須磨子 自分だけで決めても、相手の都
合でもんがあるんだよ。

教授 静粛に、静粛に、いっぺんに喋らな
いでください。順番に質問してください。
まず私から。オイラの方ですね、まず
お名前を聞かせていただけませんか？

皆、ヤッチャンの前に一列に並ぶ

ヤッチャン 本名野上康子。通称ヤッチャ
ンです。

ホッケさん 歳は？

ヤッチャン 15歳です。

エリカ 学校は？

ヤッチャン 学校は嫌いなので去年から
通ってません。

生きてきたけど、あんたほど悟つてな
いわ。

上手の物陰から、突然健、あらわれる。
ヤッチャンにむかつて、

健さん 何もわかつちやいないんだよ。口
先三寸なら何とでもほざけるさ。そん
なセリフはチューニングができてから
言うんだな。

唇を噛みしめてくやしそうに、健さん
をにらみつけるヤッチャン。

健さん おい！ ギターかせよ。(ヤッ
チャンのギターを取り上げてチューニ
ングを直す) さっきの歌を歌ってみれよ。
(ヤッチャンにギターを渡す)
ヤッチャン (うれしそうに) オーディショ
ンですか？ 良かったら弟子入りさせ
てくれる？

健さん…さあな。ゴタク言わないで歌え
よ。

ヤッチャン、緊張したおもちでギター

をひき歌いだす。住人たちはその場に座り興味しんしんで聴く。

ヤツチャン ふもつこれ以上生きていけない

い

死んでしまいたいと思った

納屋にあったロープを手に

裏山の小道を上った

ロープを木の枝にしばらくつけ

腰をおろし休んだ

母のことが思われた

孝一や敷の顔が浮かんできた

孝一と敷とは小さな頃から

よく遊んだものだ

でも5年生の2学期頃から

仲間はずれにされた

どうしてだか分からなかった

中学になるとさらにひどくなった

「ヤスオなんか死ぬ」

「おめえねんか学校に来るな」

2人の言葉が胸を刺した

中学3年の夏の終わり

学校へ行けなくなった

先生が心配して訪ねてくれたが

それでも行けなかった

母はおろおろして僕に聞いた
「やっちゃんだれかにいじめられているの」

僕は黙って首を横に振った

頬を伝って涙が落ちた

ある晩父が

「ヤスオがこうなったのはおまえのせいだ」

と母を殴った 母は泣きながら僕に

言った

「やっちゃんお願い学校に行つて」

次の日の朝

僕は学校に行こうと思って家を出た

でも足が 足が動かなかった

学校へは行けなかった

もうこれ以上生きていけない

死んでしまいたいと思った

納屋にあったロープを手に

裏山の小道を上った

「やっちゃん やっちゃん」

母の声が遠くから聞こえてきた

ロープから手を放し声のほうを見ると

息を切らせ 走ってくる母が見えた

母は僕にしがみついて言った

「やっちゃんごめん」

お母さんが悪かった
もう学校なんか行かなくてもいいよ」

母と僕は抱き合って泣いた

ホームレスは皆それぞれ歌の歌詞を聞いている。エリカは感動してヤツチャンの方にいく。ヤツチャン、歌うのをやめる。

エリカ よかったよ。本当によかったよ。あんた才能あるね。自分の事を歌にしたのかい？

ヤツチャン …うん。5代のおじさんの曲でね「それぞれの道」っていうんだ。エリカ なんだあ。やっちゃんっていうから、あんたのことを歌にしたんだって思っ泣いてしまったのに…損こいたなあ。…でもいい歌だよ。はい。カンパ(札をヤツチャンに渡す)

一同ピククリ。僕、ヤツチャンから札をひつたり点検してから返す。皆ものぞきこむ。

エリカ ニセ札じゃないよ、私だって出す

ときは出すんだよ。

健さん (ヤツチャンに) ちよつと、その

ギター貸せ。

健がカッコウつけてイントロを弾く。

ヤツチャンが歌った歌を歌いだす。皆

ギターを弾く健をめずらしそうに見ている。

健さん ふもつこれ以上生きていけない

死んでしまいたいと思つた

納屋にあったロープを手に

裏山の小道を上った

ロープを木の枝にしばらくつけ

首をさしだし吊り下がった

エリカ どうして吊り下がるのよ。主人公が死んだら、次のシーンが続かないじゃない。だいたいね、あんた、その声でよく「プロのフォーク歌手だった」って

言えたもんだね。

健、カンパをもらおうと思つていたが、あきらめ、ギターをヤツチャンに返す。

ヤツチャン そんなことはないよ。おじさ

ん…いや、健さんの歌はパワーがあつてソウルフルです。60年代に一世を風靡

した、ポプ・ティランみたいですよ。オ

イラの求めてきた人が、ここに確かにいました…。

エリカ (不思議そうに) …これが…。

すこいの？

ヤツチャン ハイ！

エリカ ヘー。

エリカ、首をかしげ納得できない様子で家に。

須磨子 わしの方がうまいと思うんだけど

なあ…。健、あはたもエクボだね。

健さん (妙な、泣き笑いで) エッヘへ…。ヤツチャン…どうですか？弟子にしてくれませんか。

健さん…。俺はもう歌は歌えない…。

ヤツチャン 今歌つたじゃないですか。

健さん しつこいな！ 駄目だったら駄目

なんだよ！

といつて、自分の家に。

ヤツチャン…。弟子にしてくれるまでこ

こを動かさない！

突然モク、ヤツチャンを怒りまくる。

モクさん どうして自分の思ふ通りにならないとそうやって子どもみたいに駄々をこねるんだよ！ 掃れ、ここは子どもの遊び場所じゃないんだ！

いつもおどおどしているモクさんが怒鳴つたので周りはピククリ。そしてなだめる。

ヤツチャン…。アンタには関係ないで

しよ。モクさん アンタ？ 大人に向かってアンタって言ったな…

ヤツチャン じゃ、なんて言えはいいのよ

！ おじさん？

モクさん オジさん？ (殴りかかる)

春子 どうしたのさ、モクさん。(止める)

子ども相手に。モクさん いや、こいつらは子どもなん

かじゃない。親を見下しているくせに、

ご飯だけはシャーシャーと食べる。(ヤツチャンに) だがそのご飯を食べさせてくれているんだ。お前の父親たるヤツチャン 馬鹿みたい。何をいきがってるの？

陰で聞いていたホツケ、その場を静めるように大きな声で。

ホツケさん 頭痛い！ 痛いなあ。ホツケさん、喧嘩している声を聞くと、悲しくて頭が痛くなって泣きたくなる。(シクシクとし始める)

間

春子 ヤツチャンだったつけ。

ヤツチャン …。(くやしそうに、下を向いている)

春子 わちの所に今夜は泊まんよ。あんなのタメ口を聞いていると、昔のわちを思い出したなあ。なんかさ、なつかしくなってくるっていうのか…うまく言えないけど…泊まんよ！ 毛布も2枚あるからさ。

教授 お嬢さん…それがいい！ それがいい。一晩寝たらいい考えも浮かんでくるかもしれないよ。若いんだから。

春子とヤツチャンは春子のテントの中に、須磨子、教授も自分の小屋に入る。場面はうす暗くなり、ホツケにライトがあたっている。

モクさん (シクシクと泣いているホツケさんに) ホツケさんすいません。この通り謝ります。もう泣くのはやめてください。あの娘、うちの長女によく似てるんです。

ホツケさん …うん…。モクさん、人っていろんなことがあるよね…。子どもも大人もどうしてこんな悲しい涙の袋をいっぱい持つてるんだろ…。(気持ちを変えて明るく) でも楽しいことだつていっぱいあるよ。もう眠ろう。明日、健さんたたき起こしてカンカン集めるんだ！…

ホツケ、自分の小屋のある下手に走り去る。ホツケさんの後ろ姿を追い、ヤツ

チャンが泊まっている春子の家を見つと見つめているモクさんの姿が残る。音楽が流れる。

暗転

第二場

前場より2日後の昼。いい天気。住民たちの洗濯物がちらほらとロープにかかっている。ビールの空き缶とゴミ袋が散乱している。空き缶を潰している健さん、ホツケさんはゴミの分別をしている。ゴミ袋を一つ一つあけ中味を出しながら。

ホツケさん 豆腐パック、発泡スチロールの皿、スチール缶、ペットボトル…ちゃんと資源回収と不燃物に分けておけよな。…牛乳パックも一緒にすんなよな。…何日前のだよ、くせえなあ…生ゴミも一緒にすんなよな。

健さん ホツケ。こうやって分別してみると、そいつの根性が見えるよな。

ホツケさん そうだよ。俺わかつたんだ。金持ちの方がだらしがないよね。貧乏人の方がちゃんと約束守ってわけているもん。ハイよ、もう一丁(空き缶を健の方になげる)

健さん (転がっていた空缶を棒切れで打ちアナウンサーのつもりで打ちました。長島、村山の剛速球をもの見事に9回ツーアウトから打ちました。ホームラン、ホームランです。逆転サヨナラホームランです。昭和33年。栄光の巨人軍に入って17年。私は今日、引退しますが、我が巨人軍は永久に不滅です。

エリカ、洗濯物を干しに出でくる。

健さん 後進に道を譲るのが、新しい巨人の野球の道を拓くことだと悟りました…。どこまでもカッコウいいのはいいなあ…。

エリカ、洗濯物を自分のテントの周りに干しながら。

エリカ 何言っただよ。清原、江藤なん

かを金にあかして補強して優勝できなかったんだもの、責任のあけくの退陣さ。長島なんて戦後パブルの象徴みたいなもんさ！

健さん おつ！ おつ！しゃいましたね。俺の青春のすべてをともに歩んでくれた長島さんによくぞケチをつけてくれたましたね。もうゆるさねえぞ、このアマノ(腕まくりをする)

エリカ 金できたの。払ってから言いたいことを言うんだね。(Pシヤリと)

健、急にしよんぼりして、

健さん …いま、働いてますよ。なあ、ホツケ！

ホツケさん 早くしないと。雑品の値段また下がるよ。一昨日まで一ケ一円だったのに、昨日は3ケで2円だったんだからね。わかってるの！

健さん …はい…はい。(缶を潰しはじめる)

下手よりヤツチャン、重そうなビニール袋を一つ担ぎ、一つは両手がかかえて登場。汗をかいてフーフーいってる。

ヤツチャン 拾ってきたよ！

健さん ヤス！ お前すこいなあ。

エリカ えらいね、こんなにたくさん、よく拾ってきたね。あんた、甲斐性あるね。

エリカ、自分のテントの中に入る。ヤツチャン、健に向かつて、

ヤツチャン ね、役に立つでしょう。弟子入りさせてくれますよ。

健さん …それとこれとは別のこと…。

ホツケ、ヤツチャンの持ってきた袋を点検していると、ゴミ袋の中から、潰してかためられた結束された空き缶が出てくる。

ホツケさん これ…健さん。

健さん うん？ …ホツケ。

健、結束された缶のかたまりを見てホツケと顔を見合わせる。

ホツケさん (叱る口調で) ヤツチャン、

これ5丁目の空き缶で山になったところから持ってきたでしょ。

ヤッチャン うん。いっぱいあつたよ。

ホツケさん あそこはマルヤマのザツピン屋さんだよ。

健さん だれかにごとわつて持ってきたのか？

ヤッチャン ……昼時でだれも居なかつた。(何か悪いことをしたのかと不思議そうに)

健さん (怒って) 返してこい！

ヤッチャン どうして！ あんなにいっぱいあるんだもの、一つくらいなくなつて分りやしないよ。

ホツケさん 分らなくとも、神様やお天道様がちゃんと見てるんだよ。「ホツケ、人の物を盗む者を泥棒って言うんだ。人間で一番恥ずかしいことだ」って死んだばあちゃんが言つた。バチがあたるって。

ヤッチャン ……どうして？ ホームレスって人の物を拾つて歩くんでしょ？

ホツケさん いいや、人の物には手をつけないよ。人がいらなくなつたものをもらつて生きてるんだよ。(堂々と誇り

をもつて)

ヤッチャン ……こんなにいっぱい物が溢れているんだよ。ちよつとくらい失敗したつてだれのふところも痛まないんだよ。前にさ、万引きでつかまつて母さんとあやまりに行つたらね、コンビニの店長が言つてたよ。「あやまりに來なくてもいいんです。この商品には万引きの分をちゃんと掛けているんです。」つて。皆そんなもんだよ。正直者が馬鹿を見るようにできてるんだよ。

健、カッとなつてヤッチャンにつかみかかる。

健さん 馬鹿野郎！ (殴る) ゴタク言つてないで返してこい！

ヤッチャン どうして殴るのさ。ちゃんと答えてよ！ 大人つて口でわかるように説明できなくなるとすぐ殴るんだね。健さんもそうなんだね。

健さん (ハツとする)
ヤッチャン ……返してくればいいんだらう、返してくれば。(結束された空缶の入つた重たい袋を背負う。もう一つの

袋をみて) そつちのはちゃんと拾つてきたものだからね。

とヤッチャン下手に去る。ヤッチャンの後ろ姿を追つて健とホツケ

健さん ヤス…！
ホツケさん ヤッチャン！

ちよつと前からこの場にあらわれ、いつもの場所です。古本の整理をしていた教授。

教授 健さん、駄目だよ暴力は。健さん 手が痛エな…熱いなあ…やけそうだな。説明ができなくなるとすぐ手を

出す…大人か…うまいこと言うなあ。ホツケさん 俺馬鹿だつたから、いつも父ちゃんに殴られていた…こわかつたけど、父ちゃん尊敬してたから、なんも

口答えできなかったなあ…
教授 嫌だとか、キライだとか、今の子どもたちはハッキリものを言いますね。…それでいいのかも知れませんよ。ハッキリものを言うというところは責任を持つということでしょう。もしかしたら、あの子たちが大人になつたときに、1

人ひとりのことを考える世の中になるのかも知れませんよ。

ホツケ、やつちやんが置いていつたゴミ袋の中味をみて

ホツケさん 健さん、これ…(ヤッチャンの袋のもの、きちんと分別収集されている) ちゃんと洗つて分別してあるよ。アツ!!

トリスの小瓶がでてくる、それを健に渡す。封の切つてない、トリスのビンには手紙がついている。手紙を開き健が読む。

健さん「拾つたものじゃありません。買ったものです。尊敬する師匠に！」

3人目を合わせて、ヤッチャンの去つて行つた方を見る。

教授 (健に) ハッハッハ。これじゃ、弟子入りを認める以外にないね。

健さん (目をしばたかせて) ……戻つてく

るかな…

教授 意志のはつきりしている娘だから…戻つてくるでしょう…

ホツケさん (ヒクヒク鼻を動かす) ……カレーライスだ。

下手奥から春子、須磨子が歌う賛美歌が聞こえてくる。ホツケ、歌の聞こえてくる下手に迎えに去る。それを合図に健、エリカ、教授、ビール箱をひっくり返し食卓を作りだす。

♪主、我を愛す、主が…♪
賛美歌を歌いながら須磨子、春子大きな袋を持って登場、ホツケも後からついてくる。

須磨子 (ホツケに) 本当にあんたの鼻はいいね…はい。今日の炊き出し。

カップに入ったカレーを次々に食卓に出す。バナナもある。

春子 カレーですよ。

皆テーブルの周りに陣どりカレーを食

べだす。

教授 (春子に) 今日はアーマンの方ですか？

春子 そつだよ。また行列する人が増えてね。先週より50人も多くなつたみたい。本当に不況なんだな、世間はさ。そしてね、モクさんみたいな中年が多いんだよ。

須磨子 それにしてもだよ。背広とネクタイをしたいい大人が並んでいるのさ…野外社員食堂じゃないつての……なんか勘違いしてるんじゃないのかな…本当のプロがやりにくくなつたもんだわ。

健さん 本当のプロは…なんだ？

須磨子 アーマンの恵み隊だつてさ、わしらみたいに本当に貧しくて困っているようだったら恵み甲斐があるつてもんだろ。「ありがたてえなあ…ああ、これで、エス様のおかげで1日生きられましたじゃ…」つてこう手をとつて、涙で顔をくしゃくしゃにしたら、ポランティ

アのやりがいがあるつてもんだろ。
須磨子、春子、食べるのを中断して立

ち上がり説明する。ま唇じみている。

春子 そうしてね、こう歌うとね。(賛美歌を歌う)「信者の方だったんですね。エス様は決しておばあちゃんの事を見捨てはしません。私たちも頑張りますから、おばあちゃん、一日も長く生きていてくださいわね。共に頑張りましょう。(小言で)カレーもご飯もしつかり食べてくださいわね」と言つてこんなにならね。須磨子 なあ、これが人との付き合ひの機微でもんだろ。それを、あいつらは、貰つて当然な顔をして無表情にゾロゾロと公園のベンチで、もさもさと食べてるんだわ。あれじゃあ、ヤツチャンに文句を言われる今のパパの成れの果てだね。

須磨子、春子、また自分の席にもどりカレーを食べだす。

教授 子どもも大人も何かを置き忘れてきてしまつたんですね。
ホツケさん 教授、どこかに忘れ物してきてたの？

癒される自然も人情もあつたんです…。帰りたいとも、戻りたいとも、もう戻る場所が無くなつてしまつた。

住人たち、しんみりとしてしまつた。

ホツケさん もどれる場所か？…施設はいやだな…あそこは命令はつかしななあ。ここの方がいいや。

春子 もどれる所…もどりたい所…あるのかな、わたしには…実家…家族…もどれないなあ。

健さん ネコも杓子も、東京へ、東京へ、集団就職で出て行つたもんなあ、夜汽車に乗つてよ。

エリカ 都会にはほしいものがいっぱいあつた。金、金があれば女王様にもなれるんだ。下田舎の貧乏暮らしにおさらばするのは、金、お金だよ。私の宗教は成金さ…いっぱいあつただけどな…あの金、どこに飛んでいつたんだらう？

そこへ下手から土方スタイルに頼かむり、典型的なホームレスの男、タンポー

教授 ホツケさん、物じゃないです。心ですよ。日本人の宗教心と言つてもいいかもしれせんね。信じられるもの、事です。

ホツケさん ふーん。健さん、分かるかい。健さん 俺の信じられるものは酒だ。エリカ 私は金だね。信じられるものは金しかないわね。

教授 ……かな。心の平穩はお金で買えてきたのだからか。なんか、日本が日本でなくなつてアメリカみたいに見えるんです。そんな歌、覚えていますか？(教授歌いだす)

久しぶりに手をひいて
親子で歩ける、うれしさに
小さい頃が、浮かんて来ますよ
おつ母さん

ここが、ここが、二三橋
記念の写真を、とりましようね

途中からエリカ、健、ホツケ、須磨子も一緒に歌う。

須磨子 「東京だよおつ母さん」

ルを自転車に積んであらわれる。

男 ウォース。(と挨拶して住人たちの前を通り過ぎる)

春子 ……ウォース…。

他の住人もカレーを食べながら注目する。

見知らぬホームレスは上手に去る。

健さん 重裝備なホームレスだな。一昔前のドヤ住まいという感じだぜ。たまにいるんだよなー、ああいつた時代遅れつていうのは。

ホツケさん (クンクン) モクさんだよ。

春子 えっ！ 本当？

ホツケさん 俺頭は悪いけど、鼻はいいからな。

健、上手に追つかけてモクさんを連れてくる。

健さん どうしたんだよ。そのカッコウ。モクさん (頬かむりを取つて、暗々とした顔を皆に見せる) どうですか、似合

ホツケさん 千代ちゃんだね。鳥倉の。

春子 聞いたことがある…あつ！ わちが五つか六つの時に母さんのばあちゃんが死んだの。葬式の晩にね、仏壇の前に座つてばあちゃんの写真を見ながら、母さんが歌つてた。小声で泣いてた…。いっぱい涙をこぼしてた。大人でもいっぱい泣くんであーって始めて知つた。

教授 昭和32年に流行つた歌ですね。

健さん おつ！ 長島のアビユーの頃だよ。エリカ あんた、何でも長島に結び付けるんだね。

健さん いいじゃねえかよ。お前よ、暗記つていうのはな、身近な興味のあるところから覚えるんだよ。

教授 この歌の一番には、天皇さんがいて、2番には兵隊にいつて戦死した兄さんをまつる神社があつて、最後にお参りするところは浅草観音様、つまり仏教ですね…。神様や仏様をかたわらにおいて、つましく平和に暮らしていた庶民の宗教心がちゃんと唄われているんですね。田舎にはまだ人がいっぱいいて、先祖代々の墓も田畑もありました。都会に疲れたら田舎に帰つて

うでしょう。どつから見てもプロのホームレスでしょう。

エリカ まあ…似合つていえば似合つていくけど。

モクさん ヤツチャンのせいでしようか、やつと決心がつかしました。「郷に入れば郷に従え」で、ここに住むことにしました。決意の程をまず、形に示したんですよ。

教授 段ボールは？

モクさん 屋根付きの家を作るつもりです。

春子 自転車は？

モクさん 市役所のリサイクルショップで分けてもらいました。空瓶、空缶、古新聞集めには機動力が必要ですからね。エリカ 決意してホームレスをするわけじゃないんだだけなあ…。

須磨子 いいんじゃないかな。ヤツチャンの歌のようにそれぞれのやり方、生き方があるつていうのもんじゃないかな…。

モクさん ……離婚の判を押してきました。…20年近く働いてきて、自分でも会社を大きくするのに多少の礎になつてき

たという自負はあったんですが。肩を叩かれましたね。」「長いことみてきたけど、あなたの能力では、ここで發揮される仕事が無いので、どうですか、新しい仕事を見つけて、存分に可能性を追求してみてもいい。」「やんわりとした言葉のうらにある残酷なリストラ宣言。」「うちに帰っても私の居場所が無いんです。子どもにも、あいつとかあの方と陰口をたたかれながらも、働いて、金を持って帰ることでなんとか我慢できたのに。」「会社の金を持ち逃げしてきたんです。」「実家の兄が立て替えてくれましたので犯罪にはなりませんでしたが、何もかも全部捨ててきました。どうかここに置いてください。(思い出しながら涙を浮かべ、土下座をして皆に頼む)

教授 モクさん。ここはだれかに許可をとらなくてもいいところです。あなたがはじめてだよ、ここに来ることを説明したのは、皆それぞれに後ろめたいことの1つや2つは持っているものですよ。ねえ、皆さん。(と皆の方を見る)

皆、首を垂れる。

健さん (やさしげに) 居たかったら気のすむまで居ればいいんだよ。
須磨子 腹減ってないかい？
春子 炊き出しでももらったものだけど、はい、カレー。
ホッケさん バナナもあるですよ。

残っていたカレー入りのカップとスプーン、バナナをモクの前に持つていく。
モクさん 皆さん(また涙ぐむ) ありがとうございます。未熟者ですがよろしくお願ひします。

と頭を下げるモクに、皆もあわてて座り直して頭を下げる。

健さん モク、オマエ太気あるのか？
モクさん …はい。百姓の子ともでしたからね。この作業服は二十年前に死んだ親父の形見なんです。このスタイルで、今頃になると、まさかりで薪を割る親父の姿が目に見え付いています。これだけを持って家を出てきました。

健、立ち上がりモクを誘う。

健さん …よし、越冬用の家作るべ。俺手伝つてやるよ。
モクさん …アニ、よろしくお願ひします。

2人下手に。入れ替わりに、上手からリヤカーをひいた雑器屋風のおじさん、鼻歌を歌いながらあらわれる。リヤカーには荷物が一箱、皆は食卓を片付けながらリヤカーの荷物に興味しんしん。

ホッケさん やあ、トラさん精がでるね。儲かつてつかい？

教授 今日もいっぱいありますね。商売繁盛で結構、結構。

健、モクも下手から登場。

トラさん (リヤカーをその場に止め) いや、商売じゃねえ。家移りよ。

住人たち、驚きトラの周りに。

エリカ …どこに行くんだい？

トラさん (今来た方をみながら) 向こうのガード下。…強制撤去だ。

春子 えっ！ いつ？

トラさん 10日後だって。間近になるとテレビ、ラジオ、ヤジ馬が集まってあずましくねえべさ、一足先にトンスラよ。

須磨子 ここにも来るんだべか？なあ健。

ホッケさん …ここいいんだけどなあ。どこへ行くべ…。

健さん あっ！ わかったぞ。あの丸富スーパリーの駐車場係の嫌がらせ、あれは社長の差し金だったんだ。「ははあ、そうゆうことだったのか。」

春子 社長ってお竜さんのとこのバカ息子のこと？

健さん おお、あの野郎な、役所かなんかと結託して俺たちをここから追い出しにかかってんだ。あの野郎…。

エリカ 大丈夫だよ。ここはお竜さん名義の土地なんだから。バカ息子には困ったもんだって口癖だもん。

須磨子 (お竜さんの真似) 「俺の目の黒いうちは勝手にさせねえ」とサラシに手をあてドスを抜くかっこうだもん

な。

ホッケさん 「ごめん！ ごめん！ 母ちゃん」ってバカ息子、この前も謝ってた。

一同大笑い、物陰から見えていたヤッチャン、下手から小さなゴミ袋を持って登場。
ヤッチャン みんな居なくなっちゃうの？

一同 (皆驚く) ヤッチャン！

トラさん このワラストコな、ワがいつもリヤカー押してる時に歌っている歌っこ…あれは聞きつけてな…教えてくれっていうんだわ。教えるほどのものじゃねえ…こっばずかしいからやんだといったらな。リヤカーにしがみついてゴンポたれるんだわ。

一同大笑い、ヤッチャンはずかしそう。

春子 ヤッチャン、あんたどこいってもやっつてん、だね。(笑いながら)
トラさん それによ、聞いてみつと、こ

この皆に怒られたって泣いてつからよ、ワがとりなしてやつからつて連れてきたのよ。ワラストコ、持つてこい。

ヤッチャン うん。(春子の家に一場おいていった、ギターをとりに行く)

トラさん それより、下北の恐山って知ってっべ…。皆知らないと首をふるるるに、知らねえつて。いいか。(両腕で下北半島を描く) 津軽、青森、この骨の部分かな、下北半島だ。ここが恐山だ、で、ここが下風呂だ。ワの故郷だ。(ヤッチャンからギターを受け取る) 歌うぞ。

トラ、ギターを弾き歌いだす。住人、ヤッチャン、楽しそうに聞いている。

トラさん …僕の好きなふるさと
小ぢやな牧場だけど
山がとてもきれいだね
この僕のふるさと

季節はめぐり 同じくり返し
僕の小さな頃から
育つたこのふるさと
僕の友は今 このふるさとをはなれて
みんな都会へ行ってしまつ

僕はひとりふるさとに
季節はめぐり 同じくり返し
僕の小さな頃から

育ったこのふるさと
ヤッチャン (喜んでとび上がり) すこい。
すこい実さん。

しみりと聞いていた住人たちの大き
な拍手。

トラさん ヘッヘッヘ。そんなにほめられ
ると、ワもううれしいなあ。

…君に逢えてよかつたあー

トラ、舞台狭しと踊りながら歌う。皆
も手拍子しながらでたらめに踊る。

トラさん ト本当に君に逢えて 本当によ
かつた

今僕は青空の下で

知らぬ人と話をしたとき

本当に君に逢えて 本当によかつた

本当に君に逢えて 本当によかつた

トラの歌が終わるとまた住人たち大き

な拍手。ヤッチャン、トラにかけより
小さな人形を差し出す。

ヤッチャン 實さんにささげるオイラのさ
さやかなプレゼントです。

トラさん …へえ…プレゼントか…何年

ぶりだべか…ありがたくもらつとくよ。
ワラスッこな、ワな夢持つて歩いてい
るんだ。ワの家はこの青い空の下、ど
こもワの家だ。いろんなところさ、ト
コトコいつているんな人と会える、お
もしろいもんだぞ、おめえもやつてみ
ればいいんだ…それじゃ皆も達者でな

住人たち、トラの手をとり別れをおしむ。
トラ、さみしげにリヤカーを押して下
手に去る。住人たち、「元気だね」「また
会おうね」と見送る。

ヤッチャン ホツケさん。ちゃんと拾つて
きたよ。(あき岳の入った袋を渡す)
ホツケさん えらい。えらいよ。(袋をもつ
て上手に去る)

健さん ヤス、さつきはごめんな。殴つて
よ。後でチューニングの仕方教えてやる。

ヤッチャン うん。

一同、自分の家に戻っている。教授のみ、
自分の小屋の外で古本の仕分けをして
いる。舞台はヤッチャンと教授の2人
だけになる。

ヤッチャン (ポツンと、つぶやく) みんな
こんなに才能あるのにどうしてホー
ムレスになつたのかな…。

教授 (聞きつけて) ホームレスになつた
から、自分らしくなれたのかもしれない
よ。

ヤッチャン えっ…どういうこと?

教授 …(黙々と古本のへりを紙やすりで
削っている)

ヤッチャン ねえ、教授、教えて。自分ら
しくって何?

教授 …夢を持つことかな…。ヤッ
チャンはシンガーソングライターにな
りたいって夢があるでしょう。それが
自分らしいっていうことでないかな?
ヤッチャン …わからない…。なれたら
いなって思うけど…本気になつて信じ
られない。本当のこというとね…学校

に行かなくてもいいような理由を作つ
ているだけかもしれない。

教授 おやおや、今日は弱気なヤッチャン
だね。

ヤッチャン なんだかここに居たら、自分
がすこく赤ん坊に見えてきた…。

教授 お母さんのおっぱいが恋しくなつた
のかな?

ヤッチャン …うん、そんな感じ。あれつ
つ、愛だな、こんなに素直なヤッチャンだつ
たかな…。(涙をふく)口うるさいママも、

仕事仕事のパパも、大人としてオイラ
の知らない苦労もあるんだなあつて少
しわかる気がしてきた。

教授 人のことを思いやれるというのは、
自我の始まりだよ。

ヤッチャン 自我?

教授 自分とまわりの人が違つということ
に気づくということだよ。ヤッチャン

の「それぞれの道」にもちゃんと歌われ
ているじゃないか。…赤ん坊からちよつ

と大人の世界をのぞいたのかも知れな
いよ。あせることはないのさ。いろん

なことがわかるまで、まだいっぱい時
間があるんだもの。私にはもうやり直

し

しの時間がないから、ヤッチャンがう
らやましいなあ。

ヤッチャン ……?

そこに、この地主のお竜の息子「花
田太郎」背広姿で大きなふろしき包み
を担いで「花と竜」の歌を歌いながら
登場。この住人たちソロソロと出て
くるが、息子とわかつてまた姿をけす。
さらにそこにねじり鉢巻、前掛け姿の
花田童子が出てくる。住人たち喜んで
でてきて、一列に並ぶ。お竜ビール箱
に座り、その前に息子がふろしき包み
を広げる。中からいろいろなものが出
てくる。健、お竜の前に出る。

お竜さん 健。あんまり酒飲んでないな!

健さん (礼儀正しい口調で) へい、お竜
さん、気をつけています。

お竜さん これから寒くなるんで、オレも
あんまり来れなくなるからな、ほどほ
どにやるんだぞ。

といつてお酒一本を差し出す。

健さん へえ! わかつています。ほどほ
どに、いつもありがとごさいます。(自

分の小屋に戻る)

花田の息子、この場から去る。2番手
にホツケ、お竜の前に行き、頭を下げる。

お竜さん ホツケさんか。…松前漬と芋昆
布持つてきたぞ。

ホツケ、不満そうな様子でおそるおそる。

ホツケさん …あの、お竜さん、今日はホッ
ケ無いか?

お竜さん ごめんな、生きのいいのなくて
よ。今日のところはこのピン詰めが
まんしてくれ、なあ…。今度来るとき
には…。(ホツケが泣きそうなのを見て)

そうだオレのなあ、晩飯のおかずのア
ジの干物おいてくからよ、なあ。

ホツケさん …うん。(淋しそうな顔、干
物も受け取り七輪の方へ行く)

ヤッチャン ホツケさん。ホツケつてそん
なにおいしいの?

ホツケさん (元気になる) うん。オレな、
ホツケ食べている時が一番うれしいん
だ。父ちゃんも母ちゃんも一緒にご飯

食べてくれるんだ。

ヤッチャン……。ホッケさんの父さんと母さんってどこにいるの？

ホッケさん ホッケを食べる時だけ元気になってくる。……そうだよ、教授。

教授 そうです。ホッケさんの嬉しそうなお顔をしている時は父さんも母さんも嬉しそうに顔していますよ。

ホッケさん 父ちゃんと母ちゃん、アジでも我慢してくれるかな。(と七輪の火を起こしアジを焼く仕度をし始める)

須磨子 (小声でヤッチャンに) ホッケの父ちゃんと母ちゃん、石狩の海で漁師やっただけだよ。……春のシケで舟転覆してな……まだ小さかったホッケは残して、いつべんに死んだんだと。ヤッチャン ホッケさんは生きていていつてたよ……。じゃ、これ？(おぼけの真似)

須磨子 いや、ホッケにだけはハッキリと見えるんだよ。

お竜さん 次はだれた。

須磨子 お竜さん、いつもすまないね。

(走ってお竜の前へ)

お竜さん おつ須磨子さんか。どつか悪く

ねえか？ メシちゃんと食べてっか？

須磨子 エエ……まあ……気楽にといいたところですよ。

お竜さん それは何よりだよ。これから寒くなるし……あんたも年なんだからよ。どうだ、この前いつてた老人施設に入るつてのは、決心ついたか？

須磨子 生活保護を受けられていうんでしょ……。昔気質っていうんでしょ……。どうも……お上には世話になりたくないですよ……

お竜さん ……そうか。その気になったらオレにいつてくれ。……オレも年なんでも……。早くに決めた方がいいぞ。毛布とせつけんだ。たまには風呂に入つてぬくまっただ方がいいぞ。そのカツコウじや昔の花形役者もカタ無しだぞ。

須磨子 そんなにキタナかなあ……(胸元から手鏡を出して) 若い時と全然変わってないんだけど……

春子 須磨子さん、あんた老眼鏡もつてないの？

須磨子 (ムツと) わちはね、目はいいの！ / フン。(毛布と石鹸を受け取り、自分の小屋に戻る)

お竜さん 春子にはこれだ。(ふろしき包みを渡す)

春子 うわあ。何か悪いなあ。何かな？

お竜さん ……セーターだ。

春子 (アジを焼く様子を見てるヤッチャンに) ヤッチャン、あんたセーター持つてんの？

ヤッチャン ううん。

春子 ワチと背かつこう似てるし、着てみようか？

ヤッチャン ううん。
2人、春子の小屋にもらったセーターを持って入る

エリカ (お竜の前に行き) たばこ無いかい？

お竜さん あるよ……。したつけこの間やめたつていつてたな……

エリカ うん。2、3本づつ売るのが。現金収入には一番確実だからね。もちろん市価よりは安くしてるよ。

お竜さん おめえの話は聞いてつと、オレの若え時の頃は思い出させてくれるよな。戦後の焼け跡時代のバイイタリ

ティツていうのかな……。ほら、持つてけ。

……(たばこを渡す) エリカ、そうでもよ、そんなにためて何すんだ……

エリカ ……内緒。どうもね。(自分の小屋に戻る)

皆がお竜から何かもらっているのを見ているお竜に。

お竜さん おい、その新入り。おめえなんかほしいものねえか？

モクさん ……(何と聞いていいかわからない態度)

お竜さん 人から物をめぐんでもらうつていうことは新入りには辛いことだが、これも何かの人生修行だべ。いいか、気がついた時が人生の始まりだぞ。

モクさん (思いきつて) いただけるものなら何でも願います。

お竜さん よし。持つてけドロボウ。(チョコレートとお菓子を渡す)

モクさん (礼儀正しく) ありがとうございます。(といつてもらう)

お竜さん 教授。(と言いつて残りのお菓子を差し出す)

教授 ……お竜さん、今日は何か変ですわ。

お竜さん 変々なんだよ。

教授 さつきから皆に、年だとか、最後の別れのような言葉が多いから……それにいつもよりくれるものが多い。

お竜さん 教授、おめえにはかなわねえな……。オレな、来週な……手術だよ。もう帰つて来れねえかも知れねえ。

教授 ……病気ですか？

お竜さん 十二指腸潰瘍だと息子はぬかしているが、あの顔は嘘つけねえから、胃癌の末期だべな。自分の寿命は自分の体が一番わかっている。そんでよ。一番気がかりなことはな、おめえたちのことだ……

知らぬ間に住人たち、2人の会話を盗み聞きして家からでてきている。お竜を囲んで、心配そうに座っている。

お竜さん 引き揚げて、豊平川の侍部落にいたオレにはおめえたちのことが他人事だわね……。浮浪者のヤクザだとか馬鹿にされながらもよ。この辺りの土地ははだか一貫で買ったんだぞ……オレ

の土地だ。ホームレスがいたつていい！

須磨子 ……お竜さん、すいません……

土下座をする須磨子を見て皆も頭を下げる。それを見てお竜辛くなり、

お竜さん もう駄目だ。こら、太郎出て来いこのバカ息子！

お竜さん ここに手まつて謝れ！……このバカ息子な、ここは不動産屋に売ってしまったんだ。この様をみたら母ちゃん死んでも死にきれねえべ、このバカ！(太郎を何回も叩く) 教授、止めてはいる

太郎 母ちゃん、ごめんごめん！(泣きながら去る)

お竜さん 許してやつてくれ。あれでもオレの息子だ。皆に土下座してあやまる

ホッケさん (雰囲気を変えるように明るく) ……お竜さんからもらったホッケが一番うまかった。父ちゃんも母ちゃんもそういつてたよ。オレ、働いて……

番うまいホツケ、病院に届けるな。

お竜さん ……ホツケ：楽しみにしてるぞ…。

エリカ 長いことありがとうございまして。ワチらお竜さんが心配するほどヤワじゃありませんよ。どこにだつて生きていけるだけの知恵と度胸があります。内緒の金のつかいみちね…ふるさとの田舎に立派な大きな墓作るつもりなの。馬鹿にしていた連中を末代まで見下すような立派な墓をね。

健さん おまえ、その墓なんぼかかるんだ？

エリカ (思わず) 500万…

健さん えっ！ 持ってるの！ 500万。(喜ぶ)

エリカ ……知らないよ。(逃げる構え)

健さん だつておまえ、今言つたぞ。貸して！

上手に逃げるエリカ。追いかける健、2人去る。

春子 お竜さん。ママ行つたね。

お竜さん ……ああ、受けとつてくれなかつ

たつて、泣いてたぞ。もう許してやれ……なあ。女が1人で生きていくつてのは大変な時代だつたんだからよ。

春子 だからつていつて、次から次へと男を代えるなんて許せないよ！ 新品のセーターだつてあの男の匂いがしてきて吐き気がする。

ヤツチャン 春子さん！ このセーターあつたかいよ。ママの匂いがする。

教授 あと何日ぐらい、ここに居れますか？

お竜さん ……3日ぐらいだ。もっと早く来ればよかつたんだけどな。辛くて辛くてよ。

教授 慣れてますから大丈夫ですよ。それよりお竜さん自分の病気の事、大事にしてください。

いつの間にか健、エリカは戻ってきている。住人たち、お竜に頭を下げ教授とアジを焼くホツケを残して小屋の中にもどる。

お竜さん ……教授！ (小声で) 逃げれ！

はやく。

教授 ……？

お竜さん 宮田がここに来る。

教授 (キラッと目を光らせて) 宮田…刑事ですか。

お竜さん うん。早く仕度すれば。

教授 そつですか。宮田さんが来るんですか…あの人はいい人だ。あの人がよかつた。お竜さんは聞きましましたね。

お竜さん ……うん…。

上手より宮田刑事、2人の様子をみている。ホツケは気づきギョツとしてアジをもつて逃げる。顔をだしてみているホームレスたちも中に隠れる。宮田刑事が出てくると、お竜は上手すみに座り教授と刑事の様子をうかがう

宮田刑事 よお、教授。この間の一手な、

口惜しくて口惜しくて、家に帰つて調べてみたらな。あれは禁じ手だつたぞ。

教授 ばれましたか…ハッハッハ。宮田さんに勝つにはあれしかなかつたんですよ。それにしてもあなたは強い。若い頃に将棋の道を志していたらきつとその道で名を成していたでしょうね…。

あなたの将棋は正直で風格があります。

宮田刑事 それは、一生平刑事で定年を来

春に迎える私への皮肉かな…。

教授 めつそつもありませんよ。…宮田さん、家のお袋は七十の手習いで将棋にこりましてね。私が学校をひけるのを待ちかねるかのように将棋盤を出してくるんですよ。年老いた母親と初老をむかえた息子のなごやかな将棋でした。…お世話かけます。(宮田刑事の前に進み出て両手をさし出す)

宮田刑事 ……教授…。猪ノ瀬を太郎。殺人の容疑で逮捕する。(逮捕令状を見せる)

手錠をかける。とヤツチャン、止める春子をふり切つてとび出す。

ヤツチャン 教授！ しくりして(と泣きながらむししゃぶりつく) いやだ、こんなの！

物陰で聞いていた住人たちもでてくる。

宮田刑事 ……この娘は？

春子 近所の子だね。ホームレスの現地調

査だつて3日前から来てんの。

ヤツチャン (宮田刑事に向かつて) ちがうよ。万引きはしたし、5丁目の空缶は盗んできたし、不登校だし、そして家出してるんだよ。悪いのはオイラ。でも教授はそんなオイラに夢を持ちなさいつて言ってくれた。そんないい人が悪いことをするはずがないよ。きつと何かの間違ひだよ！ (強く抗議する)

宮田刑事 ……？

教授 ……ヤツチャン、ありがとう…。(涙声)…宮田さんまだ時間がありますよね。この娘にだけはちゃんと話しておきたいんです。

宮田刑事 (物陰に教授をつれていき手錠をはずす) さわつただけではずれてしまった。…これだから定年ボケの刑事は困るんだよな。装備の点検もなつちやいない。また始末書ものだな。ハッハッハ。

お竜さん (缶コーヒーを出して) どうだいい宮田刑事。ちよつくらこつちで休んでいかんかい？

宮田刑事 汚職はこまります。(怒つて)……それにしてもどが乾きましたね。

ハッハッハ(とコーヒーを受け取る)。

お竜と宮田刑事、上手すみに座る。見守つていた住人たちに向かい、

宮田刑事 (笑いながら) 皆さん、タレこみは困りますよ。退職金だけを楽しみにしている家族が私にもいる。

住人たち、宮田刑事にお辞儀をする。下手前に教授とヤツチャンが座る。住人たちは上手奥に各々座っている。舞台、教授とヤツチャンに明りがあたる。

教授 ヤツチャン。今から50年前、この国は戦争をして負けたことを知っているね。

ヤツチャン ……うん。教授は戦争に行ったの？

教授 今のヤツチャンより2つ3つ上だつたかな。赤道直下のニューギニア戦線でした。人間が悪魔のように残酷になれるのは戦争です。気遣いみたいなものですよ…最後には悲惨なもので食料も無くなり、骨と皮みたいになつて1人2人と撤退の途中で死んでいきました。同じ年頃の戦友がいますよ。重いマ

ラリヤに罹つてもう駄目だという時に
こう言うんですよ。「生きて帰れ。帰つ
て俺のおふくろに会つて息子は天皇座
下の赤子として名譽の戦死を遂げた
と伝えてくれ」と、タロイモの半かけを
僕に差し出すんですよ。その頃にはも
う食料が無くなつてタロイモの葉や莖
すらも命綱でした。受けとると、そい
つが優しい目で「ありがとう」と言っ
たんですよ。…奇跡的に焼け野原となつ
た日本にもどつて来ました。親父は満
州の引き揚げの途中の船上で死に、弟
は沖繩で戦死していました。のこされ
た母と子ども2人だけで戦後の日本を
走つて来た50数年でした。

ヤツチャン 教授は結婚しなかつたの？

教授 あんまりお金にならないような地味
な研究をしていましたから、女房、子
どもを養うような甲斐性があるように
は思えなかつたからね。…80を過ぎて
気丈な母親にもボケと余病があらわれ
て来ました。入退院をくり返し最後に
は医者からも見捨てられ自宅に戻つて
きました。3年前だったかどうか…月
がきれいであたりは青々としている夜

ヤツチャン わからないよ。どうしてみん
なそんなにおいらに優しくしてくれる
の…。

ホツケさん 淋しいのは嫌だからさ。みん
な仲良かったら嬉しいじゃないか…そ
うだよね教授。

教授 そつです。ホツケさんのいう通りで
す。

須磨子 じゃあ、ワシの歌もみんなの事は、
はげましてたわけだ。(舞台中央にでて
きて)「一番、カチューシャの歌」歌います。
♪カチューシャ可愛いや別れのつらさ
せてまた会うそれまでは 同じ姿
でララいてたもれ♪

途中から泣き始める、春子が止め、座つ
ていたところにつれ帰る。

教授 ヤツチャン。生きていればいつかは
わかる。(立ち上がり宮田刑事の前に行
く)…宮田さん時間をとらせて申し訳
ありません。もうこれで思い残すこと
はありません。(両手をさし出す)

宮田刑事 (手を払つて) 教授、歌を忘れ
たカナリヤですか。今度会つた時には

でした。酸素吸入器のシューシューと
いう音とおふくろの荒い息遣いだけの
聞こえる静かな夜でした。苦しうな
熱でうわ言とめき声を断続的に発し
ていました。カーッと目を開いてマス
クをはずしておふくろがこう言うん
です。「もういいでしょう、楽にして、あ
なた」つて。目に涙をいっばいためて
…。おふくろには僕が親父に見えるん
でしようね。50年間も死んだ親父を
そばに置いて生きてきたおふくろの女
としての一生が哀れでした。機械を止
めたのか、手を下したのかよく覚えて
いないんです。最後におふくろが言
いました。「ありがとう」つて…あの戦友
と同じに「ありがとう」つて…。ヤツチャ
ン。苦勞して真面目に生きていても最
後が幸せであるという保証は無いと私
も思う。…でもね、そう思う時に二人
の音が聞こえてくるんだ。「ありがとう」
という声。どうして、何故か、と叫
んでも声は優しく嬉しそうなんだ…。
ヤツチャン。人間つてきつと最後には
すこく優しい気持ちになれて、生き残つ
ていくものに後事を託していくもんだ

私にも歌える歌を一つ仕入れてくるよ。
いい話がありがとう。…行くか。

教授、宮田刑事に感謝の気持ちを込め
頭を下げる。宮田刑事、お竜去る。教
授も続が住人たちの前までくると立
ち止り、

教授 じゃ、皆さんも達者で長生きしま
しょう！
一同 おう！

住人たち、教授の顔をじつとみていて
腕を上げる。教授も去ろうとする。す
るとヤツチャンのお母さんが下手から
走つて登場。

ヤツチャンの母 ヤツチャン！
ヤツチャン …お母さん！
ヤツチャンの母 …探したのよ、お母さん。
ヤツチャン、ごめんね。お願い、お母
さんより先に死なないで！

母を見ていたヤツチャン、去ろうとす
る教授に気づき、

と思うようになったよ「ありがとう」つ
て言つて。ヤツチャン。人間つてやつ
はいろんな間違いを犯すけど、生きて
いるつてことは本当に生きてきたことも
あるんだよ。だから生きていかなけれ
ば駄目だ。(ヤツチャンの肩をおさえる)
ヤツチャン …

教授 ヤツチャン。あんたがここに来てく
れて歌を忘れていたカナリヤたちが歌
を歌えるようになった。

教授のセリフに答えるようにエリカの
歌声。

エリカ ♪歌を忘れたカナリヤは裏のお蔵
に捨てましょかり(小声で歌つてみる)
そうか、歌を忘れると捨てられるのか。
わちらみたいに…。

教授 (うれしそうに) 悩んだり喜んだり
悲しかったりして生きているあんたに
ふれて忘れていたものを思いおこさせ
てくれた。

健さん そついえば、なんか怒つたり嬉し
かつたり、久しぶりにハイになつたも
んな。

ヤツチャン …教授！

それを見ていた教授 ヤツチャンの目
をみて頷き去る。

音楽

暗転

エピローグ

それから2日後の午後。晩秋の色濃く
なっている。ホームレスのそれぞれの
家はきれいに片付けられている。ただ1
つエリカのテントが残っている。健さ
んがそれぞれの片付けを点検している。
ホツケさんはリュックと七輪を荷造つ
ている。須磨子は旅袋で大きな荷物を
まとめている。春子は旅行カバン、モ
クはリュックを背負っている。

健さん (七輪をみて) ホツケ、おまえそ
んなものまで持つていくのか？
ホツケさん そうだよ。これが無いとホツ

ケがうまく焼けないんだもの。
須磨子 ワチのガスコンロ貸してやるからっていつてんのに聞かないんだよ。
健さん ホツケ、ここのすれぞうだぞ。(七輪のひび割れを見つげ)
ホツケさん ホント……。俺の大事な七輪もう駄目なのかな。(シヨンポリとなる。目に涙があふれてくる)

モクさん、それを見て自転車から工具を取り出し針金でしばって七輪を直し始める。

モクさん ホツケさん。こうすれば大丈夫ですよ。

健さん (仕事ぶりに関心して) すっげーなーモク。お前いつの間にプロのホームレスになったのよ。

春子 モクさんってすごいんだよ。この2日間テキパキと後片付けしてくれたのはモクさんなんだからね。健さん、何かしたかい？

健さん いや、俺が起きた時にはきれいなっていたからなあ。お竜さんのところの社員がバタバタとやってたと思っ

てた。そうか。モクがやったのか。..
モクさん 健さん、不思議ですね。ここにいたらおやじと同じようにパツパと身体と手が動くんですよ。

健さん 何だモク。それは俺への当てこすりか? エエ? ...そうですよ。どうせ俺はアル中で怠け者ですから。(ふてくされる)

春子 ハッハッハ。変なの。立場が逆転してやんの。
健さん ...何だ。お前、俺に喧嘩ふっかけてんのか?

春子 そうだよ。やろうか、健さん。最後なんだから。(身構える)

健さん ...よし。俺が勝ったら、ワンカツブ一つだからな。

春子 (うれしそうに) いいですよ。カティーサークの新品一本でもいいですよ。

健さん 本気になるからな。いいなあ。約束守れよ。

健はボクシング。春子はケリの喧嘩殺法。チンに炸裂して健さんダウン。

健さん (土下座して) ...参りました。もとスケパンの、ヤンキーの喧嘩殺法には勝てません。この通り、すいませんでした。

春子 (しみりと) ...遊んでくれてありがとう。健さん。(バックの中からワンカツブ)

健さん ...おめえ...ケリ入れる前に出せよな。

須磨子 春子の屈折した愛情表現かも知れないよ。(ちやちやを入れる)

健さん ...それにしても痛え愛情表現だな。(泣き笑い)

春子もそーつと涙をふいている。

健さん 春子よ、おめえどこに行くんだ? 家に帰るのか?

春子 ...。健さんは? 健さん 俺か...。鬱る心に問ふらくは月はいづくぞ雨如何に流れ流れてさすらうだけよ。ホツケに須磨子は?

ホツケさん 俺は須磨子さんと一緒ならどこへでも。
須磨子 死ぬときは北海道だって、きめ

てただけと...こう寒くなってみると、もうちょっと暖かい方がいいなあ。寄る年波には勝てないのかなあ...早く迎えに来いっての。(天を見上げて)...

エリカはどうするんだよ。
健さん (エリカの方をみて) ...教授が連れていかれてからよ、なんか変なんだよ。昨日もな、500円貸してくれて言ったらよ、ニヤツと笑って、スーって出すんだよ。俺気味悪くて近づけないんだ。

モクさん、なんかテントの中を片付けてるみたいでしたよ。夜中にごそごそとしましたから。...いや、のぞきやストーリーカーじゃありませんよ。音だけ聞こえたんです。笑ったり、しくしくと泣いたり、ちよつと変なんですけど...。

健さん、これか(頭をクルクルとさせる)

テントの中からゲラゲラと笑うエリカの声が聞こえて一同ギョツとして上すみにかたまる。

エリカ よし、決めた!

と叫んでテントから荷物と本人が出てくる。テントを片付け始める。エリカの動作を見続ける一同。エリカは「東京だよおつかさん」を鼻歌で歌いながら作業を続ける。

エリカ ちよつと御一同さま。(ニヤツと笑う)

健さん (須磨子に) なあ、変だろ。須磨子 変だ。(おびえている)

エリカ 手が空いてんなら手伝ってよ。(怒る)

健さん いつものエリカだ。(ハイハイとモクさんと健さん、一緒にテントをたむ)

それぞれ旅立ちの準備を終えて舞台はただの建設現場にもどり旅姿のホームレスが6人。

エリカ 住めば都だっというけど、こうあつさり何も無くなってしまうとせいせいとすもんだね...みんなどこへ行くか決めたの?

一同それぞれ決めてないと首をふる。

エリカ ...このままバラバラに別れるってのはなんか淋しいね。(とめずらしくしみりとすも)

健さん ... (そおつと頭をなややつて) おまえ熱でもあるんでねえのか? エリカ どうしてさ。

健さん 淋しいとか悲しいとか、お前の口から出たの、初めてだからよ...。エリカ (手を払いのけて) 馬鹿にして。(逃げる健さん) まいったなあ...「ありがとう」には。

須磨子 教授のことか? エリカ うん。事を建ててもだれも「ありがとう」っていつてくれないもんね... 何んかさ、見返してやるんだって気持ち馬鹿馬鹿しく思えてきてしまつてさ。(ポストンバックをさわって) お金を持つているとき、人間でガスになるのかな...。

健さん いないえ、お金つてやつは大事なものですよ。困っている人に恵んでやつたらせいせいするもんじゃないですか...ここに困っている人いるんですけど。

(手をさし出す)

エリカ …馬鹿！…(シロツとにらみつける)でさ、あつたかい所でさ、ここの続きやろうよ。

健さん 東京か？

春子 名古屋のきしめん食べたい！

須磨子 大阪のカマは実入りがいいんだつて。

エリカ 中東なんて行つたらホームレスつて馬鹿にしないかもね。似たようなもんだから…

健さん 海外か？何か面白そうでワクワクしてくるな。賛成 大賛成！ もろ手を挙げて賛成です。

ホツケさん (春子に) チュウトウ？

春子 …イラク。

ホツケさん イラク！ 戦争！ 爆弾おっかない！ (と舞台奥に逃げる)

モクさん そうだ！ 社員旅行で沖縄に行きましたよ。あのエメラルドグリーン

の海をもう一度みたいですね。

健さん 沖縄か。あの三線とかエイサーな。俺そっちの方がいい。

エリカ ホツケさんは？

ホツケさん …あのさ。あつたかい所に

ホツケつているの？

モクさん そうですすね、金魚みたいな色の、ついた魚はいますが、ホツケはちよつと…

ホツケさん じゃ、駄目だ。ホツケなかつたら父ちゃんも母ちゃんも悲しがるもん…。それじゃ皆さん、お世話になりました。(一人ひとり札をして上手に去っていく)

須磨子 …(舞台の中央奥を見つめる)：ホツケ、父ちゃんと母ちゃんが来てるぞ。

須磨子、ホツケを追っかけ連れ戻す。舞台中央奥ボンヤリと明るい。

ホツケさん 本当？ (よく見る) あつ、死んだばあちゃんも今日はいる。

須磨子 ホツケ、3人に聞いてみれ。

ホツケさん うん。(奥に)

ホツケさん、3人に語りかけている。一同にも3人が見えているようだ。

ホツケさん ホツケお前にはすまないけどなあ、ホツケばかりで飽きちゃつたか

ら、金魚みたいな色のついた魚も食いたいって言ってる。(奥に向かつて) 調子いいんだから。いつからそんなに口肥えたのよ。メッ。…みんなと一緒にいっていいって。(喜んで一同のところに戻る)

エリカ じゃ、これで決りだね。

一同うなずき、上手方向に旅立とうとする。

ヤツチャンの声 (下手の奥から) みんな待つて。

春子 ヤツチャンだ。

健さん (下手奥をすかしてみて) ヤスがギターを抱えて走ってくるぞ。

ヤツチャン (到着して息をさらししている) 間に合つてよかった。

春子 また会えてよかった。

ヤツチャン この2日間、いっぱい考えた。みんなのこと、これからのこと…でも、オイラにはまったく何もわからない…でも最後に会いたかった。「ありがとう」つて…言いたかった…。まだ教授

みたいになうまく喋れないけど…。また、歩いて行くだらう

どこまで行けるのか分らないけれどひとり歩いて行くだらう

弱い者たちが押しつけられるこの時代を突きぬけて

弱い者たちが押しつけられるこの時代を突きぬけて

歌の途中からホームレスの面々、次の土地を目指し思いを振り切り去る。ヤツチャンは気づくが最後まで歌い続ける。

ヤツチャン (空に向かつて) 教授！ 生きていれば、いつかはわかるんだね！

舞台にはギターをかかえたヤツチャンが1人残る。

音楽

幕

※劇中歌「それぞれの道」は長野県辰野町在住の歌手三浦久さん(作詞・作曲)の歌を使わせていただきました。

わからなくなつたらみんなの事思い出す。…一生懸命練習してきたんだ。「それぞれの道」みんなに聞いてもらいたくつてさ。

健さん (うれしそうに) そうか。えらいぞ。歌っていうものには弟子や師匠なんて関係ないんだ。だれかに向かつて

本当に歌いたいと思つてきたときに本物の歌が生まれてくるんだ…。そうか、

ヤスはおれよりも早くその事に気づいた。えらいぞ！ 歌え。聞いてやつから。なあみんな。皆を見る、住人たち頷く

ヤツチャン うん。(一生懸命にギターを弾き一場の続きを歌い始める)

…もうこれ以上生きていけない死んでしまいたいと思つた

納屋にあったロープを手に

裏山の小道を上つた

「やつちゃん やつちゃん」

母の声が遠くから聞こえてきた

ロープから手を放し声のほうを見つと息を切らせ走ってくる母が見えた

母は僕にしがみついて言った

「やつちゃん こめん

お母さんが悪かつた

もう学校なんか行かなくてもいいよ」

母と僕は抱き合つて泣いた

その頃からよく吐寒気や目眩に襲われるようになった

変な声が聞こえてきたり

道行く人が狐に見えたりした

あれから8年入院繰り返し

いまはデイケアに通つている

友達もできたし

片思いだけれと好きな人もいる

今はもう恨んではない

2年前に死んだ父のことも

孝一や勲のことだつて

恨んではない

振り返るとなつて長い間

回り道をして来たんだらう

でも僕は悔やんではない

人にはそれぞれの道がある

山を削つて一直線に進む

高速道路もあれば

土埃舞い上がる人気のない

細い裏道もある

僕の道はあの裏山の

曲がりくねつた小道

これからも僕は僕の道を

全リ演・東西合同総会 レポート

今夏8月20日(金)、第9回全日本演劇フェスティバルINくわなの開催に合わせ、フェスティバルに先立って東西合同の総会が桑名市民会館会議室で開かれました。

1997年8月のフェスティバルIN K O B E以来の東西合同総会でした。

東会議から24集団、西会議から15集団、友好劇団から3集団と個人加盟の方々、40集団を超え50人を上回る参加者数で総会を成功させることができました。なお、この合同総会に先立ち東西別の総会ももたれました。合同総会は東西議長団を代表して藤沢薫(劇団京芸)議長が開会宣言。今の日本は文化の中央集権国家に成り下がっている。鳴りもの入りで宣伝された地

域振興の施策も失敗に終わった。東京一極集中がなかなか崩れない。一方、地域から文化をと、地域に根づいた活動も芽生えて来ている。

そういう点では、今は歴史の転換点に立っている。各集団ではぜひ討論をしてほしい。と結びました。

フェスティバル実行委員長の加藤武夫(劇団すがお)さんから、フェスティバル参加者数の報告があり、目標300人だったが、310人前後と目標を超えそうだが、とのことで、実行委員会へのねぎらいの盛大な拍手がありました。栗木英章(劇団名芸)実行委員会事務局長の事務連絡があり、参加者の自己紹介になりました。年齢紹介のおまけつきで。

そして、こばやしひろし(劇団はぐるま)議長より問題提起の発言、「全リ演はどこへ?」と題して、全リ演と

近代演劇の歴史をひもときながら、全リ演運動は60年「安保」後の政治的な歴史の逆行の危機感の中から生み出されてきた。その後、社会状況の変化(大衆社会化)により価値観の多様化に至り表現の多様化をもたらした。が、今日「リアリズムへの回帰」が言われ始めている。今日に迫る新しいリアリズムはどうしたら生まれるのか? シェイクスピアも「演劇は現実の反映」と言っている。「現実を歴史的に具体性において表現する」ということは、さらに重要である。」(大橋喜一)に同感である。10年後を見据えた、「全リ演」の名称「変更」のこと

も含め21世紀を迎えた我々の演劇運動はどうあるべきか、を大いに論争しようと思えました。この後、「演劇会議」の後藤陽吉編集長(青年劇場)が「演劇会議」の内容充実と購読者拡大のアピールを行い

ました。続いて、城谷護全リ演事務局長(京浜協同劇団)から活動報告と今回の方針が提起されました。全リ演の中でも近年、国際交流が盛んになってきていることが報告され、その点でも世界に通用する「名称」を議論しようとの提起もされました。

当面することでは、「演劇会議」を活用し、購読者を増やし加盟劇団を増やそう。八雲国際演劇祭(11月3日から7日・鳥根県しいのみシアター)、第21回北海道演劇祭(10月9日から11日・小樽市)を全リ演の仲間の支援で成功させよう、と訴えました。

そして特別報告に入り、各地で頑張っている集団を代表して「劇団未来(近畿B)」、「ドラムシアターども(北海道B)」、「劇団あしぶえ(山陰)」、「劇団ひの(関東)の集団から笑いあり、涙ありの実践報

告がありました。

【討論内容は割愛】

所定時間の3時間が瞬時に過ぎ、会を開めるにあたって、猿渡公一議長(福岡現代劇場)が、困難な状況は多々あるが、可能性も見えて来ているので10年後の全リ演のあり方を見据えて今を頑張ろうとの意味あいのあいさつがあり、散会しました。

最後になりましたが、東西合同総会の議長団は中野健議長(劇団支木)と畑野稔西会議運営委員(劇団こじか座)のお二方でした。

お疲れさまでした。
(文責:郡司勇(東京芸術座)住所変更)

(劇団上野市民劇場)
〒518-0873

三重県伊賀市上野丸之内
共同ビル3F

TEL(0595) 231-5252 FAX(0595) 2416444

役員は全員再選

全リ演東西の各総会で選出された役員は全員留任となりました。

東会議議長団 こばやしひろし(はぐるま)

後藤陽吉(青年劇場)

中野 健(支木)

西会議議長団 猿渡公一(福岡現代劇場)

熊本 一(劇団大阪)

城谷 護(京浜)

事務局長 熊本 一(劇団大阪)

次長 後藤陽吉(青年劇場)

「演劇会議」編集長 境野修次(石るつ)

次長 赤松比洋子(きづがわ)

入会・退会

復帰 人間座

退会 テアトルハカタ

入会 飯島けい子さん

東の総会で、個人会員として静岡県の飯島けい子さんが承認されました。

海外から「演劇会議」注文

「演劇会議」および全リ演のホームページを、仙台小劇場の石垣政裕氏らの尽力で開設しましたが、反響がはじめています。国内で見知らぬ人3人から「演劇会議」の注文がありました。今度アメリカから申込がありました。アメリカ留学中の大阪出身の学生で、演劇のプロデュサーの勉強しているとのこと。

なお、ホームページは「全リ演」でも「演劇会議」でも検索できます。のぞいてみてください。

●「演劇会議」会計担当の変更

数年間、会計を担当してきた室野定子に替わって、同じ京浜の瀬谷やほ子が10月から担当します。

飯島けい子さんの住所

〒438-0201

静岡県磐田郡竜洋町中島1-20-27
TEL/FAX 0538-661-7586

2004年11月中旬以降の公演

●劇団通信の中から11月中旬以降の公演をまとめましたので、都合のつく方はぜひ観劇しあってください。
●今後、公演予定については、劇団通信とは別にして、公演日・会場・タイトル・作・演出をはっきりと書いてお送りください。

劇団演劇街	11/13・14・20・21	演劇街稽古場	手袋をはめたネコ	広島友好/作 柳沢悟/演出
青年劇場	11/20～12/5	青年劇場稽古場	晩春騒夜	円地文子/作 松波喬介/演出
劇団海鳴り	11/21	紋別市文化会館ホール	犬一結婚申し込み	チェーホフ/作 畑口始/上演台本・演出
劇団川崎演劇塾	11/26～28	横浜相鉄本多劇場	父と暮らせば	井上ひさし/作 神山昭/演出
劇団四代会	11/27～28	新開地まちづくりスクエア	振り向きざまに全力疾走	藤田るみ/作・演出
劇団すがお	11/27・28日	桑名市コミュニティプラザ	サンタクロースが歌ってくれた	成井豊/作 村井伸二/演出
関西芸術座	12/1～5	関芸スタジオ	芒ノ原宇言祝ギヤ	坂本真直/作 榎本潔/演出
青年劇場	12/23	新宿・四谷区民ホール	17才のオルゴール	町田知子/原作 森鷗外/脚本 畑口始/演出
劇団名芸	1/20～22	天白文化小劇場	かげおくり	栗木英章/作 片野耕治/演出
青年劇場	2/10～13	青年劇場稽古場	気配	アレヒト/作 板倉哲/演出
関西芸術座	3/2～6	関芸スタジオ	戦争童話集	野坂昭如/作 山本雄史/脚色 松本昇三/演出
青年劇場	3/25～29	シアターサンモール	3150秒と、少し	藤井清美/作・演出
名古屋演劇集団	4/16～17	名古屋市西文化小劇場	太鼓たたいて苗ふいて	井上ひさし/作 土屋たかし/演出

編集後記

☆今号は、108頁となり、100頁を越えた。次号は90頁台に納めます。
☆この数年で250近い読者の減少である。財政窮状態は続いています。誌代滞納劇団は1日も早い克服を！
☆編集部としては企画の工夫に一層の努力をしていく。
☆今号は、誌面の都合上、劇団通信を大幅に整理した。劇団通信は、500字を原則としてください。あくまでも通信という概念を理解していただくたい。
☆さらに、劇評についても1000字を原則としてくだ

さい。各劇団は依頼者とその旨、徹底させてほしい。
☆栗木英章氏のフェスinくわな裏バナシ(事務局から)大幅カットした。例えば、1.まざルーズは、回答の日限を守らない、当日、キャンセル連絡なしの不参加、など、事務局の苦言。苦勞話。演劇関係者の欠かん。などなど。
☆「月は何処ぞ雨如何に」の作者、安念智康氏は劇団ドラマシアターとも、所属。住所は江別市高砂町37-9。(境野)
・次号(3月号)の締切は1月20日です。
[原稿の送付について]
戯曲などは作品ができたとき、にすぐ送ってください。また、劇評なども各劇団で依頼して上演が終わり次第送ってください。
①戯曲は、境野修次または、栗原省へ。
②劇団通信および舞台写真は、(株)シイム内 石田章へ
③それ以外の原稿は、必ず、東会議は境野修次、西会議は赤松比洋子に送ること。
※原稿は、メールまたはフロッピーを送っていただければ効果もよく助かります(その場合は念のため原稿のコピーもあわせてお送りください)。

後藤 陽吉
〒184-0014
小金井市貫井南町5-12-13
TEL&FAX 0423-81-1590

栗原 省
〒643-0111 和歌山県
有田郡吉備町庄684-32
TEL 0737-52-5963
FAX 0737-52-6099

境野 修次
〒272-0136
市川市新浜1-235-103
TEL&FAX 047-356-7217

赤松比洋子
〒663-8141
西宮市高須町1-1-11-859
TEL&FAX 0798-45-3307

(株)シイム
〒547-0027
大阪市平野区喜連5-1-45
TEL 06-6707-3833
FAX 06-6799-3833
E-mail
shimu @ lime.ocn.ne.jp

演劇会議 116号 2004年11月10日発行 定価 700円(送料240円)
編集長 後藤陽吉
編集委員 境野修次 よしだはじめ 郡司 勇 栗原 省 赤松比洋子 楠本幸男
発行所 〒212-0052 神奈川県川崎市幸区古市場2-109 京浜協同劇団
TEL/044-511-4951 FAX/044-533-6694

誌代振込先(郵便振替)口座番号 00200-4-78639
全日本リアリズム演劇会議事務局(〒212-0052 神奈川県川崎市幸区古市場2-109 京浜協同劇団・城谷護)